

# 01

**題材名** 「じゅんばんにならぼう」「つづけてみよう」（第1時／全1時間）

- 目標** 自分が聞きたいことを集中して聞くことができる。  
 言葉には事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。  
 自分が聞きたいことを粘り強く集中して聞き、学習課題に沿って声を掛け合おうとすることができる。

**領域等** A 話すこと・聞くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 2年生の国語の学習の見通しをもたせる。 ・こくご上の扉のたんぼの詩を範読する。 2回目は教師が1文を読んだあとに続けて児童に読ませる。 ・詩を読んだ感想や絵を見た感想を発表させる。 ② 題材名「じゅんばんにならぼう①」を黒板に書く。	・詩の範読を聞く ・詩を読む ・本時の目標を知る ・声を合わせて目標を読む
展開 38分	③ 本時の目標を黒板に書く。 おはなしをしつかりときけるようになるろう。 ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 声を合わせて読ませる。 ④ 正確に行動できるように話を聞かせる。◎ ・P10を範読する。 ・お話を正確に聞くために大切なことは何かを質問する。 机やイスを動かすか廊下へ移動するなどして安全に行動ができるスペースを確保する。 ・「今から先生の前にお誕生の早い人から、1月から12月の順番で並びましょう。」○ 誕生日が早い人から教師の前へ並ばせる指示を出す。 人数が多い場合は並ぶ列数やグループを工夫する。 上手に並べたか振り返りをさせる。 ・「友達と協力して並びためには何が大切でしょうか。」 友達と協力して並びためには何が大切かを考えさせる。 ・「もう一度、先生の前に並んでください。先ほどよりも上手に並びましょう。次は名前のあいうえを順で並びましょう。」○	・ワークシートに書く ・教師のあとに正しい発音で詩を読む ・挿絵を見て感想を発表する ・範読を聞く ・教師の話聞く時に大切なことを発表する ・予想される回答 先生が話をしているときはしゃべらない 先生の方を見て話を聞く ・友達と協力するために大切なことを発表する ・友達に何月生まれ？とお互いが積極的に質問し合う
終 2分	⑤ つづけてみよう。 ・ひとこと作文に取り組ませる。 ・P12を読む ・心に残ったことや発見したことを一言で書き伝えあう。 ・第1回目は書くことに慣れさせるため、今日の国語の時間に先生の前にならんだことを書かせる。 ⑥ 次時の予告をする。 「次回はふきのとうを学習します。」 ワークシートは回収しておく。	・一言作文をワークシートに記入する ・次時の見通しを持つ

## 指導のポイント

- ・「聞く」の学習は、補習授業校では特に難しいため、聞く態度の育成と日本語を通して、児童同士のコミュニケーションが図れる学習の展開がポイントである。
- ・一言作文は、年間を自分のまわりの出来事や見つけたもの、興味関心が高い事象について、記入させるが、補習授業校では、2年の前半では、授業の感想や学習で取り組んだ内容を記入させても良い。

## 板書例

① 題材名「じゅんばんにならぼう」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・「おはなしをしっかりときけるようになろう。」
  - ・ワークシートを配付し、書き込ませる。
  - ・教科書P. 10を教師が読む。

- ⑤ 一言作文について説明する。
- ・教科書P. 12を教師が読む。
  - ・2年生では「出来事」や「見つけた物」を書いてもらいます。
  - ・今日は国語の時間で学習したことをワークシートに書いてみましょう。

ひょうごのこどもたち

じゅんばんにならぼう  
おはなしをしっかりときけるようになろう

- ⑥ 次時の予告をする。
- 「次の時間は、ふきのとうを学習します。」  
「ふきのとうとは何でしょうか。この国にあるのでしょうか」  
楽しみにしてください。



じゅんばんにならぼう

W  
01

二ねん「くみ

なまえ「

」

がくしゅうのめあて

お	き
は	け
な	る
し	よ
を	う
し	に
つ	な
か	ろ
り	う
と	。

ひとことさくぶんをかきましょう

四	け	ん
月	ん	し
十	ば	ゆ
五	ん	う
（	ハ	を
水	ー	し
）	モ	た
	ニ	。
	カ	
	の	

# 02

題材名 「ふきのとう」①（第1時／全3時間）

目 標 大まかな内容をとらえ、簡単な感想をもつことができる。

領域名 C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導	① 題材名「ふきのとう」を黒板に書く。	
入	② 本時の目標を黒板に書く。	
10	「ぜん文をよんで、はなしのあらましをつかもう。」	
分	・ ワークシートを配布し、目標を書き込ませる。	・ 本時の目標を知る。
	③ ふきのとうについて、春の訪れを知らせる植物であることを知らせる。	
展	・ 教師が全文を読む。	・ 本文を音読する。
開	「みんなで大きな声で読みましょう。」	
33	全員で読む。1文ずつ交代で読む。	
分	④ 登場人物を確認する。	・ 登場人物を考え、ワークシートに書く。
	・ ワークシートに、登場人物を書かせる。	
	⑤ 「このお話で、おもしろかったところを、ワークシートに書きましよう。」	・ おもしろかったところを、ワークシートに書く。
	「書けたら、みんなに教えてあげましよう。」	・ 書いたことを発表する。
終	・ 発表を聞き、それぞれの児童が伝えたかった内容に思いを巡らせるよう指示をする。	・ 友達の発表を聞き、感じたこと、分かったことを確かめ合おう。
2	「○○さんの発表を聞いて、感じたことや分かったことを述べてみましよう。」	
分	⑥ 「ふきのとうを、おうちの人に読んで聞いてもらいましよう。」	・ 家で音読する。

## 指導のポイント

- 題名読みについて
  - ・ 題名は、話の内容を表すことが多い。題名を手がかりにして、内容を想像させてから学習に入ると、意欲や関心が増す。「ふきのとうって知っているかな。」と問いかけ、早春にようやく顔を出すふきのとうについて説明し、イメージをもたせた上で音読に入る。
- 教師の範読について
  - ・ 教師の範読の際には、どのように聞くか指示しておき、児童の意識付けを図る。  
例 「文字を指で追いながら」  
「漢字にふりがなを付けながら」  
今回は「挿絵を見ながら聞きましょう。」が良い。
- 登場人物の確認について
  - ・ 出た順番は、朝の光（お日さま）・竹やぶ・竹のはっぱ・雪・ふきのとうが、位置関係では上から下になっている。最後に登場する南風は、南からやってくる。
- 宿題について
  - ・ 音読の宿題では、音読カードをもたせるか、音読した数だけ○印を題名の下に書かせると、児童の意欲につながる。

## 板書例

- ① 題材名「ふきのとう」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

③ ふきのとうについて、春の訪れを知らせる植物であることを知らせる。  
教師が全文を読む。  
全員で読む。  
1文ずつ交代で読む。

ふきのとう

ぜん文をよんで はなしの あらましを つかもう

ふきのとう・・・はるのしよくぶつ

○このおはなしには、だれがでてきたのでしょうか。

お日さま  
竹やぶ  
春風

竹のはっぱ 雪 ふきのとう

○このおはなしで、おもしろかったことをはつぴょうしよう。

- ・春がきて、みんなよろこんでいるところ
- ・春風がふくと、春がくるところ
- ・竹やぶがおどったり、雪が水になるところ
- ・春風が、大きなあくびをするところ
- ・えが、あかるくなるところ
- ・ふきのとうが、かおを出すところ

- ④ 登場人物を確認する。
  - ・出た順に、位置関係が分かるように黒板に整理して書く。

⑤ この話で、おもしろかったところを、ワークシートに書かせる。  
何人かに発表させ、感想を話し合わせる。  
「〇〇さんの発表を聞いて、思ったことを発表しましょう。」

ワークシートへの書き込みが進まない児童が多い場合は、早く思いついた児童（1人）に発表してもらい、考えるヒントとなるようにしてもよい。

⑥ 「ふきのとうを、お家の人に1日1回読みましょう。」

二年 組 名前( )

あそび

--

このおはなしには、だれがでてきたのでしょうか。


このおはなしで、おもしろかったところをいってほしい。


ふきのとう①(記入例)

二年 組 名前( )

めあて

せん文をよんで、はなしのあらましをつかもう。

このおはなしには、だれがでてきたのでしょうか。

お	日	さ	ま										
				竹	や	ぶ							
						竹	の	は	っ	ば			
								雪					
									ふ	き	の	と	う
		春	風										

このおはなしで、おもしろかったことをはびようしよう。

春	が	き	て	み	ん	な	よ	ろ	こ	ん	で	い	る
春	風	が	ふ	く	と	、	春	が	く	る	と	こ	ろ
竹	や	ぶ	が	お	ど	っ	た	り	、	雪	が	水	に
な	っ	た	り	、	ふ	き	の	と	う	が	ふ	ん	ば
っ	た	り	す	る	と	こ	ろ						



# 03

題材名 「ふきのとう」②（第2時／全3時間）

目標 会話文を動作化したり，読み方を工夫したりして音読することができる。

領域名 C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導	① 題材名「ふきのとう」を黒板に書く	
入	② 本時の目標を黒板に書く。	
10分	「竹のはっば」「ふきのとう」「雪」になってよもう。」 ・ ワークシートを配布し，目標を書き込ませる。	・ 本時の目標を知る。 ・ 目標をワークシートに書く。
展	③ 教科書の5～7ページを読む。 ・ 教師が読む。	
開	「みんなで大きな声で読みましょう。」全員で読む。	・ 本文を音読する。
33分	④ 会話文を，赤で囲ませる。 ・ 1会話を1つのワクで囲ませる。	・ 教科書に赤鉛筆で記入する。
分	⑤ どんな様子で言っているか，分かる言葉を見つけさせる。 ・ ワークシートに，会話文とその様子を書き込ませる。	・ どんな様子か考えて，ワークシートに書く。
終	⑥ グループで，役割を決め音読させる。 ・ 4人1組か3人1組になって，「竹のはっば」「ふきのとう」「雪」地の文を役割を決めて読むようにする。	・ 書いたことを発表する。 ・ 役を決めて音読する。
末	「友達のよかったところを，ワークシートに書きましょう。」	・ よかったところをワークシートに書く。
2分	「書けたら，みんなに教えてあげましょう。」 ・ 発表を聞き，それぞれの児童が伝えたかった内容に思いを巡らせるよう指示する。	・ 感じたことや分かったことを確かめ合う。

## 指導のポイント

### ○ 役割読みについて

・ 役割読みや動作化によって，登場人物になりきることで，場面の様子を想像させたい。動作化には，次のような効果がある。

簡単な振り付けをすることで，理解を深めることに役立つ。

動きをつけることで，意欲を継続させることができる。

「竹のはっば」・・・小さく震えながら「さむかったね。」と話すなど，児童によっていろいろな読み方があると楽しい。ここでは，3人1組になって音読する。1人が地の文を読みあとの2人が竹のはっばになって，会話文を読む。

「ふきのとう」・・・ふきのとうが，どのような状況にいるのかを考えさせたい。冷たく暗い雪の下から，明るくて暖かい地上に，一刻も早く出たいと，力を出してがんばっている様子を表現したい。

「雪」・・・「ごめんね。」下を向く，「とおくへ～」上を向く，「～あたらない。」下を向く。など「雪」の視線を考えながら動作化するとよい。

### ○ 音読の工夫を板書することについて

・ 「よかったところ」を発表させる中で，「竹のはっば」「ふきのとう」「雪」のそれぞれ工夫する点を拾い出して，黒板に書いてまとめる。

## 板書例

- ① 題材名「ふきのとう」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 教科書の15～17ページを読む。  
教師が全文を読む。  
全員で読む。

ふきのとう

「たけのはっば」「ふきのとう」「雪」になって  
よもう

◇かいわの文を、赤でかこみましよう。

○どんなようすで、いつているでしょう。

竹のはっば ささやいて

「さむかったね。」

「うん、さむかったね。」

ふきのとう ふんばって

「よいしょ、よいしょ。おもたいな。」

「よいしょ、よいしょ。外が見たいな。」

雪 さんねんそう

「ごめんね。」

「わたしも、早くつけて水になり、とおくへいつてあそびたいけど。」

「竹やぶのかげになって、お日さまがあたらない。」

◇グループにわかれて、やくわりをきめよみましよう。

・小さいこえで、ふるえながらいえていた。

・力をだして、がんばっていえていた。

・あやまったり、上をむいていえていた。

- ④ 会話文を「赤」で囲ませる。
  - ・地の文と区別しやすいようにさせる。

- ⑤ どんな様子で言っているか、分かる言葉を見つけさせる。
  - ・ワークシートに書かせ、発表させる。

- ⑥ グループで、役割を決め音読させる。
  - ・友達の良かったところを発表させる。





# 04

題材名 「ふきのとう」③（第3時／全3時間）

目標 会話文を動作化したり，読み方を工夫したりして音読することができる。

領域名 C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 10 分	① 題材名「ふきのとう」を黒板に書く ② 本時の目標を黒板に書く。 「「竹やぶ」「お日さま」「春風」になってよもう。」 ・ ワークシートを配布し，目標を書き込ませる。	・ 本時の目標を知る。 ・ 目標をワークシートに書く。
展 開 33 分	③ 教科書の18～22ページを読む。 ・ 教師が読む。 「一文ずつ交代で読みましょう。」 ④ 会話文と「ゆれる～」を，赤で囲ませる。 ・ 1会話を1つのワクで囲ませる。 ⑤ どんな様子で言っているか，分かる言葉を見つけさせる。 ・ ワークシートに，会話文とその様子を書き込ませる。	・ 本文を音読する。 ・ 教科書に赤鉛筆で記入する。
終 末 2 分	⑥ グループで，役割を決め音読させる。 ・ 4人1組か3人1組になって，「竹やぶ」「お日さま」「春風」地の文を役割を決めて読むようにする。 ・ 「ゆれる～」の部分を情景が分かるように読むようにする。 「友達のがよかったところを，ワークシートに書きましょう。」 「書けたら，みんなに教えてあげましょう。」 ・ 発表を聞き，それぞれの児童が伝えたかった内容に思いを巡らせるよう指示する。	・ どんな様子か考えて，ワークシートに書く。 ・ 書いたことを発表する。 ・ 役を決めて音読する。 ・ 体の表現も含める。 ・ よかったところをワークシートに書く。 ・ 感じたことや分かったことを確かめ合う。

## 指導のポイント

○ 音読の工夫について

・ イメージを音読で表現するには，次のことの組み合わせによってできることを知らせる。

- 1 声の強さ 強く ふつう 弱く
- 2 読む速さ 速く ふつう 遅く
- 3 間 あける あけない
- 4 声の高さ 高く ふつう 低く
- 5 声の大きさ 大きく ふつう 小さく

「竹やぶ」・・・「すまない」は，雪の「ごめんね」と比べて男性的である。下を向いて謝っていることや，春風が来ないと上を見上げることを押さえる。

「お日さま」・・・「わらいました」や，せりふから，お日さまのおおらかさ優しさを，感じ取らせたい。

「南風」・・・大きなあくびやせのびから，のんびりした様子が読み取れる。「大きなあくび」の体言止めに注意して，間の空け方などを考えさせ，音読できるようにしたい。

「春風は、むね いっぱいに いきを すい、ふうっと いきを はきました。」から，冬の冷たい空気を吸い込んで，春の暖かい空気を力強くはき出している。

「あくび」「せのび」と同様に，動作化を取り入れながら感じ取らせたい。

## 板書例

- ① 題材名「ふきのとう」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 教科書の16～22ページを読む。  
教師が全文を読む。  
一人ずつ交代で読む。

ふきのとう

登場人物のきもちやじょうけいがわかるように  
よもう

◇かいわの文を、赤でかこみましよう。

○どんなようすで、いつているでしよう。

竹やぶ さんねんそう

「すまない。」

「わたしたちも、ゆれておどりたいゆれておどれば、雪に日があたる。」

「でも、春風がまだこない。春風がこないとおどれない。」

お日さま わらいました

「おや、春風がねぼうしているな。竹やぶも雪もふきのとうも、みんなこまっているな。」

「おうい、春風。おきなさい。」

春風 大きなあくびせのびして

「や、お日さま。や、みんな。おまちどお。」

◇グループにわかれて、やくわりをきめよみましよう。

- ・下をむいてあやまっていえていた。
- ・わらいながらやさしくいえていた。
- ・大きなあくびやせのびしていえていた。

- ④ 会話文を「赤」で囲ませる。
  - ・地の文と区別しやすいようにさせる。

- ⑤ どんな様子で言っているか、分かる言葉を見つけさせる。
  - ・ワークシートに書かせ、発表させる。

- ⑥ グループで、役割を決め音読させる。
  - ・友達の良かったところを発表させる。



# ふきのとう ③ (記入例)

二年 組 名前( )

めあて

「竹やぶ」「お日さま」「春風」になってよもう。

どんなようすで、いつているでしょう。

竹	や	ぶ		
---	---	---	--	--

お	日	さ	ま	
---	---	---	---	--

春	風			
---	---	--	--	--

上	を		見	上	げ	ま	す
ざ	ん	ね	ん	そ	う	で	す
わ	ら	い	ま	し	た		
大	き	な		あ	く	び	
せ	の	び	し	て			

グループにわかれて、やくわりをきめよみましょう。

下	を	お	い	て	、	あ	や	ま	っ	て		い	え
て	い	た	。										
わ	ら	い	な	が	ら		や	さ	し	く		い	え
て	い	た	。										
大	き	な	あ	く	び	を	し	て		せ	の	び	を
し	て	い	え	て	い	た	。						



# 05

**題材名** 「図書館たんけん」（第1時／全1時間）  
**目標** いろいろな本があることを知り、読書に親しみをもつ。  
 進んで読書に親しむ態度を育成する。

**領域等** 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「図書館たんけん」を黒板に書く。 ・「図書館へ行ったことがある人はいますか？」 いる場合：いつ、どこで、どんな本を読んだのか いない場合：図書館はどんなところだと思いますか ・ワークシートを配る。	・質問に答える
展開 38分	② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ほんをすきになろう</div> ③ P28を読む。 吹き出しの部分に留意をして範読する。 男の子 女の子 子供らしく読む。	・本時の目標を知る ・声を合わせて目標を読む ・目標をワークシートに書く ・教師の範読を聞く ・ワークシートに書く
終 2分	④ 「図書館には、どんな本があるのでしょうか？」◎ 挿絵を見て考えさせる ・なすの育て方の本はどこにあるのでしょうか？ ・虫の名前が分かる本はどのにあるのでしょうか？ ・浦島太郎の本はどこにあるのでしょうか？ ・挿絵を見て本の仲間分けをしていることに気付かせる。 ⑤ 「最近読んだ本の中で皆さんに紹介したい本がある人はいますか。 あとでどの本が読みたくなったのか聞きたいと思います。」 ※⑤に変えて浦島太郎などの本があれば朗読してあげて良い 朗読のあとにどんなところが面白かったのかを発表し合う○ ・お友達が紹介をした本の中で読みたくなった本はありましたか？ ⑥ 「最後にワークシートに漢字を練習しましょう。」 ・児童に背を向け、書き順に注意をして、黒板に書く。 図 方 分	・教師の質問に答える ・面白かった本を紹介する。 ・どこが面白かったのかを教える ・腕を上げて一度、教師の腕の動きをまねしながら空中で書く ・ワークシートへ漢字を書く
	⑦ 次時の予告をする。 「次回は『春がいっぱい』を学習します。」	・次時の見通しを持つ

## 指導のポイント

- ・ 図書館にはたくさんの本がある所であることを理解させる。
- ・ 本を読むことは楽しいことであることを共有させる。
- ・ ワークシートの□ますを利用して枠いっぱいに大きく漢字を書かせる。。
- ・ 漢字を練習する時は静かな環境で取り組ませる。

# 板書例

① 題材名「図書館たんけん」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
・「ほんをすきになろう」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。

④ P28. 29の挿絵を見て、次の本がどこに整理されているか発言させる。  
なすの育て方、虫の名前、浦島太郎

⑤ 読んだ本の中で面白かった本を紹介させる。どんな所が面白かったのかを言わせる

分 方 図

かんじをれんしゅうしましょう

本をしようかいしましょう

図書館にはどんな本があるのでしょいか

ほんをすきになろう

図書館たんけん

⑥ ワークシートへ記入させる

⑦ 次回は「春がいっぱい」を学習します。  
日本では春が1番よい季節と言われています。  
春になるとどんな楽しいことがあるのでしょうか？





# 06

**題材名** 「春が いっぱい」 (第1時/全1時間)  
**目 標** 言葉には事物の内容を表す働きがあることに気づく。  
 春を感じる言葉を探し経験を文章に表す。  
**領域等** 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 5 分	① 題材名「春がいっぱい」を黒板に書く。 ・補習校の国や地域によって春の季節が感じられない場合は四季についてを説明する。 ・ワークシートを配る。	
展 開 38 分	② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">きせつのことばをさがそう</div>	・本時の目標を知る ・声を合わせて目標を読む ・目標をワークシートに書く ・かたばみ
	③ P30・31の挿絵を見させ、草花を1つずつ読み上げる。 「日本に春が訪れると咲く花や小鳥、虫などを知りましょう。」 教師が一つ一つ読み 続けて児童に大きな声で読ませる。	・よもぎ・さくら・うぐいす ・れんげそう・たんぽぽ ・なの花・ひばり・てんとう虫 ・みつばち・もんしろちょう ・すみれ
	④ 「絵を見て、春のなると見ることができると花や虫などをワークシートに書きましょう」◎	・ワークシートに書く
	⑤ P31下の「はながさいた」を教師が一度、朗読する。 2回目は教師の範読あと(文節)に児童に読ませる。	・大きな声で詩を読む
	⑥ P30下を読む。 「日本ではつくしを見つけると春が来たと思うようです。皆さんが春だなあと感じるものをワークシートに書きましょう。」○	・春を感じるものをワークシートへ書く。絵を描いても良い
終 2 分	⑦ ワークシートへ書いた内容を発表させる。	・友達の発表を静かに聞く。
	⑧ 「最後にワークシートに漢字を練習しましょう。」 ・児童に背を向け、書き順に注意をして、黒板に書く。	・腕を上げて一度、教師の腕の動きをまねしながら空中で書く ・ワークシートへ漢字を書く
	⑨ 次時の予告をする。 「次回は『きょうのできごと』を学習します。」	・次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

- ・日本の春を感じる例が教科書にのっているが、「つくし」や「よもぎ」など外国に馴染みがない動植物を詳しく説明すると学習時間が不足する。
- ・補習校がある国や地域で春を感じられるものについて考えさせ書かせる。
- ・漢字練習はワークシートの口ますを利用して枠いっぱい大きく書かせる。
- ・漢字を練習する時は静かな環境で取り組ませる。

## 板書例

① 題材名「春がいっぱい」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
 ・「きせつのことばさがそう」  
 ・ワークシートを配付し、書き込ませる。

④ P30の下を範読した後に春を感じるられるものをワークシートに書かせる。

⑤ P31下の「はながさいた」を教師が一度、朗読する。  
 2回目は教師の範読あと（文節）に児童に読ませる。

⑥ P30下を読む。春だなあと感じるものをワークシートに書かせる。

⑦ 書いた内容を発表させる。

春

かんじをれんしゅうしましょう

春をかんじるものを書きましょう

きせつのことばをさがそう

春がいっぱい

⑧ 漢字練習をさせる。

⑨ 次回は「きょうのできごと」を学習します。  
 今日の出来事を書くことを日記と言います。  
 日記の書き方を学びましょう。







# 07

**題材名** 「きょうの できごと」 (第1時/全1時間)  
**目 標** 言葉には経験したことを伝える働きがあることに気づく。  
 伝えたいことを明確にして書くことができる。  
 経験したことから進んで伝えようとする。

**領域等** 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 5 分	① 題材名「きょうのできごと」を黒板に書く。  ・ワークシートを配る。 ② 本時の目標を黒板に書く。 おもいだしてかこう。	・本時の目標を知る ・声を合わせて目標を読む ・目標をワークシートに書く
展 開 38 分	③ P32・33を範読する。 読む順番に気をつける。 ・上の段の3行を読む。 「眼鏡をかけた小学生はお母さんと何をしたのでしょうか？」  ・枠の中の日記の文を範読する。 「四月十八日、土曜日、はれ、夕方、おかあさんが、」  ・「とても上手に書けていますね。」  ④ 日記に書く内容について気付かせる。 「赤い双葉マークを読みます。」 読んだ後で質問する。◎○ ・したことは何でしょうか？ ・見たことは何でしょうか？ ・言ったことは何でしょうか？ ・思ったことは何でしょうか？  ⑤ 日記を書かせる。 「皆さんも日記を書いてみましょう。」○ 国語が朝の時間であれば、昨日の出来事を書かせて良い。	・質問に答える  ・範読を聞く  ・質問に答える  ・コロケを母親と作った ・母親がコロケを作っていた ・母親が僕と一緒に作ろうか ・ころもが・・・美味しかった
終 2 分	⑥ 「最後にワークシートに漢字を練習しましょう。」 ・児童に背を向け、書き順に注意をして、黒板に書く。  ⑧ 次時の予告をする。 「次回は『ともだちをさがそう』を学習します。」	・日記を書く 書く題材を見つける 今日や昨日の行動を思い出す ワークシートへ記入する  ・先生の腕の動きをまねしながら空中で書く ・ワークシートへ漢字を書く  ・次時の見通しを持つ

## 指導のポイント

- ・教科書の母親と一緒にコロケを作った日記を参考に自分が行ったことを思い出せることがポイントである。
- ・補習校の児童は国語力に差があるので自己の力に応じて文を書かせる。
- ・漢字練習はワークシートの口ますを利用して枠いっぱい大きく書かせる。
- ・漢字を練習する時は静かな環境で取り組ませる。

## 板書例

① 題材名「きょうのできごと」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・「思い出して書こう」
  - ・ワークシートを配付し、書き込ませる。

④ P32の下の赤い枠の項目を質問をしながら板書する

肉 曜 記 思

かんじをれんしゅうしましょう

思ったこと

言ったこと きいたこと

見たこと 見つけたこと

したこと

日記を書くときに大切なこと

思い出して書こう

きょうのできごと

⑥ ワークシートにかん字を書かせる

次回は『ともだちをさがそう』を学習します。  
遊園地にいるともだちを探すためにどんなことに気がつけたならば  
良いのかを学習します。

「ねん」「くみ

なまえ「

」

がくしゅうのめあて


思い出して、日記を書きましょう


かんじをれんしゅうしましょう

曜	思
肉	記

二ねん「」くみ

なまえ「

」

がくしゅうのめあて

思  
い  
出  
し  
て  
書  
こ  
う

思い出して、日記を書きましょう

			い	と	「	て	を		
			を	言	い	い	つ	夕	四
			す	つ	つ	た	く	方	月
			る	た	し	ら	つ	、	十
			こ	の	よ	、	て	お	八
			と	で	に	お	い	か	日
			に	、	つ	か	ま	あ	一
			し	ぼ	く	あ	し	さ	土
			ま	く	ろ	さ	た	ん	曜
			し	も	う	ん	。	が	日
			た	お	か	が	ぼ	コ	一
			。	て	。	、	く	ロ	
				つ	「		が	ツ	
				だ			見	ケ	

かんじをれんしゅうしましょう

曜	思
肉	記

# 08

**題材名** 「ともだちをさがそう」（第1時／全1時間）  
**目標** 言葉には経験したことを伝える働きがあることに気づく。  
 伝えたいことを明確にして書くことができる。  
 経験したことから進んで伝えようとする。

**領域等** 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「ともだちをさがそう」を黒板に書く。 ・ワークシートを配る。	・質問に答える
展開 38分	② 本時の目標を黒板に書く。 だいたいなことをおとさずに、話したり聞いたりしよう ・声に合わせて目標を読ませる。 ・ワークシートに書かせる。	・本時の目標を知る ・声を合わせて目標を読む ・目標をワークシートに書く
	③ P34を範読する。 ① を読む。P35の遊園地の挿絵を見させる。 ・「遊園地にどんな人がいますか？」	・教師の範読を聞く ・質問に答える。 ピエロ、アイスクリーム、カラス、風船、
	④ P36 ② 「遊園地で迷子になった人がいます。迷子のお知らせの聞く時はどんなことに気をつけたら良いでしょうか。」◎	・質問に答える。 年齢、男女、服装の特徴
	⑤ ③ 「迷子のお知らせを聞いてゆかさんを探しましょう。」 「迷子を探すために大切なことはワークシートにメモをしましょう。」○ 児童にはP36の迷子のお知らせを枠を見させるか教科書を閉じてお知らせを聞かせる。 教科書のQRコードで読みとりスマホで範読を流しても良い。  「P35を開いて迷子のゆかさんを見つけた人は手をあげて下さい」 ・見つけた人はどんなメモをしましたか発表させる。	・大切なことはメモをする ・教科書を閉じて聞くことに集中する  ・ゆかさんを探す ・メモしたことを発表する
終 2分	⑥ P37の挿絵を見させる。虫眼鏡マークの音のたかさを範読する。 ・あめ ・はし ・しろ をアクセントに気をつけて教師の発音の後に児童にリピートさせる。  ⑦ 「最後にワークシートに漢字を練習しましょう。」 ・児童に背を向け、書き順に注意をして、黒板に書く。 話聞 ⑧ 次時の予告をする。 「今回は『いなばの白うさぎ』を学習します。」	・アクセントに気をつけ発音する  ・先生の腕の動きをまねしながら空中で書く ・ワークシートへ漢字を書く  ・次時の見通しを持つ

## 指導のポイント

- ・ 迷子の情報を読むときはスムーズにゆっくりと読む。スマホを使用しても良い。
- ・ 大切なことはワークシートにメモをする指示を忘れない。
- ・ 日本語習得状況によりP35の挿絵を見させながらお知らせを聞かせても良い。
- ・ 時間に余裕があれば他に数名の迷子さがしをして良い。
- ・ 漢字を練習する時は静かな環境で取り組ませる。

## 板書例

① 題材名「ともだちをさがそう」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。

- ・「だいじなことをおとさずに話したり聞いたりしよう。」
- ・ワークシートを配付し、書き込ませる。
- ・教科書P34を教師が読む。

③ P35の絵を見て迷子のゆかさんをさがしましょう。

- ・探すのにだいじと思ったことはメモしましょう。
- ・教科書P36のお知らせを教師が読む。

⑦ かんじをれんしゅうしましょう。

ともだちをさがそう

だいじなことを おとさずに

話したり 聞いたり  
しよう

まいごをさがしましょう

だいじなことはメモをしましょう

かんじをれんしゅうしましょう

⑧ 次時の予告をする。

「次の時間は、いなばの白うさぎを学習します。」  
日本の古いお話です。楽しみにしててください。







**題材名** 「いなばの白うさぎ」（第1時／全1時間）

**目標** 人物の行動を中心に場面の様子を想像しながら読み聞かせを聞き、内容や感想について聞いたり話したりすることができる。

**領域名** C 読むこと 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

**学習の流れ**

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「いなばの白うさぎ」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「だれが何をしたかについて考えながら話をたのしもう。」 ・ ワークシートを配布し、目標を書き込ませる。	・ 本時の目標を知る。 ・ ワークシートに書き込む。
展開 33分	③ 教師が全文を読む。 「誰が何をしたか考えながら話を聞こう。」 ④ 登場人物とその行動について考えさせる。 「誰が出てきたか、何をしたかを考えよう。」	・ 音読を聞く。 ・ 登場人物とその行動について考える。
終末 2分	⑤ 感想を発表させる。 「感想を発表しよう。」 ⑥ 自分が住む地方の昔話を知らせる。 ⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は、『たんぼぼのちえ』を学習します。」	・ 感想を発表する。 ・ 自分が住む地方の昔話を知る ・ 次時の見通しを持つ。

**指導のポイント**

○ いなばの白うさぎについて

・ 因幡の白兔（いなばのしろうさぎ）は日本神話の一つ。「稻羽之素菟」（『古事記』）のうち素菟（素兔）が正しい。本居宣長は『古事記伝』で裸兔と記し、因幡の素兔はこのことを述べる時の名目であろうとしている。素をシロと読むことから白兔との俗説が広まった。素をシロと読むときは、「素人」のように「ただの」の意で白ではなく、また、素足、素手の場合は裸を意味する。

○ 本はともだちについて

・ カムイチカブ（神々の物語） 藤村 久和 著 手島 圭三郎 画 絵本塾出版

北海道で最も大きな鳥と呼ばれているシマフクロウを、アイヌの人たちは、島の王、神なる鳥と考えた。カムイチカブというアイヌ語は、神の鳥という意味で、このシマフクロウのことである。シマフクロウは、夜間に河をのぼってくるサケやマスを食べにするが、ときどき誤って、せっかくなつかまえた魚を爪からはずして落としてしまう。こうして、爪からはずれたサケやマスは、河原いちめん散乱する。人々は、それを神のめぐみとして受けとったのである。いっぽう、海でたいへん強いシャチは、ときどきクジラなどを浜へと追いこんで来た。この強いシャチもアイヌの人たちにとっては神だった。

シャチの群れのなかでも、特に強くまたりつばな王には、背びれに白い丸印があるとされている。

・ 昔ばなし 京都編

- ・ 右京太夫と平資盛・賀茂の赤い矢・吉野太夫の恋・峰延上人と大蛇・三十三間堂の棟木
- ・ 清水の三年坂・歌人茶屋の女たち・鬢掛け地蔵・濡髪童子・鳳潭和尚と土偶・祇王と仏御前
- ・ 足曳きの御影・光琳と竹の皮・百夜通い・蟹満寺の縁起・弘法大師と守敏僧都・恋塚寺
- ・ 猿寺のはなし・宗旦狐・うかれ猫・つかずの鐘・おかめ塚

## 板書例

- ① 題材名「いなばの白うさぎ」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 教師が全文を読む。  
「誰が何をしたか考えながら話を聞こう。」

いなばの白うさぎ

だれが 何をしたかについて 考えながら  
話を たのしもう

○だれが出てきたか  
八十人ものかみさま（兄さんたち）  
オオクニヌシ  
うさぎ

わに

○何をしたか  
兄さんたちが、オオクニヌシをこきつかった。うさぎが、わにをだましましたが、さいごに赤はだかにされた。

兄さんたちが、うさぎにしお水をあびて風に当たると良いと言ってからかった。

オオクニヌシは、川の水でよくあらい、がまのほをとってまきちらし、ねころがると良いと教え、白うさぎは良くなった。

◇かんそう

- ・ 兄さんたちは、いじわるだった。
- ・ むかし話は、おもしろいなあ。

◇じぶんのすむ地方のむかし話 ももたろう  
むかし、おじいさんとおばあさんとおったそう  
な。おじいさんは山へしばかりに、おばあさんは川へせんたくに行きました。

- ④ 登場人物とその行動について考えさせる。  
「誰が出てきたか、何をしたかを考えよう。」

- ⑤ 感想を発表させる。  
「感想を発表しよう。」

- ⑥ 自分が住む地方の昔話を知らせる。  
「自分が住む地方の昔話を知ろう。」

二年 組 名前( )

だれが出てきたか

何をしたか

かんそう

- ・
- ・

くらげのすむ地方のおかし話

だれが何をしたかについて考えながら話をたのしもう。

だれが出てきたか

八十人ものかみさま(兄さんたち)

オオクニヌシ

うさぎ

わに

何をしたか

- ・兄さんたちが、オオクニヌシをこぼつからた。
- ・うさぎが、わにをだましたが、やがてに赤はだかにされた。
- ・兄さんたちが、うさぎにしお水をあびて風に当たると良いと言てから  
かった。
- ・オオクニヌシは、川の水でよくあらい、がまのほをとりてまきわらし、  
ねころがるど良いと教え、白うさぎは良くなった。

かんそう

- ・兄さんたちは、いじわるだった。
- ・むかし話は、おもしろいなあ。

じぶんのすむ地方のおかし話

岡山けんのももたるう

むかし、おじいさんとおばあさんとおたそらうな。おじいさんは山へし  
ばかりに、おばあさんは川へせんとくに行きました。おばあさんが川で  
せんとくをしていると、ドンガラコ、ドンガラコと、大きなももがなが  
れてきました。

# 10

**題材名** 「たんぼぼのちえ／じゅんじょ」①（第1時／全3時間）

**目標** 全文を読み、初めて知ったことや不思議に思ったことなど感想を書くことができる。

**領域名** C 読むこと 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「たんぼぼのちえ」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「たんぼぼのちえのあらましをつかもう」 ・ワークシートを配布し、目標を書き込ませる。 ・たんぼぼについて知っていることを発表させる。	・本時の目標を知る。 ・ワークシートに書き込む。
展開 33分	③ 教師が全文を読む。 教師が読む。→一斉読みをする。 「1文ずつ列ごとに交代して読みましょう。」 ④ 形式段落に番号を打たせる。（全10段） ・教科書に直接書き込ませる。	・本文を音読する。 ・形式段落の番号を打つ。
終末 2分	⑤ 読んで思ったことを書かせる。音読するとき工夫して上手になったことも書かせる。 「感想を発表しよう。」 ⑥ 新出漢字「黄、色、太、毛、高、風、晴、多、黒」の学習をさせる。 ⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は、『たんぼぼのちえ』を学習します。」	・感想をワークシートに書く。 ・新出漢字を書く。 ・次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

○ 形式段落について

- ・段落とは「お話のまとまり」のことと説明し、文の始めが1マスあいているところを探させる。

○ たんぼぼについて、自分が見たことを発表させることについて、教師は観点を示しながら質問し、黒板にまとめる。

（観点の例）

いつ・・・季節や時期、時刻

どこ・・・公園や校庭

天気・・・晴れ、曇り、雨

様子・・・花が咲いていた、つぼみになっていた、綿毛ができていた

○ 題名読みについて

- ・児童に問題（課題）意識や目的をもたせて、本文を読ませたい。特に説明文の場合、内容（情報）どのように書かれているのか、説明の仕方を学ぶことが大切である。「何が」「どのように述べられているのか」を考えたときに題名読みが有効になる。

- ・題名とリード文を読み、たんぼぼに「ちえ」があることに興味をもたせ、たんぼぼは「どんなときに」「どんなちえを」はたらかせるのかを読み取ろうと、読みのめあてをもたせる。

## 板書例

- ① 題材名「たんぽぽのちえ」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 教科書を読む。
  - ・教師が全文を読む。全員で読む。
  - ・列ごとに交代して読む。

たんぽぽのちえ

たんぽぽのちえの あらましを つかもう

○たんぽぽについて知っていることをはなそう

・いつ 春

・どこ にわ こうえん

・てんき はれ

・ようす 花がさいていた わた毛ができていた

○たんぽぽの ようすは どのように かわっていくか

それは どうしてか

◇だんらくに ばんごうを つけましょう。

たんぽぽのちえのかんそう

・ちえが たくさん あるんだな

・たんぽぽが あつたら みたいな

◇かん字の れんしゅうを しよう

「黄」「色」「太」「毛」「高」「風」「晴」

「多」「黒」

- ④ 形式段落に番号を打たせる。
- ⑤ たんぽぽのちえを読んで、初めて知ったことやおもしろいと思ったことをノートに書かせる。

- ⑥ 新出漢字「黄・色・太・毛・高・風・晴・多・黒」の学習をさせる。
  - ・新出漢字用ワークシートに書かせる。

- ⑦ 次時の予告をする。

「次の時間は、どうして花とじくを休ませるのかを考えます。」







# 11

**題材名** 「たんぼぼのちえ／じゅんじょ」②（第2時／全3時間）

**目標** 全文を読み、初めて知ったことや不思議に思ったことなど感想を書くことができる。

**領域名** C 読むこと 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「たんぼぼのちえ」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「どうして花とじくを休ませるのだろう」 ・ ワークシートを配布し、目標を書き込ませる。 「たんぼぼ博士になってこの問いに答えましょう。」	・ 本時の目標を知る。 ・ ワークシートに書き込む。
展開 33分	③ 教科書の42～44ページを読む。（第1～3段落） 教師が読む。→一斉読みをする。→列ごとに交代して読む。 「1文ずつ列ごとに交代して読みましょう。」 ④ 様子が分かる言葉に、サイドラインを引かせる。 ・ 教科書に直接書き込ませる。	・ 本文を音読する。  ・ 教科書にサイドラインを引く
終末 2分	⑤ どうしてたんぼぼはこのような様子になるのか、わけを考えさせる  ⑥ 「たんぼぼのちえカード」を作らせる。 A5サイズの用紙の左右に「ようす」と「わけ」と小見出しを書かせる。 ⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は、『じゅんじょ』について学習します。」	・ わけを考えて発表する。     ・ 次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

### ○ 形式段落について

・ 文末の表現の違いについては、簡単にふれる。一文ごとに「様子かな」「わけかな」と問いかけてもよい。「のです」「からです」の2通りお文末表現が、わけを表す文で使われている。

### ○ 本読みについて

- ・ 音読した回数だけ○印を題名の下に書かせると意欲につながる。
- ・ すらすらと読めることが自然と内容理解が深まる。
- ・ すらすら読ませるために、読む回数や全文を読む所要時間を意識させる方法がある。

### ○ 時間の経過について

- ・ 時間や順序を表す言葉に留意させる。  
「二、三日たつと」「だんだん」「そうして」

### ○ 動作化について

- ・ ぐったりしている様子を動作化して理解させる。

## 板書例

- ① 題材名「たんぼぼのちえ」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 教科書の42～44ページ（第1～第3段落）を読む。
  - ・教師が全文を読む。全員で読む。
  - ・列ごとに交代して読む。

たんぼぼのちえ

どうして花とじくを休ませるのだろう

○ようすとわけをよみとろう

花のようす

だんだんくろっぽい色にかわっていきます

じくのようす

ぐったりとじめんにたおれてしまいます

わけ

花とじくをしずかに休ませて、たねに、たくさん  
えいようをおくっているのです。

◇たんぼぼのちえカードをつくらう

・たんぼぼのちえ

たんぼぼの花はのじくは、ぐったりと  
じめんにたおれてしまいます。

・わけ

花とじくをしずかに休ませて、たねに  
たくさんえいようをおくっている  
のです。

- ④ 様子が分かる言葉に、線を引かせる。
- ⑤ どうしてこのような様子になるのか、わけを考えさせる。

- ⑥ たんぼぼのちえカードを作らせる。
  - ・A5横のカードに書かせる。

- ⑦ 次時の予告をする。

「次の時間は、おはなしのじゅんじょについて学習します」



たんぽぽのちえ②(記入例)

二年 組 名前( )

めあて

どうして花どじくを休ませるのだろう。

ようすとわけをよみとろう。

花のようす 花はしぼんで、だんだんくろっぽい色にかわっていきす。 じくのようす じくは、ぐったりとじめんにたおれてしまいます。

わけ 花どじくをしずかに休ませて、たねに、たぐさんのえいようをおくっているのです

たんぽぽのちえのカードをつくらう。

た	ん	ぽ	ぽ	の	ち	え	1							
	た	ん	ぽ	ぽ	の	花	の	じ	く	は	、	ぐ	っ	
	た	り	と	じ	め	ん	に	た	お	れ	て	し	ま	
	い	ま	す	。										
わ	け													
	花	と	じ	く	を	し	ず	か	に	休	ま	せ	て	
	た	ね	に	、	た	く	さ	ん	の	え	い	よ	う	
	を	お	く	っ	て	い	る	の	で	す	。			

# 12

**題材名** 「たんぼぼのちえ じょうほう じゅんじょ」③ (第3時/全3時間)

**目標** 順序など情報と情報との関係について理解する。

説明における順序の種類や効果を確認する。

**領域等** A 話すこと・聞くこと B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「じゅんじょ」を黒板に書く。  ・ワークシートを配る。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">じゅんじょをあらわすことばをかながえよう</div> ・声に合わせて目標を読ませる。 ・ワークシートに書かせる。	・本時の目標を知る ・声を合わせて目標を読む ・目標をワークシートに書く  ・教師の範読を聞く
展開 38分	③ P48の上の段を範読する。  ④ 時間の順序で説明をすることの大切さを理解させる。 「たんぼぼのちえは、たんぼぼのようすが時間の順序を説明されていました。順序を表すことばにはどんな言葉があったでしょうか？」◎  ・順番の言葉を確認しましょう。	・質問に答える。 春になると、2, 3日たつとやがて、このころになるとよく晴れた日には、しめり気の多い日や雨降りの日には
終 2分	⑤ P51の下を範読する。 ・順序を表す言葉を考えさせる。 「次のような時はどんなことがありますか？」 ・じかんの じゅんじょ ・しかたの じゅんじょ ・たいせつさの じゅんじょ  ・朝起きてからしたことを順序のことばを使って書きましょう。  ・朝起きてからしたことを発表しましょう。○	・教師の範読を聞く ・順序の言葉を考える ・時間：はじめに、1分後に1時間後、1日たつと ・しかた：はじめに、次にさらに、それから、さいごに ・大切さ：命、家族、友達、宝物、優しさ、思いやり、好き嫌いをしない、お手伝い、  ・ワークシートに書く。
	⑧ 次時の予告をする。 「今回は『かんさつ名人になろう』を学習します。」	・朝起きてしたことを発表する  ・次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

- ・説明における順番の種類や効果について理解させる。
- ・日本語習得状況により時間、しかた、大切以外でも順番を示す効果的な言葉があれば使用しても良い。
- ・補習校の実態にはあうよう、国、地域、学校の実態にあった例をあげることが望ましい。

# 板書例

①題名材「じゅんじょをあらわすことば」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。

- ・「じゅんじょを表す言葉を使って、話をしたり、文章を書けるようになりましょう。」
- ・ワークシートを配付し、書き込ませる。

③ P42～P47のたんぼぼでは時間の順序を表す言葉を思い出しましょう。  
分かった人は手を上げて発表して下さい。  
・P48の下にまとめてある。児童全員に読ませる。

④次の順序を表す言葉を考えさせ発表させる。

じゅんじょ

じゅんじょをあらわすことば

たんぼぼのちえ

- ・じかんのじゅんじょ
- ・しかたのじゅんじょ
- ・たいせつさのじゅんじょ

朝起きてからしたことを書きましょう

⑤朝起きてからしたことを書かせる。  
全員が書き終えてから発表させる。

⑧次回は「かんさつ名人になろう」を学習します。

名人とはそのことがすごくよくできる人のことを言います。  
何かを観察する名人でしょうか？楽しみしておいて下さい。







# 13

**題材名** 「かんさつ名人になろう」①（第1時／全3時間）

**目標** 知らせる相手や目的を考えて書くことができる。

**領域名** B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「かんさつ名人になろう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「かんさつのしかたをまなびましょう」 ・ ワークシートを配布し、目標を書き込ませる。 ③ 家で飼っている動物や、育てている動物について発表させる。	・ 本時の目標を知る。 ・ ワークシートに書き込む。 ・ 身近な生き物について発表する。 ・ 本文を音読する。
展開 33分	④ 教科書を読む。 ・ 教師が全文を読む。全員で読む。 ・ 教材分文全体を読み、学習の見通しを持たせる。 ⑤ 観察の意味を考えさせる。 ・ 児童に発表させ、教師が板書する。	・ 観察の意味を考える。
終末 2分	⑥ 新出漢字の学習をさせる。 「形、数、近、長、体、同」 「家でも練習しておきましょう」 ⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は、先生が持ってきた植物を詳しく観察します。」	・ 新出漢字の学習をする。 ・ 家庭学習を知る。 ・ 次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

- 飼っている動物や育てている植物について
  - ・ 補習校の子どもたちにとって、現在動物などを飼える条件ではない子が多いと考えられるので、日本で飼っていた動物でもよいこととする。自分の体験を話すことによって、この学習への動機付けとなる。
- 漢字学習について
  - ・ 字形・読み・筆順・終筆・言葉集め・文作りを指導する。字数が多いので、次時に分けて指導してよい。
- 単元設定の趣旨について
  - ・ 自分の家で飼っている動物や、育てている植物について発表させると、身近にいるものが意外に特徴をつかみ切れていないことに気付くであろう。それを相手に伝えようとするれば、大ざっぱであったり曖昧であったりする表現では、相手にうまく伝わらない。そこで、この単元では児童が対象をじっと見つめることによって体験する自分なりの発見をまず大切にしたい。見慣れたものでも、ふだんよりもずっと近づいて、見つめたり触ったりすることによって、それまでに気付かなかったたくさんのことを知ることができる。いわば「目に映っているけれども、本当には見ていないもの」に改めて観察の目を向けたときに気付く、発見のおもしろさである。身近なものであっても、そのような発見があつて初めて、児童はだれかにそれを伝える意味を実感することができるようになるだろう。

## 板書例

- ① 題材名「かんさつ名人になろう」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 自分の家で飼っている動物や育てている植物について話させる。

かんさつ名人になろう

かんさつのしかたを まなびましょう

○かっている どうぶつや そだてている しよくぶつ

・ペットのねこや犬

・金魚

・小鳥

・かんようしよくぶつ

○どうすれば「かんさつ名人」になれるかな

かんさつのいみ

・ちゆういぶかく見る

・かわるようすを文しようにかく

◇みぢかな ものを かんさつ しよう

・見つけたら 文しように かこう

・友だちに しらせよう

◇あたらしい かん字を 学しようしよう

「形・数・近・長・体・同」

いえでも れんしゆう しておきましょう

- ④ 教科書を読ませる。
  - ・教師が全文を読む。全員で読む。
- ⑤ 観察の意味を考えさせる。

- ⑥ 新出の漢字を学習させる。  
「形、数、近、長、体、同」

- ⑦ 次時の予告をする。

「次の時間は、先生がもってきた植物を詳しく観察します。」

# かんじの名人になろう ①

W 13

二年 組 名前( )

めあて

かんじの名人になろう

「かんじ」の読み

みじかなものをかんじしよう

新しいかんじを学ぼうしよう。

# かんざつ名人になろう①(記入例)

二年 組 名前( )

めあて

かんざつのしかたをまなびましよう。

かていなるどうぶつやみだてているしよくぶつ

ペットのねこや犬

金ぎよ

小どり

かんようしよくぶつ

「かんざつ」のいみ

かんざつたいものを知るために、ちゆういぶかく見ること。

そのようすを見て、そのかわるうすを文しように書くこと。

みじかなものをかんざつしよう

見つけたら、文しように書くこと。

友だちに知らせよう。

新しいかん字を学しゆうしよう。

# 14

題材名 「かんさつ名人になろう」②（第2時／全3時間）

目標 知らせる相手や目的を考えて書くことができる。

領域名 B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「かんさつ名人になろう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「先生が持ってきたしょくぶつを くわしく かんさつ しよう」 ・ ワークシートを配布し、目標を書き込ませる。	・ 本時の目標を知る。 ・ ワークシートに書き込む。
展開 33分	③ 見て気が付いたことを発表させる。 「観察したいことの中から『ここが一番おもしろい』『みんなに知らせたい』と思うことを選びましょう。」 ④ 「ていねいにかんさつしましょう」を読ませる。 ・ かんさつの仕方をワークシートに書かせる。	・ 身近な生き物について発表する。 ・ 植物の様子について発表する ・ 本文を読む。 ・ 観察の仕方を書く。 ・ 観察してワークシートに書く
終末 2分	⑤ よく観察してワークシートに書かせる。 ⑥ ワークシートの各項目を文にさせる。 ・ 教科書 p 55 を参考にして書かせる。 ・ 句読点をつけさせる。	・ メモしたものを文にしていく
	⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は、文をつないで友達にわかるようにまとめます。」	・ 次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

- 準備する植物について
  - ・ できれば、日本ではめずらしい現地の植物を用意したいところである。数種類用意し、児童に観察したいものを選ばせることにより、書く意欲を持たせたい。
- 発表について
  - ・ 自由に気付いたことを話させる。学級の人数の多い補習校では、グループに分かれて話し合わせるとよい。
- 個別指導について
  - ・ 書きづらがっている児童には、色や数など観察しやすい物から取り組ませる。手で触らせたり、植物の向きを変えさせたりしながら話をさせるようにする。そして児童が話したことに共感し、自信をもたせるようにする。また、途中で作業を中断させ、友だちの観察したことを互いに聞くことで、新たな見方ができるようになる。
- メモを文にすることについて
  - ・ 句読点を付けさせる。主語と述語をはっきりさせる。

## 板書例

- ① 題材名「かんさつ名人になろう」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 見て気がついたことを発表させる。
  - ・観察したい植物を選ばせる。

かんさつ名人になろう

しよくぶつを くわしく かんさつ しよう

○見て 気がついたこと

・は が たくさんある

・花 が きれい

・とげ が ある

・み が できている

○じぶんが えらんだ しよくぶつ

サボテン

◇ていねいに かんさつ しよう

・大きさや 形、色を見る

・数をかぞえる

・いろいろな ほうから 見る

・さわる

・ながさを はかる

・においをかぐ

・音をきく

◇よくかんさつ して ワークシートに かこう

◇かんさつしたことを 文に しましょう

- ④ 『ていねいにかんさつしましょう。』を読ませる。
  - ・観察の仕方をワークシートに書き込ませる。
- ⑤ よく観察して、そのことをワークシートに書かせる。

- ⑥ ワークシートの各項目を文にさせる。
  - ・教科書 P.34 を参考にして書かせる。
  - ・句読点を付けさせる。

- ⑦ 次時の予告をする。

「次の時間は、文をつないで友だちにわかるようにまとめます。」

# かんやひ名人になろう②

二年 組 名前( )

先生がもつてきたじまのじりもくもくかんやひじま。

見て気がついたらじりばしりなりましたか。

じりなかならんだじまのじり

『かんやひのじかた』

- .
- .
- .
- .
- .
- .
- .

「よくかんやひして、まのじりばしりシートに 書きかきしょう。」

「かんやひしたらじりばしりじましょう。」

## かんきつ名人になろう②(記入例)

二年 組 名前( )

W 14

先生がもってきたしよくぼうをくわしくかんきつしよう。

見て気がついたことはどんなことですか。

はかたくさんある。

花がきれい。

とげがある。

みができている。

じぶんがえらんだしよくぼう

サボテン

### 『かんきつのしかた』

- ・大きさをや形、色を見る。
- ・数を数える。
- ・いろいろなほうから見る。
- ・さわる。
- ・ながさをはかる。
- ・においをかぐ
- ・音をきく。

「よくかんきつして、そのことをワークシートに 書きましよう。」

「かんきつしたことを文にしましよう。」

「、」や「。」をつけましよう。



近づいてよく見ましよう

色形 太き	
数	
ぶがし 見と	
手ざり	
にお	
音	

# 15

**題材名** 「かんさつ名人になろう」③（第3時／全3時間）

**目標** 知らせる相手や目的を考えて書くことができる。

**領域名** B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「かんさつ名人になろう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「文をつないで 友だちに わかるようにしよう」 ・ ワークシートを配布し、目標を書き込ませる。	・ 本時の目標を知る。 ・ ワークシートに書き込む。
展開 33分	③ 文の下の説明に注意しながら、教科書の観察分を読ませ、気がついたところを発表させる。 ・ 題名のつけかた ・ 観察した日時 ・ 詳しく観察して分かったことを書く。	・ 観察文を読む。 ・ 気がついたことを発表する。
終末 2分	④ 自分の文をつないで、ワークシートにまとめさせる。 ・ 前活動で学習したことを落とさないで書かせる。 ⑤ みんなの作品を見合って、感想を伝え合わせる。 ⑥ 宿題を伝える。 ・ 学習していることを家庭に伝える効果がある。 ⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は、『同じぶぶんをもつかん字』の学習をします。」	・ ワークシートに書く ・ ワークシートに書く。 ・ 宿題を知る。 ・ 次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

- 読み返す習慣をつけるために
  - ・ 児童は、書き終わるとそれで終わりにしてしまうことが多い。この時期から、しっかりと読み返し、直す習慣をつけたい。また、読み返しても間違いや漢字に直せることなどに気付かないことも多い。
  - そのために、
    - ・ 既習漢字漢字の一覧を掲示しておく。
    - ・ 今までに学習した言語事項を観点として示す。
    - ・ 書いたものを友達と交換し、声に出して読む。
  - といった工夫をしたい。
- 書き終えた作文について
  - ・ 模造紙などに貼る等して、授業日は休み時間などを利用して友だちの作品を見合えるようにしておくとうい。
- まとめ方について
  - ・ 題名のつけかたや観察した日時、詳しく観察して分かったことを書く以外に、
- ① 名前を書く。
- ② 段落分けをする。（改行と一字下げ）
  - ・ 書き出し
  - ・ 見て分かったこと
  - ・ においをかいで分かったこと
- ③ 友達に伝えるということから、常体でなく敬体であること。
  - ・ メモは、「大きさは、ビー玉ぐらい。」まとめは、「大きさは、ビー玉ぐらいです。」
- ④ まとめには、メモにない言葉がある。例えば、「よく見ると」や「顔をちかづけると」などで、その言葉があるとないとではどう違うかを考えさせるとよい。

## 板書例

- ① 題材名「かんさつ名人になろう」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 文の下の説明に注意しながら、教科書の観察文を読ませる。

かんさつ名人になろう

文をつないで、友だちに わかるように まとめよう

○きょうかしの文をよみ、まとめかたを 知ろう

- ・ だいめい
- ・ かんさつした 日
- ・ くわしく かんさつして わかったこと

○文をつないでワークシートにまとめよう

◇書いた文を友だちと こうかんして 読み合い、よいところを つたえましょう。

- ・ おもしろいな
- ・ くわしくて おどろいた

ひろの ゆうすけさんへ  
ミニトマトの み が、まだみどり色  
なのに、においをかいでみたところが、  
かんさつ名人だと思いました。  
いちかわ しゅん

◇しゅくだい  
じゅぎょうで 書いた文を いえの人に  
きいてもらおう

- ④ 文をつないでまとめさせる。
- ⑤ みんなの作品を見合って感想を伝え合わせる。

- ⑥ 宿題を伝える。
  - ・ 学習していることを家庭に伝える効果がある。

- ⑦ 次時の予告をする。

「次の時間は、『同じぶぶんをもつかん字』の学習をします。」



( )より

二年 組 名 前 ( )


二年 組 名 前 ( )より

# 16

**題 材 名** 「同じぶぶんをもつかん字」 (第1時/全1時間)

**目 標** 漢字には、同じ部分を持つものがあることに気付くことができる。

**領 域 名** B 書くこと C 読むこと 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 10 分	① 題材名「同じぶぶんをもつかん字」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「同じぶぶんをもつかん字を見つけよう」 ・ ワークシートを配布し、目標を書き込ませる。	・ 本時の目標を知る。 ・ ワークシートに書き込む。
展 開 33 分	③ 教師が読み上げた漢字をワークシートに書かせる。 「村」「森」「林」「木」「本」「休む」 ・ 書いた感じを見て、同じ部分を見つけさせる。 ④ 教科書P59の文を読み、同じ部分を見つける。 ・ 同じ部分を赤でなぞらせる。 ⑤ 「口」「日」を部分に持つ漢字の意味を見つけさせる。 ⑥ 宿題を伝える。 「『田』『イ』を部分に持つ漢字を見つけよう。」 ・ 学習していることを家庭に伝える効果がある。	・ 漢字をワークシートに書く。 ・ 同じ部分を赤でなぞる。 ・ 同じ部分を赤でなぞる。
終 末 2 分	⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は、『うれしいことば』の学習をします。」	・ ワークシートに書く。 ・ 宿題を知る。 ・ 次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

○ 同じ部分をもつ漢字の探し方について

- ・ 教科書巻末の『これまでにならったかん字』から見つけさせるとよい。

○ 色分けについて

- ・ 同じ部分を、赤色など同じ色で書くようにして色分けさせるとはっきりする。

○ 既習事項について

- ・ 1年生の「にているかん字」で、字形の似ている漢字について学習してきている。

「貝」・「見」「学」・「字」

「人」・「入」「右」・「石」

- ・ そして、3年生の「へんにつくり」、4年生の「漢字の組み立て」へとつながっていく。」

○ 漢字学習について

・ 漢字には、同じ部分があるということに気づけば、画数の多い複雑に見える漢字が、実はそれほど多くない種類の基本的な形の組み合わせで作られていることが分かる。その基本的な形を覚え、組み合わせ方によっていろいろな漢字が作れることが分かれば、漢字を覚える作業がずいぶん楽しくなるであろう。そうすると、記憶された漢字を思い出して書くこともスムーズに行われるようになる。

# 板書例

- ① 題材名「同じぶぶんをもつかん字」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 教師が読んだ漢字を、ワークシートに書く。
  - ・書いた漢字を見て、同じ部分を見つける。

同じぶぶんを もつ かん字

同じぶぶんを もつ かん字 を みつけよう

○「村」「森」「林」「木」「本」「休む」というかん字で 同じぶぶんは どこでしょう。

「木」

○同じぶぶんはどこでしょう。

- ・学校で、かん字を ならう。
- ・今、おとうさんは、会社 に いる。
- ・この 小刀 は、よく 切れる。
- ・町内の 店で、百円の おかしを かう。
- ・姉と 妹が、なかよく あそぶ。
- ・晴れた 日に、プールへ 行く。
- ・太い 線で 絵を かく。
- ・汽車の まどから、海が 見える。

○「口」「日」をぶぶんにもつ かん字を見つけよう。

「石」「兄」「右」

「早」「百」「音」「草」「日」「右」

◇しゅくだい

「田」「イ」をぶぶんにもつ かん字を みつけよう

- ④ 教科書 P.45 の文を読み、同じ部分を見つける。
  - ・同じ部分を赤でなぞらせる。
- ⑤ 「口」「日」を部分に持つ漢字を見つけさせる。

- ⑥ 宿題を伝える。
  - ・学習していることを家庭に伝える効果がある。

- ⑦ 次時の予告をする。

「次の時間は、『うれしいことば』の学習をします。」

回しっくさんをもつかん字

二年 組 名前( )

[Empty rectangular box for writing the group name]

『 』 『 』 『 』 『 』 『 』 『 』 『 』

回しっくさんをもつかん字。

「口」「田」を回しっくさんにもつかん字を見つけよう。

『 』 『 』 『 』 『 』

『 』 『 』 『 』 『 』 『 』 『 』 『 』

しゅくだい

[Empty rectangular box for writing the homework]



# 同じぶっぶんをもつかん字(記入例)

二年 組 名前( )

同じぶっぶんをもつかん字を見つけよう。

『村』『森』『林』『木』『本』『休む』

## 「木」

同じぶっぶんはどこでしょう。

- ・学校で かん字を ならう。
- ・今、おとうさんは、会社 に いる。
- ・この小刀は、よく切れる。
- ・町内の 店で、百円のおかしを 買う。
- ・姉と妹が、なかよくあそぶ。
- ・晴れた 日に、プールへ 行く。
- ・太い線で 絵を 書く。
- ・汽車の まどから、海が 見える。

「ロ」「日」をぶっぶんにもつかん字を見つけよう。

『石』『兄』『右』

『早』『百』『音』『草』『日』『右』

しゅくだい

田「イ」をぶっぶんにもつかん字を見つけよう。

# 17

**題材名** 「うれしい ことば」 (第1時/全1時間)

**目標** 言葉には経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。  
 経験したことから書くことを見つけ、伝えたいことを明確にすることができる。  
 進んで言葉の働きに気づき、学習課題にそって嬉しい言葉に関する文を書くことができる。

**領域等** 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「うれしい ことば」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">うれしいことばを書きましょう</div> ・声を合わせて読ませる。ワークシートを配布し書かせる。	・本時の目標を知る ・声を合わせて目標を読む ・目標をワークシートに書く ・質問に答える
展開 38分	③ これまでの生活を振り返り、どんな場面で、誰にどんなことを言われて嬉しかったのかを発表させる。 ④ P60 どんな場面で、どんな言葉をかけてもらい、うれしかったのかを整理させる。○ ・P60 下の吹き出しを範読する。 ⑤ P61 枠の作例を声に出して読ませる。 ・感想を発表させる。 ⑥ 嬉しい言葉を一つ選ばせ、出来事とその時の気持ちをワークシートに書かせる。◎ ・嬉しい言葉を題名にする。 ・嬉しい言葉に「 」をつける。 ・どんな場面で誰にどんな嬉しい言葉を言ってもらったのか。 ・その言葉を聞いてどう思ったのか。 ⑦ 書いた文を友達と読み合う。 ⑧ 友達の「嬉しいことば」を知ってどう思ったのか発表する。	・頑張ったとき ・一人でいたとき ・困ったとき ・初めてできたとき ・範読を聞く ・作例を元気よく読む。 ・感想を発表する ・嬉しい言葉を選び、その時の気持ちを書く
終 2分	⑨ 新出漢字をワークシートへ練習させる。 ・書き順に気をつけて一度、空書きを児童に見させる。 ・回 ・歩 ⑩ 「次回は『かん字の広場』を学習します。」	・友達と読み合う ・感想を発表する。 ・教師の腕の動きをまねしながら空書きする ・ワークシートへ漢字を書く ・次時の見通しを持つ

## 指導のポイント

- ・ いつ、どこで、誰が、どんな言葉を言ってくれたことが嬉しかったのか、これまでの生活を振り返らせる。
- ・ 進んで言葉の働きに気づかせ、学習課題に沿って、嬉しい言葉に関する文章を書く、温かい人間関係が教室内で築かれている。
- ・ 嬉しい言葉をたくさん言える、正しく、優しい日本語を使用する環境を整備する。

## 板書例

① 題材名「うれしい ことば」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
・「うれしいことばを書きましょう。」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。

③ 嬉しかったことを発表させる。  
④ P60の絵を見させ、どんな場面で、どんな言葉をかけてもらったのかを整理させる。P60を範読する。  
⑤ P61の作例を読ませ、感想を発表させる。

⑥ 嬉しい言葉を1つ選ばせ、その時の気持ちをワークシートに書かせる。  
⑦ 書いた文を友達と読み合う。  
⑧ 友達の嬉しい文を聞いた感想を書く。

うれしいことばを書きましょう。  
うれしい ことば

⑨ 新出漢字をワークシートへ書かせる。

⑩ 次回は「かん字のひろば」を学習します。





# 18

- 題材名** 「かん字のひろば」 (第1時/全1時間)
- 目標** 第1学年で配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。  
進んで今までに学んだ漢字を使用して文を書こうとすることができる。  
書いた文を友達と読み合い、同じ漢字を使っても違う文ができることを理解する。
- 領域等** B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「かん字のひろば」を黒板に書く。  ・ワークシートを配る。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">1年生でならったかん字をふくしゅうしよう</div> ・声に合わせて目標を読ませる。 ・ワークシートに書かせる。	・本時の目標を知る ・声を合わせて目標を読む ・目標をワークシートに書く
展開 38分	③ P62の漢字の読み方を確認する。 ・児童に読ませる。夕日 (ゆうひ) ⇒赤い (あかい) ・ワークシートにふりがなを書かせる。 ・海に囲まれた島の様子を想像させる。○  ④ P62の枠を読む。 ・絵の中の言葉を使って文をつくりましょう。文の終わりにはまる (。) をつけましょう。島から見える夕日は赤くてとてもきれいです。 ・挿絵の中の言葉 (漢字) を使い。島の様子を表す文を作る。 ・語と語のつながりに気をつけさせる。 ・文の終わりに句読点をつけさせる。	・漢字を読む ・ワークシートにふりがなを書く。 ・P62を見てどんな島か書きたいことを考える  ・教師の説明を聞く ・島について文を書く ・友達と発表し合う
終 2分	⑤ 書いた文を友達と読み合い、同じ漢字を使っても違う文ができることを理解させる。◎ ・誰の文が良かったのかを発表させる。 ・良かった理由も付け加えさせる。  ⑧ 次時の予告をする。 「次回は『スイミー』を学習します。」	・誰の文がよく書けていたか発表する  ・次時の見通しを持つ

## 指導のポイント

- ・1学年に配当されていた漢字を書き、文や文章で使うことができる。
- ・島の様子を想像させる。
- ・見た物を描写し、文を書かせても良い。
- ・友達の書いた文を読み合い、学びを深めようとする態度を育成する。

## 板書例

①題名材「かん字のひろば」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・「1年生でならったかん字をふくしゅうしよう。」
  - ・ワークシートを配付し、書き込ませる。
  - ・教科書P62の漢字を1つずつ読ませる。
  - ・ワークシートにふりがなを書かせる。

③例を参考に島の様子を文にしてみましょう。

かん字のひろば

1年生でならったかん字を

ふくしゅうしよう

・かん字にふりがなを書きましよう

・絵に中のことばをつかって

文をつくりましよう。

⑧次回は「スイミー」を学習します。

スイミーは小さなお魚です。どんな物語でしょうか？楽しみにしててください。







# 19

題材名 「スイミー」①（第1時／全3時間）

目標 登場人物の気持ちや場面の様子を想像しながら音読できる。

領域名 C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「スイミー」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「まぐろからにげたスイミーの気持ちを考えよう」 ・ ワークシートを配布し、目標を書き込ませる。	・ 本時の目標を知る。 ・ ワークシートに書き込む。
展開 33分	③ 全文を読む。 ・ 教師が読む。全員で読む。 ④ まぐろがきたときのスイミーや赤い魚の気持ちを考えさせる。 ・ その時、赤い魚とスイミーはどうなったかを考えさせる。 ⑤ スイミーになったつもりで、「心の中のことば」を吹き出しに書かせる。	・ 本文を音読する。 ・ スイミーや赤い魚の気持ちを考える。 ・ スイミーや赤い魚はどうなったかを考える。 ・ すいミーになったつもりで「心の中のことば」を吹き出しに書く。
終末 2分	⑥ 宿題を伝える。 ・ 学習していることを家庭に伝える効果がある。 「スイミーをおうちの人に1日1回読みましょう。」 ⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は、元気を取り戻していくスイミーの気持ちを、考えます。」	・ 宿題を知る。 ・ 次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

### ○ 吹き出しについて

・ スイミーの気持ちを吹き出しに書き込めるようなワークシートを、挿絵を利用して作成しておく。

また、前回作ったペープサートを持って、スイミーになりきって話させる。

### ○ ペープサートについて

・ 次時から使用する赤い魚のペープサートを宿題で作らせてもよい。また、大きくて恐ろしそうな、まぐろのペープサートを教師が作っておくと、児童はよけい気持ちを想像しやすくなるであろう。

## 板書例

- ① 題材名「スイミー」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 第1場面～第2場面を読み、スイミーの気持ちを読み取らせる。
  - ・教師が読む。全員で読む。

スイミー

まぐろから にげた スイミーの きもちを  
かんがえよう

○まぐろがきたところは、どんなふうに残したら  
いいでしょう。

大きく、つよく、早く

○まぐろがきたとき、スイミーや赤い魚はどんな  
気もちだったでしょう。

- ・おそろしい
- ・たすけて

○そのとき、スイミーと赤い魚はどうなりましたか

- ・まぐろは一ぴきのこらずのみこんだ
- ・にげたのは スイミーだけ

◇スイミーになったつもりで、「心の中のことば」をふ  
き出しに書きましょう。

- ・おそろしい
- ・たすかった
- ・きょうだい食べられてさびしい
- ・またきたらどうしよう
- ・これからどうしたらいいのか

- ④ まぐろがきたときの、スイミーや赤い魚の気持ちを考えさせる。
  - ・まぐろにスイミー以外は食べられたことを押さえておく。

- ⑤ スイミーの気持ちをワークシートの吹き出しに  
書かせる。

- ⑥ 「スイミーを、お家の人に1日1回読みましょう。」

ヌトミ ①

ゆあて

二年 組 名前( )

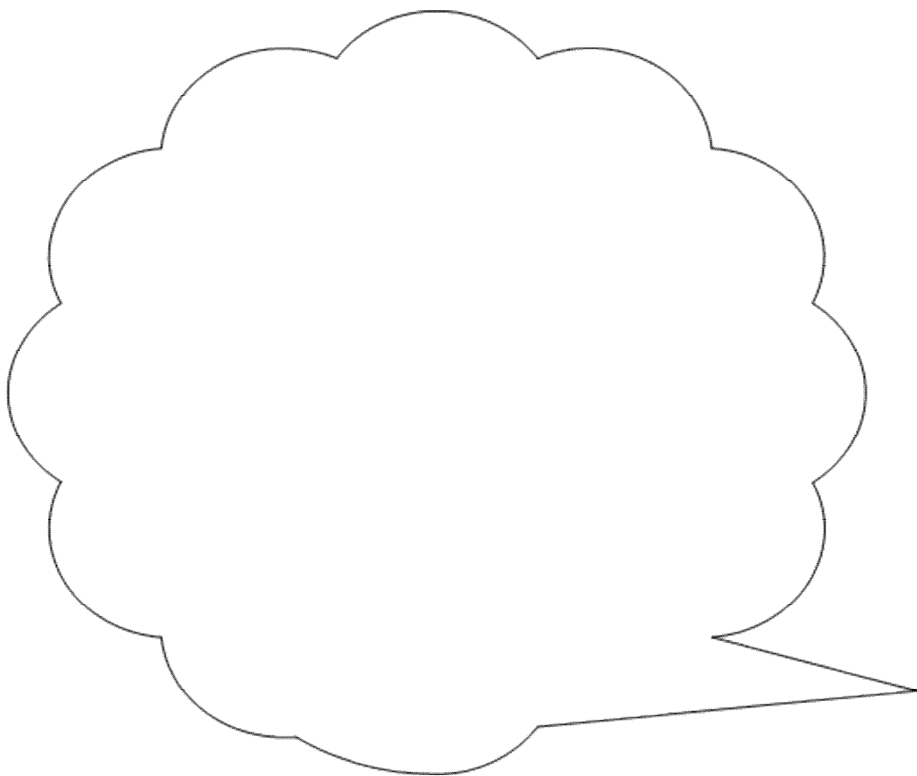
[Empty rectangular box for writing]

おぐろが来たときは、どんなふうに読んだらいいでしょう。

おぐろが来たとき、ヌトミや赤い魚はどんな気持ちだったでしょう。

そのとき、赤い魚とヌトミはどんなになりましたか。

ヌトミになって気持ちを吹き出しに書いて



スイミー①(記入例)

めあて

二年 組 名前( )

まぐろからにげたスイミーの気持ちを考えよう。

まぐろがきたときは、どんなふうに読んだらいいでしょう。  
大きく・つよく・早く

まぐろがきたとき、スイミーや赤い魚はどんな気持ちだったでしょう。

おそろしい  
たすけて

そのとき、赤い魚とスイミーはどうなりましたが。  
まぐろは、一匹きのりなすのみりんだ。  
にげたのは、スイミーだけ。

スイミーになって気持ちを吹き出しに書いて

おそろしい。  
たすかった。  
おようだったたちが  
食べられてさびしい。  
またきたらどうしよう。  
これからどうしたらいいのか。



# 20

題材名 「スイミー」②（第2時／全3時間）

目 標 登場人物の気持ちや場面の様子を想像しながら音読できる。

領域名 C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 10 分	① 題材名「スイミー」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「元気をとりもどしていくスイミーの気持ちを考えよう」 ・ ワークシートを配布し、目標を書き込ませる。	・ 本時の目標を知る。 ・ ワークシートに書き込む。
展 開 33 分	③ 第3場面を読んで、海の中でいろいろなものを見て元気になっていくスイミーの気持ちを考える。 ・ スイミーの気持ちの変化 見るたびに→だんだん→とりもどした ・ 比喻、体言止め、倒置法のおもしろさを味あわせる。	・ 本文を音読する。 ・ 元気を取り戻していくスイミーの気持ちを考える。 ・ 表現を味わう。
終 末 2 分	④ 第4場面を読んで、小さな魚たちに出会ったスイミーの気持ちを考えさせる。 ⑤ スイミーの考えを、スイミーになったつもりで「心の中のことば」を吹き出しに書かせる。 ⑥ 宿題を伝える。 ・ 学習していることを家庭に伝える効果がある。 「スイミーをおうちの人に1日1回読みましょう。」 ⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は、スイミーになって大きな魚を追い出します。」	・ 小さな魚たちに出会ったスイミーの気持ちを考える。 ・ スイミーになったつもりで吹き出しに書く。 ・ 宿題を知る。 ・ 次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

○ 表現を味わうことについて

- ・ にじ色のゼリーのようなくらげ。・・・ゼリーの透明感や触感を想起させたい。
- ・ 水中ブルドーザーみたいないせえび。・・・ブルドーザーの重量感や大きさと、スイミーの小ささを考えさせる。
- ・ ドロップみたいな岩。・・・ドロップのように丸くて色とりどりの岩
- ・ こんぶやわかめの林。・・・林ほどの大きさに見えるこんぶやわかめを想像させる。

○ スイミーの考えの追体験について

- ・ 「スイミーは考えた。いろいろ考えた。うんと考えた。」というたたみかけた言い方には、長い時間考えたことを強調していることを押さえたい。

## 板書例

- ① 題材名「スイミー」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 第3場面を読み、海の中で見たものや表現のおもしろさを味わせる。
  - ・教師が読む。全員で読む。

スイミー

元気をとりもどしていく スイミーの 気持ちを  
考えよう

○海の中でいろいろなものを見て、どんな気もちになつたでしょう。

- ・すばらしいな、おもしろいな。
- ・元気になってきたぞ。

◇『くのような』『くみたいな』をつかった文を作ってみよう。

- ・ゼリーのようなくらげ

- ・水中ブルドーザーみたいなせいせび

- ・ドロップみたいな岩

- ・やしの木みたいなそぎんちやく

○小さな魚たちに出あったスイミーは、どんな気もちだつたでしょう。

- ・みんなであそぼう。

- ・おもしろいものがいっぱいだよ。

・いつまでもそこにじっとしているわけにはいかないよ。

○スイミーの考えたことはなんだろう。

- ・海でいちばん大きな魚のふりをしておよぐ。

- ・はなればなれにならない。

- ・もちばをまもる。

- ④ 第4場面を読み、小さな魚に出会ったスイミーの気持ちを考えさせる。
  - ・教師が読む。全員で読む。

- ⑤ スイミーの気持ちをワークシートの吹き出しに書かせる。

- ⑥ 「スイミーを、お家の人に1日1回読みましょう。」

スイミー②

めあて

二年 組 名前( )

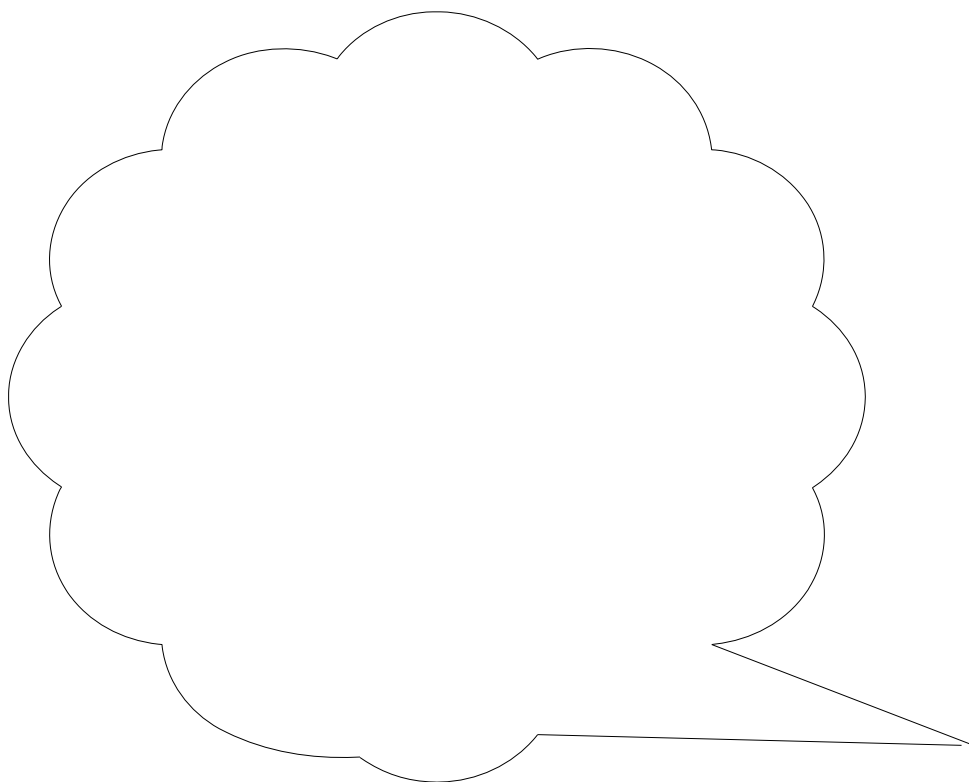
[Empty rectangular box for writing]

海の中でいろいろなものを見て、どんな気持ちにならなう。

『～のような』『～みたいな』をつかった文を作ってみよう。

小さな魚たちに出あったスイミーは、どんな  
気持ちにならなう。

スイミーになって気持ちを吹き出しに書こう





スイミー②

めあて

二年 組 名前( )

W 20

元気をとりもどしていくスイミーの気持ちを考えよう。

海の中でいろいろなものを見て、どんな気持ちにならなう。  
すばらしいな、おもしろいな。  
元気になってきたぞ。

『～のような』『～みたいな』をつかった文を作ってみよう。

ゼリーのようなくらげ  
水中ブルドーザーみたいならせび  
ドロップみたいな岩  
やしの木みたいないそぎんちやく

小さな魚たちに出あったスイミーは、どんな  
気持ちにならなう。

みんなであそぼう。  
おもしろいものがいっぱいだよ。  
いつまでもそこにじっとしているわけには  
いかなうよ。

スイミーになって気持ちを吹き出しに書こう

海でいちばん大きな魚の  
ふりをしておどろ。  
はなればなれにならなう。  
もちばをまもる。



# 21

題材名 「スイミー」③（第3時／全3時間）

目標 登場人物の気持ちや場面の様子を想像しながら音読できる。

領域名 C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「スイミー」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「スイミーになって大きな魚をおいだそう」 ・ ワークシートを配布し、目標を書き込ませる。	・ 本時の目標を知る。 ・ ワークシートに書き込む。
展開 33分	③ 第5場面を読んで、音読の仕方を考えさせる。 ・ スイミーの気持ち「黒いから 目になれる」 そうだと決心した強い用紙の声 ・ 追い出したとき 喜びで明るく自由になった声	・ 本文を音読する。 ・ スイミーの気持ちを考える。 ・ 音読の仕方を考える。
終末 2分	④ 大きな魚を追い出した時の、スイミーの気持ちを考えさせる。 ・ スイミーになったつもりで「心の中のことば」を吹き出しに書かせる。 ⑤ 本の紹介をする。 ⑥ 宿題を伝える。 ・ 学習していることを家庭に伝える効果がある。	・ スイミーの気持ちを考える。 ・ スイミーになったつもりで吹き出しに書く。 ・ ほんの紹介の仕方を知る。
	⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は、『かたかなのひろば』の学習をします。」	・ 宿題を知る。 ほんの紹介カードを作る。 ・ 次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

○ 音読について

・ 最後の文にある「あさの つめたい 水の中を、ひるの かがやく 光の中を、」という表現に着目させたい。「いつでも自由に泳げる」ようになった小さな魚たちの喜びが感じられるところである。自由に泳げる喜びの気持ちで、のびのびと音読できるようにしたい。広いスペースを作って、自由に泳ぐ様子を動作化させてもようであろう。

○ 本の紹介について

・ 補習校図書室にある本を紹介して興味づけを図る。補習校に本がないまたは少ないときは、保護者協力を求め、家庭にある本を持ち寄り、紹介しあわせる。紹介カード作りやお話列車については、宿題や夏休みの読書計画に入れさせるとよい。

○ 音読発表会について

・ 好きな場面を選び、音読発表会を開いても良い。人数が多い場合は、4～5人の班の中で行う。元気よく、さびしように、相手に呼びかけるようになど読み方を工夫して音読する。また、友達の上手だったところを伝え合わせるようにする。

## 板書例

- ① 題材名「スイミー」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 第5場面を読み、音読のしかたを考える。
  - ・教師が読む。全員で読む。

スイミー

スイミーになって大きな魚をおいだそう

○どうしてスイミーは『ぼくが目になろう』と言ったのだろう。

- ・黒いから目になれる。

○どのように読んだらいいだろう。

- ・元気よく読む。

◇スイミーになったつもりで『心の中の言葉』をふき出しに書こう。

- ・やったあ。
- ・とうとう大きな魚をおいだしたぞ。
- ・これからは、じゆうだ。
- ・うれしいなあ。
- ・みんなががんばったぞ。

◇おもしろい本があったら、みんなでしようかいしあおう。

- ・お話のだいめい
- ・さくしやの名前
- ・出てくる人やどうぶつ
- ・いちばんすきなところや、おもしろいと思うところ

- ④ スイミーの気持ちを吹き出しに書かせる。  
「スイミーになったつもりで『心の中の言葉』をふき出しに書こう。」

- ⑤ 本の紹介をする。  
「おもしろい本があったら、みんなでしようかいしあおう。」

- ⑥ 宿題を伝える。  
「本の紹介カードを作ろう。」

スイミー ③

めあて

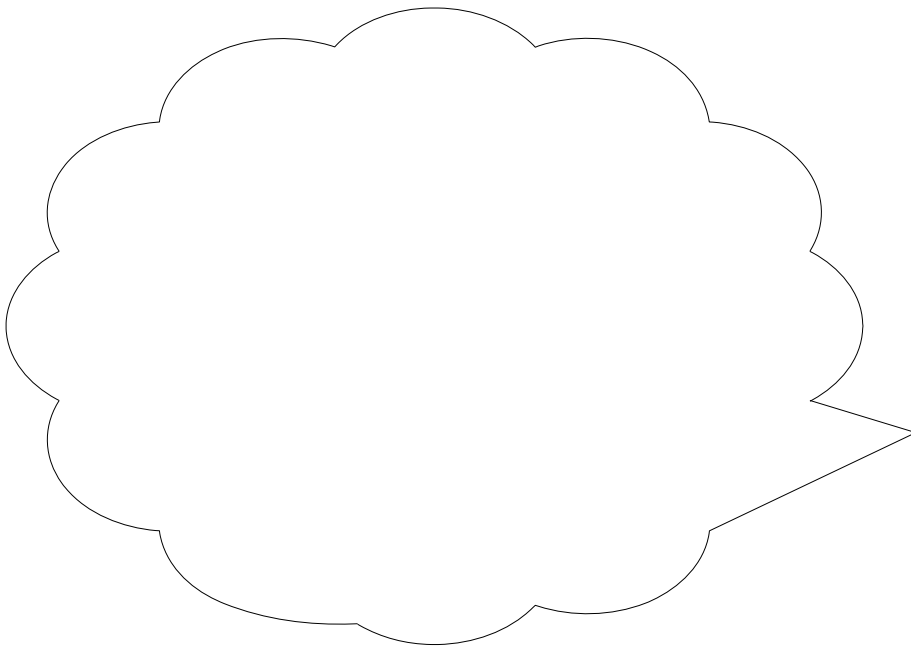
二年 組 名前( )

[Empty rectangular box for writing]

どうしてスイミーは『ぼくが目になろう』と 思ったのでしょう。

どうやって読んだらいいでしょう。

スイミーになって気持ちを吹き出しに書こう。



おもしろい本があったら、みんなで見ようからじゃあ書こう

- ・
- ・
- ・
- ・

スイミー③(記入例)

めあて

二年 組 名前( )

スイミーになって大きな魚をおいだそう。

どうしてスイミーは『ぼくが目になる』と言ったのでしょうか。

黒いから 目になれる。

どのように読んだらいいのでしょうか。

元気よく

スイミーになって気持ちを吹き出しに書こう。

やったあ。  
 どうとう大きな魚をおいだしたぞ。  
 これからは、じゆうだ。  
 うれしいなあ。  
 みんなでがんばったぞ。



おもしろい本があったら、みんなで見ようからしあわせしよう

- ・お話の だいめい
- ・せくじやの 名前
- ・出てくる 人やどうぶつ
- ・うちばんすきなところや、おもしろい思っている

## 22

題材名 「かたかなのひろば」 (第1時/全1時間)

目標 第1学年で配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。  
進んで今までに学んだ漢字を使用して文を書こうとすることができる。  
書いた文を友達と読み合い、同じ漢字を使っても違う文ができることを理解する。

領域等 A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むこと

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「かたかなのひろば」を黒板に書く。  ・ワークシートを配る。 ② 本時の目標を黒板に書く。 かたかなをつかって文を書きましょう ・声に合わせて目標を読ませる。 ・ワークシートに書かせる。	・本時の目標を知る ・声を合わせて目標を読む ・目標をワークシートに書く
展開 38分	③ P77 挿絵を見て、動物達の行動や様子を見ながら話をさせる◎ ・サルさんがサッカーをしています。 ・イヌさんがコートでドッジボールをしています。 ・ネコさんとクマさんが応援しています。 ・サルさんがジャンプしています。 ・イヌさんがリレーでゴールするところです。 ・教師が発音した後に児童が発音させる。  ④ P140 ひらがなとかたかなの表を見させる。 ・1人を指名し、1行読みをさせる。 (縦に読んだり、横に読んだり工夫する。)○  ⑤ 例にならって片仮名を入れた文を考えて書かせる。 ・できた児童のワークシート点検する。○つけをする。	・動物の様子を答える  ・先生に後に片仮名を言う  ・先生に後に片仮名を言う ・P140を読む  ・絵を見てワークシートに片仮名を入れた文を書く
終 2分	⑥ 次時の予告をする。 「次回は『メモをとるとき』を学習します。」	・ワークシートに書けた人は先生へ見せる。  ・次時の見通しを持つ。

### 指導のポイント

- ・片仮名のきまりを復習する。
- ・片仮名の表記のきまりを確認する。P140を参考にする。  
長音「ー」、促音「っ」、拗音「キャ」「ショ」「ニュ」、濁音「ダ」、半濁音「パピプペポ」
- ・挿絵を見て、動物の様子を片仮名を使った文が書けるようにする。

## 板書例

①題名材「かたかなのひろば」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・「片仮名を使って文を書きましょう。」
  - ・ワークシートを配付し、書き込ませる。
  - ・教科書P77の絵を見て動物の様子を答えさせる。
  - ・P140の表を読ませる。

③P77の例に参考に片仮名の入った文を書かせる。  
学級の人数にもよるが、1行を書き終えたら○をつけたりして、児童の意欲を高めさせる。

・例にならってかたかなを入れた文を書きましょう。

かたかなをつかって  
文を書きましょう

かたかなのひろば

⑥次回は「メモをとるとき」を学習します。メモって何のことでしょうか？  
メモを取るとき大切なことを学習します。







## 23

- 題材名** じょうほう「メモをとる とき」(第1時/全1時間)
- 目標** 必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。  
言葉には事物の内容を表す働きがあることに気付くことができる。  
今までの学習をいかし知らせたいことについて根気よくメモをとる。

**領域等** B 書くこと

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「メモをとる とき」を黒板に書く。 ・ワークシートを配る。	
展開 38分	② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">じょうずにメモをとりましょう</div> ・声に合わせて目標を読ませる。 ・ワークシートに書かせる。	・本時の目標を知る ・声に合わせて目標を読む ・目標をワークシートに書く ・教科書を見る
	③ P78 下の説明を範読する。 ・メモは短い言葉で書く ・覚えておきたいこと ・後から確かめたいこと ・誰かに知らせたいこと など  ・メモには書くといいことは何かを考えさせる。 ・正しく書く	・メモをとる時に気をつけることを知る
	④ P78 上の絵を見させる。 ・町探検でパン屋さんへ行きました。 ・動物のパンがあることに気がつきました。 ・皆に知らせたいことをまとめました。 ・次の日に発表しました。	・パン屋さんへ行ってメモをする内容を考える
	⑤ P79 上の段を見させる。枠の中、吹き出しを読ませる。	パン屋さんのメモを確認する。
	⑥ 教室の中にある物の中から家に人に知らせたい物を決めさせる。 ・ワークシートにメモを取らせる。○	・教室の中にある伝えたいものを考える ・メモをとる
終 2分	⑦ 書いたメモを見せ合い、書き方が良かった点を伝え合う。◎  ⑧ かん字のれんしゅうをする。 ・児童に背中を向け、書き順を黒板に示しながらゆっくり書く 知 考 室	・友達に見せる ・友達の良い所を伝える ・先生の書き順を見ながら一緒に確認する ・ワークシートでかん字練習をする
	⑥ 次時の予告をする。 「次回は『こんなもの見つけたよ』を学習します。」	・次時の見通しを持つ。

### 指導のポイント

- ・必要な情報は何かを考えさせる。
- ・短い言葉で書かせる。
- ・メモを発表し合い、お互いの良い点を伝え合える。

## 板書例

①題名材「メモをとるとき」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・「メモをじょうずに取りましょう。」
  - ・ワークシートを配付し、書き込ませる。
  - ・教科書P78の下を読む。
  - ・P78の上の絵を見させ、メモを予想させる。
  - ・P79の上を見させ読ませる。

③教室の中の知らせたい物を決めさせ、ワークシートにメモを取らせ、メモを見せ合う。メモの良い点を伝える。

メモをとるとき

じょうずにメモをとりましょう

教室のある物の中から伝えたい物を決めてメモをしましょう。

メモを見せ合しましょう

かん字をれんしゅうしましょう

④かん字をワークシートにれんしゅうする

⑥次回は「こんなものみつけたよ」を学習します。  
どんなものを見つけたのでしょうか？楽しみですね。





## 24

題材名 「こんなもの見つけたよ」①（第1時／全3時間）

目標 友だちに伝えたいことを取材しメモに書くことができる。

領域名 B 書くこと

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「こんなもの見つけたよ」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「見つけたものをメモしよう。」 ・ワークシートを配布し、目標を書き込ませる。	・本時の目標を知る。 ・ワークシートに書き込む。
展開 33分	③ メモをとる時の留意点に気付かせる。 ・何をみつけたか ・どこで見つけたか ・どんなものか 大きさ、形、色、数、触ったかんじ、においなど	・メモをとる留意点に気付く。
終末 2分	④ 取材に出る。 ・学校内で範囲を限定して、取材に生かせる。 ・もっと知りたいことがあったら、先生や周りの人に尋ねることを確認する。 ・その場でメモを取らせる。 ⑤ 宿題を伝える。 「家でも見つけたものがあったらメモをとりましょう。」 ⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は、文にまとめるために組み立てを考えます。」	・メモと筆記用具を持って、取材に出る。  ・宿題を知る。 自宅や通学中にも発見を促す  ・次時の見通しを持つ。

### 指導のポイント

#### ○ 取材

- ・落ちがないように、取材に出かける前に、何を確かめなければいけないかを丁寧に押さえておく。
- ・安全を優先し、行動範囲を制限する。

#### ○ メモ

- ・取材キットを持っていれば、それを持参する。
- ・キットがなければ、ワークシートをバインダに挟ませたりするなど工夫する。

## 板書例

- ① 題材名「こんなもの見つけたよ」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ メモをとる時の留意点について確認する。

こんなもの 見つけたよ

見つけたものを メモしよう

○メモをとる時のちゅういてん

- ・何をみつけたか
- ・どこで見つけたか
- ・どんなものか

大きさ、形、色、数、  
触ったかんじ、においなど

◇しゅざいにでかけよう

- ・きめられたばしよで
- ・どんどん しつもんする
- ・そのばで メモをとろう

- ④取材に出かける  
安全を優先するなど、ポイントを確認する。

- ⑥ 宿題を伝える。
  - ・家庭や通学中にもできる範囲で取り組ませる。

こんなもの 見つけたよ①

二年 ( ) (くみ なまえ)

めあて

○メモをとるときにたいせつなこと

○しゅぎんの やくそく

○しゅぎんメモ

どんなもの	どこ	何



こんなもの 見つけたよ①(記入例)

二年) (くみ なまえ)

めあて

見つけたものを メモしよう

○メモをとるときにたいせつなこと

- ・ 何を見つけたか
- ・ どこで見つけたか
- ・ どんなものか 大きさ、形、色、数、触ったかんじ、においなど

○しゅぎいの やくそく

- ・ あんぜんに、がっこうの中で
- ・ もっと知りたいことがあったら、先生などにきく
- ・ その場でメモをとる

○しゅぎいメモ

何	どこ	どんなもの
ブーゲンビリアの花	なかにわ	ま赤にさいていた においは甘いにおいがした

## 25

題材名 「こんなもの見つけたよ」②（第2時／全3時間）

目標 メモをもとに、文章の組み立てを考えることができる。

領域名 B 書くこと

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「こんなもの見つけたよ」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「文しょうの組み立てを考えよう。」 ・ワークシートを配布し、目標を書き込ませる。	・本時の目標を知る。 ・ワークシートに書き込む。
展開 33分	③ メモをもとに、文章の構成を考えさせる。 ・「はじめ」「中」「おわり」の3つの部分からなる構成とする。 ・それぞれ、どんなことを書いたらよいか、確認する。	・ワークシートに整理する。
終末 2分	④ 文章の組み立てをワークシートを使って行う。 ・「何について書くのか」「どんなことが取材から分かったか」 「取材してどう思ったか」を明確にするよう声掛けをする。 ・机間巡視をしながら、内容が不足していないか確認する。 ・発言内容を示す表現にも注意する。 ⑤ 文章の下書きを行う。 ・字下げを行わせ、組み立てが分かるように留意する。 ⑥ 宿題を伝える。 「家族にも読んできかせ、内容が伝わるか確かめよう。」	・ワークシートでメモをもとに書く内容を整理する。 ・文の書き方にも注意して、下書きに取り組ませる。 ・宿題で、家族に対して読んで伝わるかどうかを確認する。

### 指導のポイント

- 文章の構成
  - ・「はじめ」「中」「終わり」の3つの部分で構成させる。
  - ・形式段落が3つということではないので、改行し字下げを行って全体を3つに区切るということではない。
  - ・意味段落として3部構成ということとなる。

## 板書例

- ① 題材名「こんなもの見つけたよ」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ メモをもとに、文章の構成を考えさせる。

こんなもの 見つけたよ

文しようの くみたてを かんがえよう

○大きく三つの部分に分けて考えよう

・はじめ  
見つけたばしょや ものを かくとよい

・中  
くわしいないようは 中 でかくとよい

・おわり  
調べてみんなにどう思ったか  
これからどうしていきたいか

◇文しようをかくために、メモをもとに くみたてよう

◇くみたてがうまくいったら、文しようをかいてみよう

- ④ 文章の組み立てをワークシートを使って行う。

- ⑤ 文章の下書きを行う。
  - ・文を書く約束も守る。

- ⑥ 宿題を伝える。
  - ・家庭に対して読んで、伝わるかどうか確かめる。

こんなもの 見つけたよ②

二年 ( ) (くみ なまえ)

めあて

--

○どのように文をくみたてたらよいか

おわり	中	はじめ

○下書きをしよう

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--



## 26

題材名 「こんなもの見つけたよ」③（第3時／全3時間）

目標 文章を読み、仲間に自分が見つけたものを正しく伝えることができる。

領域名 A 話すこと B 書くこと

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「こんなもの見つけたよ」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「仲間に自分が見つけたものを正しく伝えよう」 ・ ワークシートを配布し、目標を書き込ませる。	・ 本時の目標を知る。 ・ ワークシートに書き込む。
展開 33分	③ 自分の文章を見直し、友達に読む練習をする。 ・ 構成を見直し、順序良い文章となっているか。 ・ 読みやすい文章のつくりとなっているか。	・ 全体で話す前に、隣の子と聞きあいをするなどの練習時間をとる。
終末 2分	④ 文章を発表し、お互いに感想を述べあう。 ・ 友だちに対して、見つけたことを正しく伝えられたか。 ・ 発表を聞いて、どんなことが分かったか。 ⑤ 次時の予告をする。 「次は『あったらいいなこんなもの』の学習をします。」	・ 文章を発表する。 ・ どんなことが分かったのかを感想として伝える。 ・ 次時の学習内容を知る。

### 指導のポイント

- 発表
  - ・ 小集団を活用して、グループ内で発表することも考えられる。
  - ・ 学級構成や人数などに合わせて、発表スタイルを工夫する。
  - ・ 「聞く・話す」についての指導の場として、声の大きさや顔の向き、反応の仕方などについても、機会をとらえては認めたり論したりして指導を進める。

## 板書例

- ① 題材名「こんなもの見つけたよ」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

③ 自分の文章を見直し、友達に読む練習をする。

こんなもの 見つけたよ

仲間に自分が見つけたものを正しく伝えよう

◇読むれんしゅうをしよう

◇一人ずつはっぴょうしよう

◇どんなことがわかったのか、かんそうをいおう。

④ 文章を発表し、お互いに感想を述べあう。

⑤ 次時の予告をする。

# 27

題材名 「あったらいいな、こんなもの①」（第1時／全2時間）

- 目標 場面に応じて丁寧なことばを遣うことができる。  
話を聞くときに集中して聞き、話の内容に感想をもつことができる。  
伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。  
学習課題に沿って質問や感想を積極的に述べようとするすることができる。

領域等 A 話すこと 聞くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「あったらいいな、こんなもの」を黒板に書く。 ・ワークシートを配る。 ② 本時の目標を黒板に書く。 しつもんをしあって、くわしく考えよう ・声に合わせて目標を読ませる。 ・ワークシートに書かせる。	・本時の目標を知る ・声を合わせて目標を読む ・目標をワークシートに書く
展開 38分	③ P86 上を範読する。 ・挿絵に注目させ、どんないいものかを考えさせる。○ ・P87 ① 吹き出しを読ませる。	・範読を聞く ・絵を見て感想を発表する ・吹き出しを読む
	④ ワークシートに「あったらいいな」と思うものを絵に描かせる。 ・道具の効果についてや理由について、メモさせる。 ⑤ P88 ③ 会話文を児童に読ませる。 ・あったらいいなと思うわけ ・はたらき（できること）。 ・形や色、大きさなど。 ・QRコードを読み取り映像を見る環境があれば視聴させる。	・絵を描く ・メモを書く ・教科書を読む ・映像を見る
終 2分	⑥ 2人1組で絵を見せながら「あったらいいもの」を説明させる。 ・友達から質問をさせ答えさせる。◎ ・ワークシートを回収する。（次回の発表で使用する） ⑦ 次時の予告をする。 「次回は『発表会』をします。」	・説明する ・質問し合う ・ワークシートを提出する ・発表会の意欲を高める

## 指導のポイント

- ・ あったらいいものを考えさせる。
- ・ 道具の効果について言葉で説明できるようにさせる。
- ・ 絵を上手に描かせなくても良いが色鉛筆を使用させるなど、描く時間を確保する。
- ・ スマホやタブレットがあればQRコードから映像を読み取り視聴させる。



## 板書例

①題名材「あったらいいな、こんなもの」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・「しつもんしあって、くわしく考えよう」
  - ・ワークシートを配付し、書き込ませる。
- ③教科書P86の上を範読する。
- ・P86の絵を見させ、あったらいいものを考えさせる。
  - ・P87の吹き出しを児童に読ませる。

- ④ワークシートに「あったらいいもの」の絵を描かせる。
- ・理由や道具の効果などをメモさせる。

メモをしましょう

あったらいいものをかきましよう

しつもんしあって、くわしく考えよう

あったらいいな、こんなもの

⑤P88<sup>3</sup> 上の会話を児童に読ませる。QRコードを読み取り視聴させる。

- ⑥2人1組で絵を見させ説明と質問を繰り返し行う。
- ・ワークシートを回収する。

⑦次回は「発表会」を開きます。  
ていねいな言い方で発表できるようにしましょう。

あつたらいいな、こんなもの

W 27

「ねん」「くみ

なまえ」

」

がくしゅうのめあて

あつたらいいなと思うものを絵にかこう

メモをしましょう

・あつたらいいなと思うわけ

・はたらき(ぶきる)など

・形や色、大きさなど

あつたらいいな、こんなもの

W 27

「ねん」「くみ

なまえ」

」

がくしゅうのめあて

しつもんをしまつて、くわしく考えよう

あつたらいいなと思うものを絵にかこう

## 絵

メモをしましょう

- ・あつたらいいなと思うわけ  
雲の上をさんぽしてみたいから
- ・はたらき(できること)  
空をとんでどこへでも行ける。空でちゅうがえりができる。
- ・形や色、大きさなど  
とんぼの羽の形 すきとおっている せなかにせおえるくらいの大きさ

## 28

題材名 「あったらいいな、こんなもの②」（第2時／全2時間）

- 目標 場面に応じて丁寧なことばを遣うことができる。  
話を聞くとときに集中して聞き、話の内容に感想をもつことができる。  
伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。  
学習課題に沿って質問や感想を積極的に述べようとするすることができる。

領域等 A 話すこと 聞くこと

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「あったらいいな、こんなもの」を黒板に書く。 ・ワークシートを配る。 ② 本時の目標を黒板に書く。 はっぴょうし、かんそうをつたえあおう ・声に合わせて目標を読ませる。 ・ワークシートに書かせる。	・本時の目標を知る ・声に合わせて目標を読む ・目標をワークシートに書く
展開 38分	③ 発表するときの話し方について考えさせる。◎○ ・説明したり、発表したり、するときの丁寧な話し方について答えさせる ・前時のワークシートを配布する。 ・丁寧な言葉に気をつけて小さい声で練習をさせる。 ・発表の順番を決める。	・話し方を考える ・丁寧な話し方を答える ・「です」「ます」 ・「ゆっくり話す」 ・ワークシートを受け取る ・発表の練習をする ・順番を決める
終 2分	④ 「あったらいいな」の発表を順番にさせる。 ・ワークシートを感想を記入させる。 ・感想を順番に発表する。 ⑤ P89 振り返りを読む。 ・児童に質問し答えさせる。	・発表する ・感想を記入する ・感想を発表する ・振り返りを読む ・質問に答える
	⑥ 新出漢字を練習させる。 ・書き順に気をつけて空書きをする。 ⑦ 次時の予告をする。 「次回は『夏がいっぱい』をします。」	・漢字を練習する ・次回の意欲を高める

### 指導のポイント

- ・発表会では、丁寧な言い方と普通の言い方とどちらを使うとよいのかを考えさせる。
- ・発表を聞くとときの態度を指導する。最後まで静かに聞く。終わったら拍手する。
- ・感想はすごいなと思ったことを書かせて発表させる。

## 板書例

①題名材「あったらいいな、こんなもの」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・「はっぴょうし、かんそうをつたえあおう」
  - ・ワークシートを配付し、書き込ませる。
- ③発表するときの話し方について考えさせ、答えさせる。
- ・前時のワークシートを配布し発表の準備をさせる。

- ④「あったらいいもの」を発表させ感想を記入させる。
- ・全員が発表し終わったならば、感想を発表させる。
- ⑤P89振り返りを読み答えさせる。

あったらいいな、こんなもの

はっぴょうし かんそうをつたえあおう

かんそうを書きましよう

ふりかえろう

かん字をれんしゅうましよう

⑥新出漢字を練習させる。

⑦次回は「夏がいっぱい」を学習します。  
この国ではどんなものを見たときに夏だなあと感じますか。

ああったらいいな、こんなもの

W  
28

二ねん「」くみ

なまえ「

」

がくしゅうのめあて

--

かんそうを書きましよう

--

かん字をれんしゅうしましよう

友
羽
雲

「二ねん」「くみ

なまえ」

」

がくしゆうのめあて

はつぴようし、かんそうをつたえあおう

かんそうを書きましよう

どうぶつとお話ができるきかがあるかどうかぶつとなかよくできる  
るので、わたしもほしいと思います。どうぶつがびようきをしたと  
きに早くなおしてあげられることもできるとおもいました。

かん字をれんしゆうしましょう

友

羽

雲

## 29

### 題材名 目 標

「夏がいっぱい」(第1時/全1時間)

言葉には事物の内容を表す働きがあることに気付くことができる。  
経験したことや想像したことから書くことを見つけることができる。  
積極的の言葉の働きに気付き、学習の課題に沿って文に表すことができる。

### 領域等

B 書くこと

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 5 分	<p>① 題材名「夏がいっぱい」を黒板に書く。</p> <p>・ワークシートを配る。</p> <p>② 本時の目標を黒板に書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">夏をかんじることばをかくしゅうしよう</div> <p>・声に合わせて目標を読ませる。</p> <p>・ワークシートに書かせる。</p>	<p>・本時の目標を知る</p> <p>・声を合わせて目標を読む</p> <p>・目標をワークシートに書く</p>
展 開 38 分	<p>③ P90 P91 絵を見て、日本の夏を表すことを学ぶ。</p> <p>・教師が読んだ後に児童に続けて読ませる。</p> <p>・せみ(せみ)、・露草(つゆ草)、朝顔(あさがお)・・・</p> <p>④ P91の谷川俊太郎の詩を読む○</p> <p>・最初から最後まで、教師が1度朗読する。</p> <p>・発音(アクセントに気をつけて読む)。</p> <p>・せみ、あみ、うみ、なみ、みみ、きみ、かみ、ぐみ</p> <p>・教師が読んだ後に児童に続けて読ませる。</p> <p>1行ずつ読ませるか、文節ごとに読ませるか、児童の日本語の習得の実態に応じて変えて良い。</p>	<p>・教科書を見る</p> <p>・先生のあとに続いて読む</p> <p>・朗読を聞く</p> <p>・先生のあとに続いて読む</p>
終 2 分	<p>⑤ 補習校がある国や地域で夏を感じる言葉を発表させる。</p> <p>・景色、食べ物、自然、生活様式、動物、祭り、</p> <p>⑥ P90 下のカードを読む。</p> <p>・カードを読んだ感想を発表させる。</p> <p>⑦ 夏を感じる言葉をワークシートに書かせる。◎</p> <p>・書き終えたら絵を描かせても良い。</p> <p>⑧ かん字を練習させる。</p> <p>・児童を背に黒板を向いて書き順に気をつけて書く。</p> <p>教師と同時に児童に空中で書かせる。</p> <p>・ワークシートに練習させる。 夏</p> <p>⑨ 次時の予告をする。</p> <p>「今回は『お気に入りの本を紹介しよう』 『ミリーの素敵な帽子』を学習します。」</p>	<p>・質問に答える</p> <p>自分の国の夏を感じる言葉を考える</p> <p>・P90のカードを読んで日本の夏を感じる言葉に感想を言う</p> <p>・夏を感じる言葉をワークシートに記入する</p> <p>・早くできた場合は絵を描く</p> <p>・先生の書き順を見ながら一緒に確認する</p> <p>・ワークシートでかん字練習をする</p> <p>・次時の見通しを持つ</p>

### 指導のポイント

- ・言葉には事物の内容を表す働きがあることを気付かせる。
- ・教科書の日本を表す言葉に説明の時間を取り過ぎない。補習校がある国、地域の夏を表す言葉に注目させる。1年中夏の国があると思うが現地にあった学習を展開する。



## 板書例

①題名材「夏がいっぱい」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・「夏をかんじることばをかくしゅうしよう。」
  - ・ワークシートを配付し、書き込ませる。
  - ・教科書P90P91の上の絵の動植物を読む。
  - ・日本の夏の様子を想像させる。
  - ・P91の詩を朗読する。児童に続けて読ませる。

④かん字をワークシートにれんしゅうする

夏がいっぱい

夏をあらわすことばをかくしゅうしよう

夏をかんじることばを書きましよう

かん字をれんしゅうしましよう

③自分たちが住んでいる国の夏を表す言葉を  
考えて発表させる。  
P90のカードを読み、感想を発表させる。

⑨次回は「お気に入りの本の紹介 ミリーの素敵な帽子」を学習します。  
どんな帽子なんですか？楽しみですね。





# 30

**題材名** 「お気に入りの本をしょうかいしよう」(第1時/全2時間)  
「ミリーの素敵な帽子」

**目標** 本に親しみ色々な本があることを知る。  
自分が紹介したい本を選び、理由や興味をもったことを伝えることができる。  
友達と本を紹介し合い感想を伝え合うことができる。

**領域等** C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「お気に入りの本をしょうかいしよう」を黒板に書く。 ・ワークシートを配る。 ② 本時の目標を黒板に書く。 本にしたしもう ・声に合わせて目標を読ませる。 ・ワークシートに書かせる。	・本時の目標を知る ・声を合わせて目標を読む ・目標をワークシートに書く
展開 38分	③ P92 教科書を読む。 学習の進め方を読む。 ① → ② → ③ → ④	・先生の範読を聞く
	④ P93 ① を読む。 ・吹き出しを読む。 ・枠の中を読む。 ・様々な本があることに気付かせる。 ・これまでに読んだ本を振り返らせる。	・先生の範読を聞く ・これまで読んだ本を思い出す
	⑤ P94 ② を読む。 ・P141～P143の中から読みたい本を1つ選び ワークシートの紹介メモを書かせる。○ なぜ、読みたいと思ったのかを考えさせる。	・先生の範読を聞く ・P141～P143を見て読みたい本を1冊選ぶ ・なぜ読みたいと思ったのか理由もワークシートに記入する
終 2分	⑤ 読みたい本を発表させる。◎ ・友達の発表を聞かせる。	・ワークシートに書いた読みたい本を発表する ・友達の発表を静かに聞く
	⑥ 次時の予告をする。 「次回は『ミリーの素敵な帽子』を学習します。」 ミリーの素敵な帽子の本を紹介できるようにしましょう。	・次時の見通しを持つ

## 指導のポイント

- ・日本の習得状況によっては幼児の絵本が準備できればそれでも良い。
- ・読書は楽しいことであることを体験させる準備段階として、本に興味関心を高めさせる。
- ・友達の発表を聞く態度を育成する。

## 板書例

①題名材「お気に入りの本をしょうかいしよう」を黒板に書く。

- ③本時の目標を児童に知らせる。
- ・「本にしたしもう。」
  - ・ワークシートを配付し、書き込ませる。
  - ・教科書P92 P93 P94 を読む。
  - ・様々な本があることに気付かせる。
  - ・これまでに読んだ本を思い出させる。

⑤P141～P143の中から読みたい本を選びワークシートにまとめる。

お気に入りの本をしょうかしよう

本にしたしもう

しょうかいする本をえらぼう

⑥次回は「ミリーの素敵な帽子」を読みましょう。  
ミリーの素敵な帽子の本を紹介できるようになりましょう。

お気に入りの本をしょうかいしよう

W  
30

二ねん「」くみ

なまえ「

」

がくしゅうのめあて


しょうかいする本をえらぼう

だいめい	
書いた人	
とうじょうじんぶつ	
どんなお話か	
えらんだりゆう	

お気に入りの本をしょうかいしよう

W  
30

「二ねん」くみ

「なまえ」

」

がくしゅうのめあて

本
に
し
た
し
も
う
。

しょうかいする本をえらぼう

だいめい	書いた人	とうじょうじんぶつ	どんなお話か	えらんだりゆう

# 31

**題材名** 「ミリーのすてきなぼうし」②（第2時／全2時間）

**目標** 本に親しみ色々な本があることを知る。  
 自分が紹介したい本を選び、理由や興味をもったことを伝えることができる。  
 友達と本を紹介し合い感想を伝え合うことができる。

**領域名** C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「ミリーのすてきなぼうし」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「ミリーのすてきなぼうしについてしょうかいをつくろう」 ・ワークシートを配布し、目標を書き込ませる。	・本時の目標を知る。 ・ワークシートに書き込む。
展開 33分	③ 前時の練習を生かして、各自で『ミリーのすてきなぼうし』を読んで、しょうかいをつくる。 ・読みながら、必要なことを記入させていく。 ・内容について、わかりやすくまとめるよう助言する。	・各自で「ミリーのすてきなぼうし」を読み、読みながらしょうかいの文を作る。
終末 2分	④ しょうかいを発表し、お互いに感想を述べあう。 ・内容紹介について、おはなしの切り取り方の違いに目を向ける。 ・友だちのしょうかいを聞いての感想を述べ合わせる。 ⑤ 次時の予告をする。 「次は『雨のうた』の学習をします。」	・しょうかいを発表する。 ・どんなことが分かったのかを感想として伝える。 ・次時の学習内容を知る。

## 指導のポイント

- 内容の整理
  - ・ しょうかいをする時には、「自分が一番おもしろいと思ったところ」「ともだちにぜひ気づいてほしいと思ったところ」がどこかを考えさせる。
  - ・ 時間が限られているので、全員で一読してからしょうかいの作成に取り組ませてもよい。



## 板書例

- ① 題材名「こんなもの見つけたよ」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 前時の練習を生かして、各自で『ミリーのすてきなぼうし』を読んで、しょうかいをつくる。

お気に入りの本をしょうかいしよう

ミリーのすてきなぼうしについてしょうかいをつくろう

◇ミリーのすてきなぼうしのしょうかいをつくる

◇一人ずつはつぴょうしよう

◇どんなことがわかったのか、かんそうをいおう。

- ④ しょうかいを発表し、お互いに感想を述べあう。

- ⑤ 次時の予告をする。

お気に入りの本をしょうかいしよう

W  
31

二ねん「くみ

なまえ」

」

かくしゅうのめあて

--

しょうかいしよう

だいめい

書いた人

とうじょうじんぶつ

どんなお話か

えらんだりゆう

--	--	--	--	--	--

お気に入りの本をしょうかいしよう

W  
31

「ねん」 「くみ

がくしゅうのめあて  
なまえ

」

ミリーのすてきなぼうしについてしょうかいをつくろう

しょうかいしよう

だいめい	
書いた人	
とうじょうじんぶつ	
どんなお話か	
えらんだりゆう	

## 3 2

- 題材名** 「雨のうた」（第1時／全1時間）
- 目標** 音読して詩を楽しむことができる。  
語のまとまりや言葉の響きに気をつけて音読することができる。  
詩を読んで感じたことや分かったことを共有できる。

**領域等** C 読むこと

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「雨のうた」を黒板に書く。  ・ワークシートを配る。 ② 本時の目標を黒板に書く。 しを たのしもう ・声に合わせて目標を読ませる。 ・ワークシートに書かせる。	・本時の目標を知る ・声に合わせて目標を読む ・目標をワークシートに書く
展開 38分	③ P110 P111 教科書を開かせる。 ・読む前に雨の日のイメージをもたせる。 ・「雨の日はどんな気持ちになりますか？」 ・「雨の日にはどんな景色が見られますか？」 ・「雨の日にはどんな音が聞こえてきますか？」  ④ 「雨のうた」を教師が朗読する。○ ・発音、間の取り方、アクセントに気をつけて読む。  ⑤ 児童に詩の楽しさを体験させる。 ・教師が読んだ後に児童に続けて読ませる。 ・1行ずつ読ませる。 ・文節ごとに読ませる。 ・文節ごとに順番に読ませる。 ・始めから終わりまで1人で順番に読ませる。 （学級の数によって読み方は工夫する。）	・教科書を見る ・雨の日のイメージを答える。 暗い気持ち、寂しい気持ち 葉っぱやお花が喜んでいる 人が体を洗っている（熱帯） ピチピチ、ザーザー、  ・朗読を聞く
終 2分	⑤ 「雨のうた」から 分かったことをワークシートに書かせる◎  ⑥ 書いたことを発表する。  ⑦ 全員で朗読する。  ⑧ 次時の予告をする。 「次回は『ことばでみちあんない』を学習します。」	・読んで分かったことをワークシートへ書く ・雨は寂しがり屋さん、雨にはたくさんの友達がいる、歌が上手  ・発表する。 ・友達の発表を聞く ・元気に朗読する  ・次時の見通しを持つ

### 指導のポイント

- ・語のまとまりや言葉の響きに気をつけて、リズムカルに音読させる。
- ・詩の音読を楽しませるように読む方を工夫させる。
- ・補習校がある国や地域によっては雨にイメージを大切にす。水害被害の国もあれば、雨が貴重な国もある。
- ・詩を読んで分かったことや感じたことを共有できる心情を育てる。

## 板書例

①題名材「雨のうた」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・「しをたのしもう。」
  - ・ワークシートを配付し、書き込ませる。
  - ・教科書P110P111を開かせ、詩を読む前に、雨の日のイメージを質問する。
  - ・詩を朗読する。

⑤「雨のうた」から分かったことをワークシートに書かせる。

⑥ 分かったことを発表させる。

雨のうた

しをたのしもう

詩を読んでわかったことを書きましよう

⑧次回は「ことばでみちあんない」を学習します。  
どんな言葉を使うと上手に道案内ができるのでしょうか。

### 3 3

#### 題材名 目 標

「ことばでみちあんない」（第1時／全1時間）

相手に伝わるように、話す事柄の順序を考えることができる。  
共通、相違、事柄の順序などの情報と情報との関係について理解できる。  
話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞くことができる。

#### 領域等

A 話すこと 聞くこと

#### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「ことばでみちあんない」を黒板に書く。 ・ワークシートを配る。 ② 本時の目標を黒板に書く。 じょうずにつたえよう ・声に合わせて目標を読ませる。 ・ワークシートに書かせる。	・本時の目標を知る ・声を合わせて目標を読む ・目標をワークシートに書く
展開 38分	③ P112 教科書の公園の絵を見させる。 ・「公園にはどんな物がありますか？」 ・公園にある物を確認させてから教科書を読む。 ・P112 下を教師が範読する。 ・児童に人差し指を教科書の絵の入り口に置かせて、もう1度P112の下を会話文を範読し児童には指で絵をなぞらせる。 ・「待ち合わせをするのはどこのベンチでしょうか？指で示してください。」 ・児童が示したベンチを確認する。	・教科書を見る ・池、噴水、街灯、ベンチ、トイレ、パンダ、切り株、ブランコ、鉄棒、雲梯（うんてい） ・先生の読みに合わせて指を動かす ・ベンチを示す
終 2分	④ P113 ①を読む。分かりにくい点を理由と一緒に発表させる。 ⑤ P113 ②を読む。道案内体験をする。 （人数が少ない場合は案内する側は1人が前へ出て説明する。人数が多い場合はグループを作り、案内する側、させる側に分かれて時間を決めて学習活動を進める。） ・全員、教科書を閉じる。◎○ ・案内する側だけ教科書をもって前へ出る。 ・絵の中の待ち合わせ場所を発表する。 ・道案内をする。 ・案内される人はワークシートにメモをする。 ⑥ ③ 聞いた人はメモと教科書を開いて地図を見て、案内通りにいけるのかを確かめさせる。 ⑦ 次時の予告をする。 「次回は『かん字のひろば2』を学習します。」	・聞いてみてわかりにくいことがあれば発表する。 ・バラ園は右か左か、しばらくはどのくらいか、右に曲がる目印はないのか ・道案内体験をする 道案内側は教科書を見て説明する。 案内される側は教科書を閉じて、説明をワークシートにメモを書く ・案内とおりに行けたのかを確認する ・次時の見通しを持つ

#### 指導のポイント

- ・ 絵を見て相手に正しく伝えるためのポイントを整理させる。
- ・ 日本語の習得の差がある実態では上手に道案内ができなくても厳しい意見は言わせない。
- ・ 友達の案内を聞いて大事だと思う内容をメモさせる。

## 板書例

①題名材「ことばでみちあんない」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・「じょうずにつたえよう。」
  - ・ワークシートを配付し、書き込ませる。
  - ・教科書P112の絵を見させる。教科書を読み案内通り指でなぞらせる。
  - ・みどりさんの説明でわかりにくかった点を発表させる。

- ⑤順番に案内をしてみる。
- ・教科書を閉じ、案内を聞き、メモをとる。

みちあんないをメモしよう

じょうずにつたえよう

ことばでみちあんない

⑦次回は「かん字のひろば2」を学習します。  
かん字を使って1週間のできごとを日記にします。楽しみですね。

二ねん「くみ

なまえ「

」

がくしゅうのめあて


みちあんないをメモしよう。


あんないとおりに行けるか

たしかめましょう



二ねん「くみ

なまえ「

」

がくしゅうのめあて

じ	よ	う	ず	に	っ	た	え	う
---	---	---	---	---	---	---	---	---

みちあんないをメモしよう。


あんないとおりに行けるか

たしかめましょう

# 34

**題材名** 「かん字のひろば2」（第1時／全1時間）

**目標** 第1学年で配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。  
 進んで今までに学んだ漢字を使用して文を書こうとすることができる。  
 書いた文を友達と読み合い、同じ漢字を使っても違う文ができることを理解する。

**領域等** B 書くこと

**学習の流れ**

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「かん字のひろば2」を黒板に書く。 ・ワークシートを配る。	
展開 38分	② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">1年生でならったかん字をふくしゅうしよう</div> ・声に合わせて目標を読ませる。 ・ワークシートに書かせる。	・本時の目標を知る ・声に合わせて目標を読む ・目標をワークシートに書く
	③ P114 範読する。	・教科書を見ながら範読を聞く
	④ P114の漢字の読み方を確認する。 ・児童に読ませる。 月曜日（げつようび）⇒花だん（か）⇒草とり（くさ） ・ワークシートにふりがなを書かせる。	・漢字を読む  ・ワークシートにふりがなを書く
	⑤ P114の絵を見させる。 ・例を範読する。 ・月曜日は草取りをしました。あつくてとてもたいへんでした。 ・火曜日から日曜日まで何をしている絵か発表させる。 ・絵を見て子どもの様子を考えさせる。 ・日記はどのような様子だったのかを書くことが大切であることを理解させる。○	・絵を見て例にならって火曜日 から日曜日まで出来事を発表する
	⑥ ワークシートに火曜日から日曜日までの日記を書かせる。	・絵を見て日記を書く
	⑦ 書いた日記を友達と交換し合い読み合う。◎	・友達と交換し合い読み合う
終 2分	⑧ 次時の予告をする。 「次回は『どうぶつ園のじゅうい』を学習します。」	・次時の見通しを持つ。

**指導のポイント**

- ・教科書の絵を見て、男の子の生活の様子を想像させる。絵の表情に注目させる。
- ・絵の中の言葉を組み合わせて1週間の日記を1行程度で書かせる。
- ・友達の書いた文を読み合い、学びを深めようとする態度を育成する。

## 板書例

①題名材「かん字のひろば2」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・「1年生でならったかん字をふくしゅうしよう。」
  - ・ワークシートを配付し、書き込ませる。
- ③P114範読する。
- ④P114漢字の読み方を確認する。
- ⑤P114の絵を見させ日記を書く場合のポイントを理解させる。

- ⑥例を参考に1週間の日記を書かせる。
- ⑦日記を交換して読み合う。

かん字のひろば

1年生でならったかん字を

ふくしゅうしよう

・かん字にふりがなを書きましょう

・絵の中のことばをつかって

日記を書きましょう。

⑧次回は「どうぶつ園のじゅうい」を学習します。  
皆さん動物は好きですか？どんな獣医さんが出てくるのでしょうか楽しみです。





# 35

題材名 「どうぶつ園のじゅうい」①（第1時／全3時間）

目標 標 時間的な順序や事柄の順序を考えながら、獣医の仕事やそのわけを読み取ることができる。

領域名 C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「どうぶつ園のじゅうい」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「じゅういさんのしごとを、じゅんばんにまとめよう」 ・ワークシートを配布し、目標を書き込ませる。	・本時の目標を知る。 ・ワークシートに書き込む。
展開 33分	③ 教科書を読む。 ・教師が読む。全員で読む。 ④ 獣医さんの仕事を確認する。 「獣医さんの仕事は何でしょう。」 ・教師が黒板に書いて整理する。	・音読する。  ・獣医の仕事を考える。
終末 2分	⑤ いつもしていることが書いてある文に線を引かせる。 ・この日だけにしたことが書いてある部分にも、色を変えて線を引かせる。 ⑥ 獣医の仕事を、順番にまとめさせる。 ・ワークシートにまとめさせる。 ⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は、考えたことや気づいたことを書きます。」	・いつもしていることと、この日だけにしたことが書いてある部分に色を変えて、線を引く。  ・獣医の仕事を順番にまとめる ・ワークシートにまとめる。 ・次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

○ 筆者と動物園について

・植田 美弥 先生は、東京農工大学獣医学科卒業。よこはま動物園ズーラシア獣医である。この動物園では、3人の獣医が分担して動物の治療に当たっている。先生は、開園当時から働いている。よこはま動物園ズーラシアは、1999年4月24日神奈川県横浜市旭区に開園した動物園である。テーマは「生命の共生自然との調和」。世界の希少動物およそ70種がくらして、世界に約300頭しかいないインドライオン、セズジキノボリカンガルー、ヤブイヌ、カンムリセイラン、モウコノロバ、マレーバクやブラジルバク、カンムリシロムク、カグー、ホオアカトキなどの希少野生動物等の飼育・繁殖に取り組んでおり等が展示されている。

板書例

- ① 題材名「どうぶつ園のじゅうい」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 教科書を読む。
  - ・教師が読む。全員で読む。

いつ	朝	見回り がおわ るころ	お昼前	夕方	一日の おわり
どうぶつ の名前		い のし	にほん ざる	ペンギ ン	
じゅういさんの しごと	どうぶつ園を見 回る。	い のし のおな かにきか いを当 てた。	はちみつにまぜ て、くすりをの ませる。	くすりをのませ てはかせた。	日記を書く。
どうしてそう するのか	びょうきにな ったときに、 すぐに気づく。	赤ちゃんがい るかみるため。	にがいあじが 大きらい。	ペンをのんず る。	おふろに入る。 よりよいちり びょうきのも とをなくす。

○じゅういさんのしごと

- ・どうぶつたちが 元気にくらせるようにする
- ・びょうきやけがの ちりょうをする。

どうぶつ園のじゅうい

じゅういさんのしごとを、じゅんばんにまとめよう

獣医さんの仕事を確認する。「獣医さんの仕事は何でしょう。」

- ⑤ いつもしていることが書いてある文に線を引かせる。
  - ・この日だけにしたことが書いてある部分にも、色を変えて線を引かせる。
- ⑥ 獣医の仕事、順番にまとめさせる。
  - ・ワークシートにまとめさせる。

- ⑦ 次時の予告をする。

どうぶつ園のじゆうい①

二年 組 名前( )

じゆういをするじゆうい

いつ	どうぶつ園の名前	じゆういをするじゆうい	どうぶつ園に行くのか
朝		どうぶつ園を見回る。	
見回りがおわ るころ	いし	いしのおなかにき かいを当てる。	



# どうぶつ園のじゅうい①(記入例)

二年 組 名前( )

じゅういちゃんのじゅういを、じゅういばんにもどめよう。

じゅういちゃんのじゅうい

どうぶつたちが、元気にくらせるようにする。

びょうきやけがの、ちりようをする。

いつ	どうぶつの名前	じゅういちゃんのじゅうい	どうしてそうするのか
朝		どうぶつ園を見回る。	びょうきになったときに、すぐに気づく。 かおを見せて、なれてもらう。こえもおぼえてもらう。
見回りがおわるころ	いのしし	いのししのおなかにきかいを当てた。	赤ちゃんがいるかみるため。
お昼前	にはんざる	はちみつにませて、くすりをませた。	にがいあじが大きい。
夕方	ペンギン	くすりをのませてはかせた。	えきとまちがえて、ボールペンをのんだ。
一日のおわり		日記を書く。  おふろに入る。	同じようなびょうきやけがあつたとき、よりよいちりようをすることが出来る。 どうぶつの体について、びょうきのもとをなくす。

# 36

題材名 「どうぶつ園のじゅうい」② (第2時/全3時間)

目標 文章の中の大事な言葉や文を書き抜き、自分の経験と結び付けて、感想を伝えることができる。

領域名 C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「どうぶつ園のじゅうい」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「考えたことや、気がついたことを書こう。」 ・ワークシートを配布し、目標を書き込ませる。	・本時の目標を知る。 ・ワークシートに書き込む。
展開 33分	③ 教科書を読む。 ・教師が読む。全員で読む。 ④ 知っている動物や獣医のことを発表させる。 ・教師が発表を黒板に書く。	・音読する。 ・知っている動物や獣医のことを発表する。
終末 2分	⑤ 考えたことや気づいたことを書かせる。 ・p124の例文から、ポイントを押さえる。 ⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は、学校でしている係の仕事を、家の人に伝えます。」	・考えたことや、気づいたことを書く。 ・次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

○ 獣医の仕事について

・動物検疫と畜産物の輸出入管理で獣医が多岐に活躍している。現在、豚の口蹄疫や牛の BSE のような輸入感染症から、畜産業を守り、肉類など畜産物の生産と消費を保障することは、世の中で大きく注目されている。獣医は、この食糧確保のいわゆる安全保障の一環として、畜産業を護るために極めて重要な役割を果たし、その運用基準づくりには、獣医学の科学的な手技が用いられる。また、今なお、世界中で動物を介した人に感染する感染症（人獣共通感染症）が、しばしば認められる。狂犬病、鳥インフルエンザ、西ナイル熱を始めとする人に致死的な人獣共通感染症の研究とその防疫には、獣医学の知識が不可欠であり、医学研究者と共同で、それらの制圧のために、多くの獣医師が熱心に取り組んでいる。次に、都市における犬と猫を対象とする開業獣医師は、可能な限り多くの治療技術を駆使して動物の病気を治療している。獣医内科の領域では、診断と投薬を中心に治療が行なわれ、外科領域では、腹部、胸部、および整形のそれぞれ専門的な外科治療が日常行なわれている。

## 板書例

- ① 題材名「どうぶつ園のじゅうい」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 教科書を読む。
  - ・教師が読む。全員で読む。

どうぶつ園のじゅうい

考えたことや、きづいたことを書くこと

○知っているどうぶつやじゅういさんのこと

- ・ペットショップで犬やねこを見る
- ・チワワやトイプードルが人気がある
- ・長生きするペットが増えている
- ・感染症などむずかしいびょうきがある
- ・きょうけんびょうのよぼうちゅうしゃをした

○ひきつけられたことはどこですか

ぼくは、にほんざるがはちみつといっしょにくすりをのんだところを読んで、本当にほっとしました。それは、ぼくも、くすりをのむのがにがてからです。あまいくすりもあるけど、かたくて、のみにくいものもあります。おかあさん、まないと、なおらないよ。」  
してのみます。にほんざるは、くすりを早く元気になるためだと分かっているのかなれを、知りたいと思いました。

- ④ 知っている動物や獣医のことを発表させ、教師が板書する。

- ⑤ 考えたことや、気がついたことを書かせる。
  - ・ P.124の例文から、ポイントを押さえる。
  - ・ いちばん引き付けられたところをもとに書く。
  - ・ 自分が知っていることと比べて書く。

- ⑦ 次時の予告をする。

「ふたつ」のじゆん②

二年 組 名前( )

知ることからふたつをひきかえたい。

ふたつをひきかえたい。ふたつをひきかえたい。

## どうぶつ園のじゆう②(記入例)

W 36

二年 組 名前( )

考えたことや、気がついたことを書こう。

知っているどうぶつやじゆういさんのこと

- ・ペットショップで、犬やねこを見る。
- ・チワワやトイプードルが、にんぎがある。
- ・長生きするペットがらえている。
- ・トリインフルエンザや牛のこうていえきなどおすかしびょうきがある。
- ・きょうけんびょうのよぼうちゆうしやをした。

ひきつけられたことはありますか。どんなことでしょうか。

ぼくは、にほんぎるがはちみつといしよにくすりをのんだとこるを読んで、本当はほんとしました。

それは、ぼくも、くすりをのものがにがてだからです。あまいくすりもあるけど、かたくて、のみにくいものもあります。おかあさんが、

「のまないと、なおらないよ。」

と言うので、がまんしてのみます。

にほんぎるは、くすりをのものは早く元気になるためだと分かっているのかな。それを、知りたかったです。

# 37

題材名 「どうぶつ園のじゅうい」③（第3時／全3時間）

目 標 「はじめ・中・おわり」の構成で文章を書くことができる。

領域名 C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 10 分	① 題材名「どうぶつ園のじゅうい」を黒板に書く。  ② 本時の目標を黒板に書く。 「学校のかかりのしごとを、いえの人につたえよう」 ・ ワークシートを配布し、目標を書き込ませる。	・ 本時の目標を知る。 ・ ワークシートに書き込む。
展 開 33 分	③ 教科書を読む。 ・ 教師が読む。全員で読む。  ④ 学校でしている係の仕事を発表させる。 ・ 教師が発表を黒板に書く。	・ 音読する。  ・ 学校でしている係の仕事を発表する。
終 末 2 分	⑤ 書き方を確認して、係の仕事について書かせる。 ・ p125の例文からポイントを押さえる。 ・ はじめ、中、おわりの3つの構成にさせる。 ⑥ 進出漢字「朝、顔、毎、家、当、間、昼、半、電、外」の学習をさせる。 ・ 私は友達の、2冊の本を紹介する。  ⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は、『ことばあそびをしよう』の学習をします。」	・ 書き方を確認して、係の仕事について書く。  ・ 新出漢字の学習をする。  ・ 次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

○ 係活動について

・ 係活動は日常の学級生活に密接にかかわる役割分担であり、やらなければならない当番活動と異なり、児童の必要感から設置されるものである。一人一人の児童が自分たちでつくったという意識がもてるように、児童による話し合いを通して構成された組織とする。その内容は形式的な組織ではなく、児童が活動の過程で検討し合い、その自主的な創意工夫によって改善できるようなものが望ましい。（小学校学習指導要領解説 特別活動編）

○ 具体的な係活動について

・ 2種類が考えられる。

①創意・工夫の余り入らないもの（当番活動に近い） 例 黒板係、配り係、給食係、体育係  
音楽係、電気係、音楽係、掲示係

②創意・工夫のかなりできるもの 例 新聞係やレクリエーション係など

- ① 題材名「どうぶつ園のじゅうい」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 教科書を読む。
  - ・教師が読む。全員で読む。

どうぶつ園のじゅうい

学校のかかりのしごとを、いえの人につたえよう

○学校でしているかかりのしごと

- ・くぼりがかり・・・プリントなどをくぼる
- ・おんがくがかり・・・朝の歌をかける
- ・たいいくがかり・・・たいそうをする

◇書き方

- ・はじめ かかりの名前
- ・中 いつもすること、とくべつにしたこと
- ・おわり 思ったこと

わたしは、めだかがかりです。毎日めだかにえさをやります。ときどき、すいそうのそうじもします。きのう、えさをやっていると、たまごをつけておよいでいるめだかを見つけました。みんなに知ってほしかったので、かえりの会ではつびようしました。たまごがかえるのがたのしみです。

◇新しいかん字

「朝、顔、毎、家、当、間、昼、半、電、外」

- ④ 学校でしている係の仕事を発表させる。

- ⑤ 書き方を確認して、係の仕事について書かせる。
  - ・ P.125の例文から、ポイントを押さえる。
  - ・ 始め、中、終わりの3つの構成にさせる。

- ⑥ 新出漢字「朝、顔、毎、家、当、間、昼、半、電、外」の学習をさせる。

どうぶつ園のじゆう③

二年 組 名前( )

[Empty rectangular box for writing the group name]

学校でしているかかりのじゆう

書き方

はじめ

中

おわり

[Large empty rectangular box for writing the story]

新しいかん字

「 」・「 」・「 」・「 」・「 」・「 」・「 」

本は友だち

「どうぶつえんガイド」「ほのかほのかたしあちあちるわん」



# どうぶつ園のじゆうい③(記入例)

二年 組 名前( )

学校のかかりのじゆうい、いえの人につたえよう。

学校でしているかかりのじゆうい

くばりがかり・・・プリントなどをくばる。

おんがくがかり・・・朝の歌をかける。

たいいくがかり・・・たいそうをする。

書き方

はじめ かかりの 名前

中 いつもすること、ある日とくぐつにしたら

おわり 思ったこと

わたしは、めだかがかりです。

毎日めだかにえさをやります。ときどき、すいそうのえうじもします。

きのう、えさをやっていると、たまごをつけておよいでいるめだかを見つけました。みんなに知ってほしかったので、かえりの会ではびょうじしました。

たまごがかえるのがたのしみです。

新しいかん字

「朝」「顔」「毎」「家」「当」「間」「昼」「半」「電」「外」

本は友だち

「どうぶつえんガイド」「ぽかぽかだいすきおやんちん」

題材名 「ことばであそぼう」(第1時/全1時間)

目標 意味のまとまりに気をつけて、声に出して読むことができる。

領域名 A 話すこと・聞くこと 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「ことばであそぼう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「こえに出して たのしもう」 ・ワークシートを配布し、目標を書き込ませる。	・本時の目標を知る。 ・ワークシートに書き込む。
展開 33分	③ 教科書P127を読む。 ・教師が読む。全員で読む。 ④ 「あいうえお」「あかさたな」を使って文を作らせる。 ・教師が黒板に書いて整理する。	・音読する。 ・「あいうえお」「あかさたな」を使って文を作る。
終末 2分	⑤ 「ののはな」「ことこ」を声に出して楽しませる。 ・ことばのの切れ目を考えさせる。 ⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は、『なかまのことばとかん字』の学習をします。」	・「ののはな」「ことこ」を声に出して楽しむ。 ・次時の見通しを持つ。

### 指導のポイント

#### ○ 言葉遊びの詩について

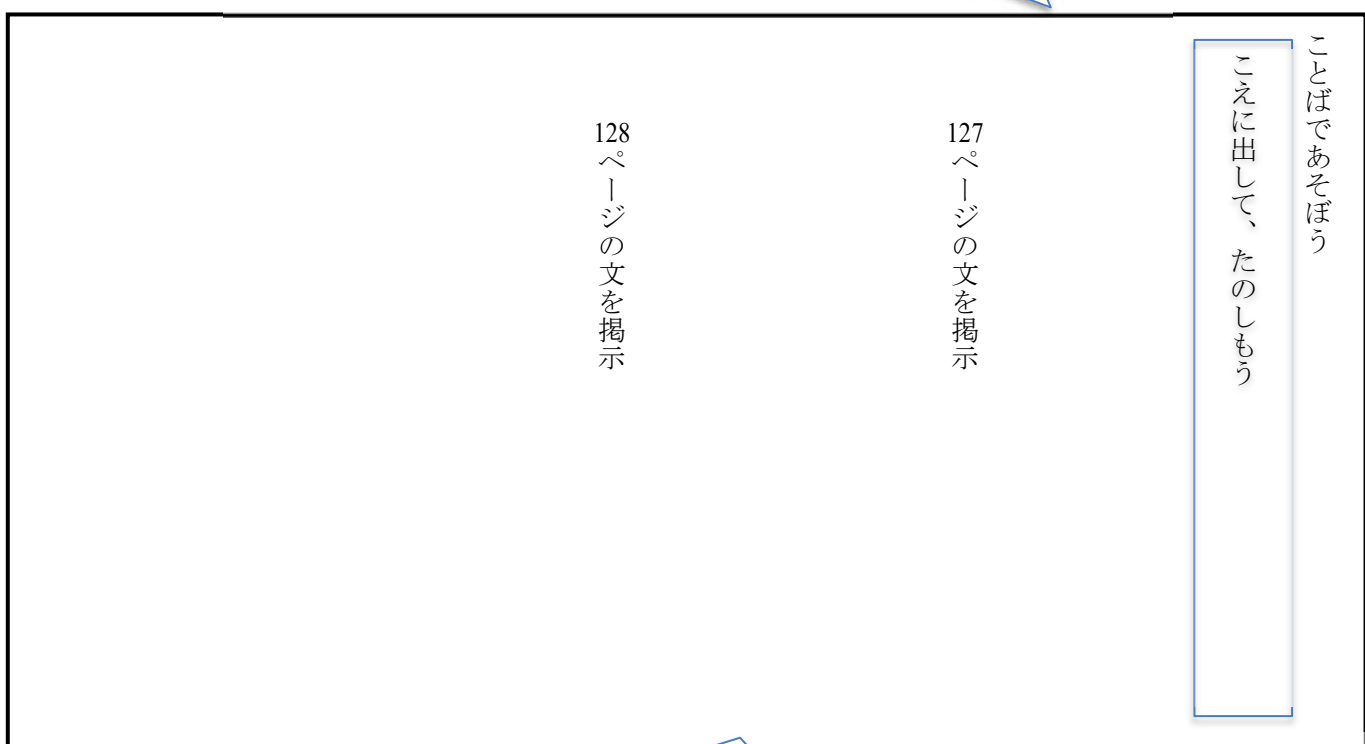
・ことばあそびの詩は、声に出して読むことで、言葉のおもしろさや言葉の楽しさに気づかせてくれる。ことばあそびの詩は、ひらがなだけで書かれている。句読点がないため、意味が分かりにくい。

児童は、初めて読むとき、どういう意味なのか、興味・関心を寄せるであろう。そこで、文節のまとまりごとに線を引かせたり、手拍子を入れたりするとよい。「ののはな」を漢字かなまじり文にすると、「花野の 野の花 花の名 なあに。なずな 菜の花名もない 野花」となる。分ち書きのところに線を入れさせることになる。また、「ことこ」は、「この子 のこのこ どの子 この子。この子 その鋸 たけのこ 切れぬ。その子 のそのそ このけ その子。その子の その斧きのこも 切れぬ。」となる。

## 板書例

- ① 題材名「ことばであそぼう」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 教科書を読む。
  - ・教師が読む。全員で読む。



- ④ 「あいうえお」「あかさたな」を使って文を作らせる

- ⑤ 「ののはな」「ことこ」を声に出して楽しませる。
  - ・言葉の切れ目を考えさせる。

- ⑥ 次時の予告をする。

いしほだおんぼろ

二年 組 名前( )

[Empty rectangular box for writing the group name]

あいうえお	あかさたな
あ	あ
い	か
う	さ
え	た
お	な

ののはな  
 はなののののはな  
 はなのななあに  
 なまななののはな  
 なまなのののはな

いしほだ  
 いしほだいしほだ  
 いしほだいしほだ  
 いしほだいしほだ  
 だけいしほだ  
 ねいしほだ  
 けいしほだ  
 ねいしほだ  
 ねいしほだ

# ことばであそぼう(記入例)

二年 組 名前( )

こえに出して、たのしもう。

あいうえお	あかさたな
ありが、	あまいカステラと
いけに	かりかりのクッキーをもちで、
ういている。	たあ、
えだから	たびに出よう。
おちたんだよ。	なにがおこるかな。

のはな  
はなのの ののはな  
はなのな なあに  
なすな ~~な~~のはな  
なもな ~~の~~ばな

りるり  
りりりり ~~りりり~~  
るりりり ~~りりり~~  
りりりり ~~りりりり~~  
たけりり ~~きれぬ~~  
そりり ~~の~~そり  
そりり ~~の~~そり  
そりり ~~の~~そり  
きりり ~~も~~きれぬ

# 39

**題材名** 「なかまのことばとかん字」 (第1時/全1時間)  
**目標** 身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のきまりがあることに気づき、語彙を豊かにする。  
 言葉にはまとまりがあることに気づき、進んで学習課題にそって言葉を集める。

**領域等** A 話すこと 聞くこと C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「なかまのことばとかん字」を黒板に書く。  ・ワークシートを配る。 ② 本時の目標を黒板に書く。 なかまのことばとかん字をいっしょにおぼえよう。 ・声に合わせて目標を読ませる。 ・ワークシートに書かせる。	・本時の目標を知る ・声を合わせて目標を読む ・目標をワークシートに書く
展開 38分	③ P130 絵を見させる。 絵に示されている言葉を教師が読む ⇒ 児童が読む。 父(ちち) 兄(あに) と漢字の正しく読む。 ・家の人 ・お金 ・1日 ・教科 ・色 ・天気 ・言葉には仲間があることを理解させる。  ④ ・ワークシートの仲間の問題をさせる。 ・答え合わせをする。  ⑤ かん字を練習させる。 ・児童を背に黒板を向いて「父」の書き順に気をつけて1度書いてみる。児童には腕を上げて空中へ書かせる。 ・ワークシートに練習させる。	・教科書を見ながら先生のあとに続いて読む  ・説明を聞く  ・ワークシートの問題をする ・答え合わせをする  ・ワークシートの問題をする ・先生のあとに続いて空中に漢字を書く ・ワークシートの漢字練習をする
終 2分	⑥ P153～154 黙読させる。 ・漢字を書き終わったら教科書を黙読させる。 ・まとまりごとに好きな言葉を1つ選ばせる。 ・教科書の言葉を○で囲ませる。 自分を表す言葉 物の様子を表す言葉 考え方を表す言葉 気持ちを表す言葉  ⑦ 友達と何を選んだのか交換し合う。選んだ理由を発表する。◎  ⑧ 次時の予告をする。 「次回は『かん字のひろば3』を学習します。」	・漢字を書き終えたらP153を読み、好きな言葉に○をする  ・友達と意見を交換する  ・次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

- ・言葉にはまとまりがあることに気付かせる。補習校の場合は国や地域、日本語習得状況に違いがあるので、教師主導で進めても良い。
- ・進んで言葉のまとまりに興味関心がもてるようにテンポよく授業を進める。
- ・かん字を書かせる時間を取り、「書く」学習を進める場合は、ゆっくり集中して書かせる。
- ・P153～P154は時間に余裕があれば取り組む。

## 板書例

①題名材「なかまのことばとかん字」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。

- ・「なかまのことばとかん字をいっしょにおぼえよう。」
- ・ワークシートを配付し、書き込ませる。
- ・教科書P130～131のまとまりを読む、児童にはリピートさせる。
- ・ワークシートのまとまり問題をさせる。

⑤かん字練習をさせる。

⑦教科書に○をつけた好きな言葉を発表させる

なかまのことばとかん字

なかまのことばとかん字を

いっしょにおぼえよう

なかまのことばを線でむすびましょう

かん字にふりがなを書きましょう

好きなことばをはっぴょうしよう。

⑧次回は「かん字のひろば3」を学習します。

次の学習で教科書「上」は終わります。皆さん、よく頑張りました。



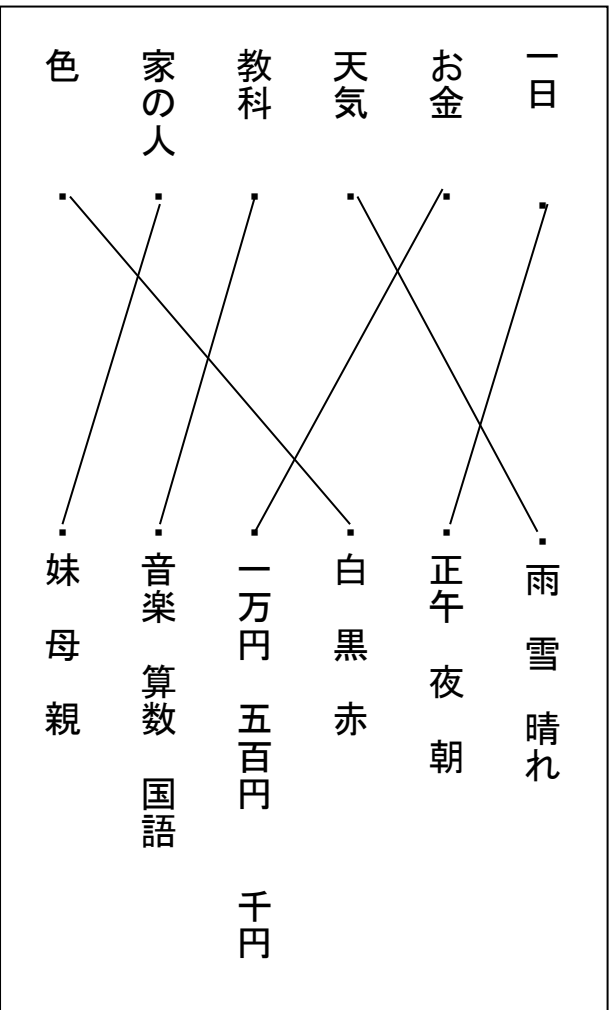


「二ねん」「くみ なまえ」

がくしゅうのめあて

い	な
っ	か
し	ま
よ	の
に	こ
お	と
ぼ	ば
え	と
よ	か
う	ん
	字
	を

なかまのことばをせんで線でむすびましょう



かん字のれんしゅうをしよう

兄	母	父
夜	午	弟
算	語	国

すきなことばをはっぴょうしよう

# 40

**題材名** 「かん字のひろば3」（第1時／全1時間）  
**目標** 第1学年で配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。  
 進んで今までに学んだ漢字を使用して文を書こうとすることができる。  
 書くことにおいて語と語との続き方に注意することができる。

**領域等** B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「かん字のひろば3」を黒板に書く。 ・ワークシートを配る。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">絵の中の学校のように書きましょう</div> ・声に合わせて目標を読ませる。 ・ワークシートに書かせる。	・本時の目標を知る ・声を合わせて目標を読む ・目標をワークシートに書く
展開 38分	③ P132 絵を見させる。 ・補習校と日本の学校の違いに気付かせる。 ・挿絵のかん字を読む。 教師が読む ⇒ 児童が続けて読む。 挿絵1つのかん字を児童1人が読む。（数名にあてる） ④ P132 ワークシートにふりがなを書かせる。 ・ワークシートに○つけをする。 ⑤ 「は」「を」正しくつかいましょう。 例にならって文を書かせる。 ・一年生は手をあげて正しい答えを言います。 ・先生は正しい答えがわかった人は手をあげてくださいと言いました。（高度な文） ・一年生は目の検査をします。 ・一年生はピアノの音を聞いて大きな口で立って歌います。 ・一年生は白い花を見つけます。 ・一年生は大きな魚を見つけます。 ・時間に余裕があればP133以降の大切なまとめを読んでも良い。	・教科書を見ながら範読を聞く ・日本学校と補習校の違いを発表する ・漢字を読む  ・ワークシートにふりがなを書く ・先生に○をつけてもらう  ・文を書く
終 2分	⑥ 次時の予告をする。 「次回は教科の下『お手紙』を学習します。」	・次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

- ・教科書の絵を見て、日本の学校生活の様子を想像させる。
- ・助詞の「は」「を」を適切な使えるようにする。主語に「は」をつけさせる。
- ・指導案の中には例として複数の動きが文に示されているが単純な文章で良いので書かせる。
- ・主語が先生なのか、一年生なのか、を決めさせる。結論は、主語はどちらでも良いので文を書かせる。
- ・文を考えることが楽しい「授業展開」に心がける。

## 板書例

①題名材「かん字のひろば3」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・「絵の中の学校のようすを書きましょう。」
  - ・ワークシートを配付し、書き込ませる。
  - ・教科書P132の漢字を読む。
  - ・ワークシートにふりがなを書かせる。

⑤例を参考に「は」「を」に気をつけて文を書かせる。

かん字のひろば

一年生でならったかん字を

ふくしゅうしよう

・かん字にふりがなを書きましょう

・絵に中のことばをつかって

日記を書きましょう。

⑥次回から国語教科書は下です。  
「お手紙」を学習します。





# 4 1

題材名 「お手紙」①（第1時／全4時間）

目 標 登場人物の気持ちや場面の様子を想像しながら音読できる。

領域名 C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 10 分	① 題材名「お手紙」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「ぜん文をよんで、お話のあらましをつかもう」 ・ ワークシートを配布し、目標を書き込ませる。	・ 本時の目標を知る。 ・ ワークシートに書き込む。
展 開 33 分	③ 全文を読む。 ・ 教師が読む。全員で読む。 ④ 登場人物を確認する。 「がまくん」「かえるくん」「かたつむりくん」 ・ 形式段落の番号を打たせる。（20段落）	・ 音読する。 ・ 登場人物を確認する。 ・ 形式段落の番号を教科書に打つ。
終 末 2 分	⑤ 初発の感想を書かせる。 ・ 発表を黒板に書く。 ⑥ 新出漢字の練習をさせる。 「紙」・「来」・「時」・「帰」・「何」 ⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は、『なかまのことばとかん字』の学習をします。」	・ 初発の感想を書く。 ・ 書いたことを発表する。 ・ 新出漢字の練習をする。 ・ 次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

### ○ 教材について

・ ちょっぴりわがままで、自分勝手ながまくんと、一生懸命相手に優しい言葉をかけるかえるくん、いずれも2年生の心には、ぴったりとその心が感じ取れるお話である。手紙を1度ももらったことのないがまくんのさびしさが、少し心をいじけさせてしまうところ、何とかがまくんを喜ばせてあげようとして、内緒で手紙を出すかえるくん、しかもかえるくんが、何とかがまくんの心を晴れ晴れとさせてあげたくて、内緒を打ち明けてしまうところ、頼まれた手紙を懸命に運ぶかたつむりくんの楽しさなど、素直な心で話の世界を思う存分想像し、楽しんでもらいたい。

### ○ 教師の範読について

・ CDがあれば聴かせて、有効に活用する。挿絵もアーノルド・ローベル作であることを話す。

### ○ 漢字学習について

・ 字形・読み・筆順・終筆・言葉集め・文作りを指導する。字数により時間を分けて指導してもよい。宿題では、漢字一つにつき、最低三つずつの言葉集めをさせる。

## 板書例

- ① 題材名「ことばであそぼう」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ さし絵と対応させながら、ゆっくりと読んで聞かせる。
  - ・教師が全文を読む。全員で読む。

お手紙

ぜん文を読んで、お話のあらましをつかもう

◇さし絵を見ながら聞きこよう。

○とうじょう人ぶつはだれだろう。

『がまくん』『かえるくん』『かたつむりくん』

◇けいしきだんらくにばんごうをうとう。

一マス下がったところ・・・二十ある。

○かんそうを書こう。

・がまくんは、手紙をもらったことがないんだ。

・どちらが言ったことばか、ややこしいな。

・かえるくんは、がまくんに手紙を書いたよ。

・かえるくんは、やさしいな。

・ふたりともしあわせな気もちでよかったな。

○新しいかん字をべんきようしよう。

「紙」・「来」・「時」・「帰」・「何」

◇しゅくだい

新しいかん字をつかってことばあつめをしよう

- ④ 登場人物を確認する。・形式段落の番号を教科書に打たせる。

- ⑤ 初発の感想を書かせる。

- ⑥ 新出漢字の学習をさせる。

「紙」・「来」・「時」・「帰」・「何」

- ・宿題を伝える。

お手紙①

二年 組 名前( )

めあて

やし絵を見ながら聞きたらう。

どうしよう入らつはだれたらう。

『 』 『 』 『 』 『 』

けしきだんらくにはんたらうをうたらう。

「又下がたどる... ある。」

かんそうを書きたらう。

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

新しいかん字をくんおきたらうしよたらう。

『 』 『 』 『 』 『 』 『 』 『 』 『 』

『 』 『 』 『 』 『 』 『 』



## お手紙①(記入例)

二年 組 名前( )

めあて

ぜん文を読んで、お話のあらましをつかもう。

さし絵を見ながら聞きよう。

どうしよう入らつはだれだろう。

『がまくん』『かえるくん』『かたつむりくん』

けいしきだんらくにはんどうをうとう。

一又下がたどる…二十ある。

かんそうを書こう。

- ・がまくんは、手紙をもらったことがないんだ。
- ・どちらが言ったことばか、ややこしいな。
- ・かえるくんは、がまくんに手紙を書いたよ。
- ・かえるくんは、やさしいな。
- ・ふたりともしあわせな気持ちでよかったな。

新しいかん字をぐんきようしよう。

「紙」・「来」・「時」・「帰」・「何」

## 42

題材名 「お手紙」②（第2時／全4時間）

目標 登場人物の気持ちや場面の様子を想像しながら音読できる。

領域名 C 読むこと

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「お手紙」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「二人がかなしい気持ちでいるわけを読みとろう」 ・ワークシートを配布し、目標を書き込ませる。	・本時の目標を知る。 ・ワークシートに書き込む。
展開 33分	③ 第一場面を読む。 ・教師が読む。全員で読む。 ④ 会話文がだれの言葉かを確認する。 「がまくん」赤「かえるくん」青「かたつむりくん」黒 ・会話の横に線を引かせる。	・第一場面を音読する。 ・会話文を確認する。 ・線を引く。
終末 2分	⑤ 二人がかなしい気持ちでいるわけを考えさせる。 ⑥ 二人一組で役割読みをさせる。 ・がまくんとかえるくんを交代で読ませる。 ⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は、がまくんとかえるくんの気持ちの違いを読み取りま す。」	・わけを考えて書く。 ・書いたことを発表する。 ・役割読みをする。 ・次時の見通しを持つ。

### 指導のポイント

○ 場面分けについて

・場面の分け方はいろいろ考えられるが、ここでは4つの場面に分けてみた。

第1場面 P12～P15

物語の初めから、かえるくんが「家へ帰る」と言ったところまでで、手紙をもらえないがまくんの様子が書かれている。

第2場面 P15～P16

かえるくんが自分の家へ帰り、手紙を書いた後に、がまくんの家へもどるまでで、かえるくんの行動が順序よく書かれている。

第3場面 P17～P20

がまくんがベッドでお昼寝をしているところから、「かたつむりくんは、まだやって来ません。」というところまでで、がまくんを励ますかえるくんと、手紙をあきらめたがまくんの気持ちが書かれている。

第4場面 P20～最後

かえるくんが窓からのぞいている理由をがまくんがたずねるところから、物語の最後までで、手紙を待つ2人の気持ちが書かれている。

- ① 題材名「ことばであそぼう」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 第1場面を、ゆっくりと読んで聞かせる。
  - ・教師が読む。全員で読む。

お手紙

二人がかなしい気持ちでいるわけを読みとろう

◇だいたい一ばめんを読もう。

○会話文が、だれのことばか考えよう。

がまくんは赤

かえるくんは青

かたつむりくんは黒

◇会話のよこに、線をひこう。

○「かなしい気持ち」でいるわけを考えよう。

がまくん

一日のうちのかなしい時なんだ。

お手紙をまつ時間なんだ。

お手紙もらったことないんだ。

だれも、ぼくにお手紙なんかくれたことがない。

ぼくのゆうびんうけは、空っぽさ。

かえるくん

がまくんが、いちども手紙をもらったことがないと

知ったからかなしい。

◇読み方をくふうしてやくわり読みをしよう。

- ④ 会話文がだれの言葉かを確認させる。
  - ・会話の横に色鉛筆で線を引かせる。

- ⑤ ふたりがかなしい気持ちでいる分けを考えさせる。

- ⑥ 2人1組で役割読みをさせる。
  - ・がまくんとかえるくんを交替で読ませる。

## お手紙②

二年 組 名前( )

めあて

だいたいばめんを読もう。

会話文が、だれのことばか考えよう。

赤

青

黒

会話のよこに、線をひこう。

「かなしい気もち」でいるわけを考えよう。

がまくん

かえるくん

読み方をくふうしてやくわり読みをしよう。

## お手紙②(記入例)

二年 組 名前( )

めあて

二人がかなしい気持ちでいるわけを読みとろう

だいたいばめんを読もう。

会話文が、だれのことはか考えよう。

がまくんは 赤

かえるくんは 青

かたつむりくんは 黒

会話のよこに、線をひこう。

「かなしい気持ち」でいるわけを考えよう。

がまくん

一日のうちのかなしい時なんだ。

お手紙をまつ時間なんだ。

お手紙もらったことないんだ。

だれも、ぼくにお手紙なんかくれたことがない。

ぼくのゆうびんうけは、空っぽさ。

かえるくん

がまくんが、いちども手紙をもらったことがないと

知ったからかなしい。

読み方をくふうしてやくわり読みをしよう。

# 43

題材名 「お手紙」③（第3時／全4時間）

目標 登場人物の気持ちや場面の様子を想像しながら音読できる。

領域名 C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「お手紙」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「がまくんとかえるくんのきもちのちがいを読みとろう」 ・ ワークシートを配布し、目標を書き込ませる。	・ 本時の目標を知る。 ・ ワークシートに書き込む。
展開 33分	③ 第二・三場面を読む。 ・ 教師が読む。全員で読む。 ④ 第二場面のかえるくんとかたつむりくんの様子を読み取らせる。 かえるくん・・・いそいでいる「大いそぎ」「とび出しました」 かたつむりくん・・・はりきっている「まかせてくれよ」 「すぐやるぜ」	・ 第二・三場面を音読する。 ・ かえるくんとかたつむりくんの様子を読み取る。
終末 2分	⑤ 第三場面のかえるくんとがまくんの気もちの違いを読み取らせる。 かえるくん・・・がまくんをはげます気持ち がまくん・・・あきらめてなげやりな気持ち ⑥ 二人一組で役割読みをさせる。 ・ がまくんとかえるくんを交代で読ませる。 ⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は、役割を決めて音読発表会をします。」	・ かえるくんとがまくんの気もちの違いを読み取る。 ・ 役割読みをする。 ・ 次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

○ 役割読みについて

① 声の大小・強弱に気をつけさせる。

② 工夫することを、表させてもよい。

③ 音読の練習をさせる。

④ 教師が、役割読みのグループ分けをする。地の文を入れて3人組でもよい。

○ ふたりの気持ちの違いについて

・ 郵便受けをまどからのぞく、早く手紙が届かないかなと心待ちにするかえるくんの気持ちの変化を、呼びかけの感じから考えさせたい。また、ふてくされたがまくんの様子ときつい口調は、お手紙をもらいたい気持ちと裏腹であることに「がまくんは、お手紙をほしくはないのでしょうか。」といった発問により気づかせたい。

## 板書例

- ① 題材名「ことばであそぼう」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 第2・第3場面を、ゆっくりと読んで聞かせる。
  - ・教師が読む。全員で読む。

お手紙

がまくんとかえるくんの気持ちのちがいを  
よみとろう

◇だい・二・三ぼめんを読もう。

○かえるくんとかたつむりくんのようす。

かえるくん・いそいでいる。

「大いそぎ」「とび出しました。」

かたつむりくん・はりきっている。

「まかせてくれよ。」「すぐやるぜ。」

○かえるくんとがまくんの気持ちのちがいを

かえるくん「もうちよつとまってみたらいいと思  
うな。」

ゆうびんうけを見ました。

「だれかが、きみにお手紙をくれるかもしれな  
いだろう。」

まどからのぞきました。

「きょうは、だれかが、きみにお手紙くれるか  
もしれないよ。」

がまくん

「いやだよ。」

「ぼく、もう、まっているの、あきあきしたよ。」

「そんなこと、あるものかい。」

「ばからしいこと、言うなよ。」

◇読み方をくふうしてやくわり読みをしよう。

- ④ 第2場面のかえるくんとかたつむりくんの様子を読み取らせる。

- ⑤ 第3場面のふたりの気持ちの違いを考えさせる。

- ⑥ 2人1組で役割読みをさせる。
  - ・がまくんとかえるく人を交替で読ませる。





## お手紙③(記入例)

二年 組 名前( )

めあて

がまくんとかえるくんの気持ちのちがいを読みとろう。

だい二はめんとだい三はめんを読もう。

かえるくんとかたつおりくんのようすを読みとろう。

かえるくん…**いそいでいる。**

「大いそぎ」「どび出しました。」

かたつおりくん…**はりまわっている。**

「まかせてくれよ。」「すぐやるぜ。」

かえるくんとがまくんの気持ちのちがいを読みとろう。

かえるくん **はげましている。**

「もうちよと まてみたらいいと思っな。」

ゆうびんうけを見ました。

「だれかが、きみに お手紙をくれるかもしれないだろ。」

まどから のぞきました。

「きようは、だれかが、きみに お手紙 くれるかもしれないよ。」

がまくん **おきらめしている。**

「いやだよ。」

「ぼく、もう、まてているの、おきおきしたよ。」

「そんなこと、あるものかい。」

「ばからしいこと、言うなよ。」

読み方をくふうしてやくわり読みをしよう。

# 4 4

題材名 「お手紙」④（第4時／全4時間）

目 標 登場人物の気持ちや場面の様子を想像しながら音読できる。

領域名 C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 10 分	① 題材名「お手紙」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「やくわりをきめて 音読はっぴょう会をしよう」 ・ ワークシートを配布し、目標を書き込ませる。	・ 本時の目標を知る。 ・ ワークシートに書き込む。
展 開 33 分	③ 音読発表会をする。 ・ 音読をさせる。 ・ 音読を聞いて、カードに評価を書かせる。 ④ がまくんになって、かえるくんにお礼の手紙を書かせる。 「がまくんになって、かえるくんにお礼の手紙を書こう」	・ 音読する。 ・ カードに評価を書く。 ・ かえるくんの手紙を書く。
終 末 2 分	⑤ アーノルド・ローベルの他の作品を読み聞かせる。 ⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は、『主語と述語に気をつけよう』の学習をします」	・ 読み聞かせを聞く。 ・ 次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

### ○ 音読発表会について

・ 補習校では学級の人数規模が様々であるが、1時間の内に発表会が進行できるようにグループ分けや読む範囲について計画しておきたい。

・ 進行は、教師が行う。進行しながらよいところをほめる、コメントを一人一人に与えていくようにする。

### ○ 相互評価について

・ 低学年から、相互評価の経験をつませたい。その際には、よいところを見つける視点、自分もまねしたい視点など、プラスの視点から評価し合うことを大切にしたい。

・ 評価する相手を決めさせて、評価カードを交換し合うようにさせる。

### ○ 挿絵について

・ ほのぼのとした二人の関係が楽しいお話がたくさんある。補習校の図書室等にあれば、ぜひ、「ふたりはともだち」、「ふたりはいっしょ」の中から選んで読み聞かせしたいものである。

- ① 題材名「ことばであそぼう」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 音読発表会をする。
  - ・友達の音読を相互評価させる。

お手紙

やくわりをきめて、音読はっぴよう会をしよう

◇気持ちがあられるように気を付けて読もう

◇友だちの音読はどうだったか、カードに書こう

- ・声の大きさはどうか
- ・読むはやはさはどうか
- ・読むしせいはどうか
- ・口のあけかたはどうか
- ・気持ちはあられているか

◇がまくんになってお礼の手紙を書こう

・かえるくん、お手紙をくれてどうもありがとう。きみからのお手紙は、とってもうれしかったです。また、お手紙を出したりもらったりしようね。  
・ぼくは、生まれてはじめてお手紙をもらったよ。かえるくんは、ぼくのたいせつな友だちです。これからもなかよくしようね。

- ④ がまくんになって、かえるくんにお礼の手紙を書かせる。

- ⑤ かえるくんとがまくんのお話を読む。
  - ・アーノルド・ローベルの他の作品を読んで聞かせる。

# お手紙④

二年 組 名前( )

めあて

やくわりをきめて、音読はつびよう会をしよう。

気持ちがあられるように気をつけて読もう。

友だちの音読はどうだったか、カードに書こう。

名前( )	
声の大きさはどうか	
読むはやさはどうか	
読むしせいはどうか	
口のあけかたはどうか	
気持ちはあられているか	

がまくんになっておれいの手紙を書こう。

アーノルド・ローベルのほかのさくびんを読みみよう。

## お手紙④(記入例)

二年 組 名前( )

めあて

やくわりをきめて、音読はつびよう会をしよう。

気持ちがあられるように気をつけて読もう。

友だちの音読はどうだったか、カードに書こう。

名前( )	
声の大きさはどうか	
読むはやさはどうか	
読むしせいはどうか	
口のあけかたはどうか	
気持ちはあられているか	

がまくんになっておれいの手紙を書こう。

- ・かえるくん、お手紙をくれてどうもありがとう。きみからのお手紙は、とってもうれしかったです。また、お手紙を出したりもらったりしようね。
- ・ぼくは、生まれてはじめてお手紙をもらったよ。かえるくんは、ぼくのたいせつな友だちです。これからもなかよくしようね。

アーノルド・ローベルのほかのさくびんを読みよう。

# 45

**題材名** 「主語と述語に気をつけよう」（第1時／全1時間）  
**目標** 文の中にある主語と述語に関係に気付くことができる。  
 積極的に主語と述語の関係に気付き、学習課題にそって話したり書いたりできる。  
**領域等** 知識及び技能

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「主語と述語に気をつけよう」を黒板に書く。 ・ワークシートを配る。 ② 本時の目標を黒板に書く。 主語と述語のやくわりを知ろう ・声に合わせて目標を読ませる。 ・ワークシートに書かせる。	・本時の目標を知る ・声を合わせて目標を読む ・目標をワークシートに書く
展開 38分	③ P27 教科書の上の段を範読する。 ・主語と述語の役割を理解させる。 ・「だれが どうする」 主語の行動 ・「何が どうする」 主語の行動 ・「だれが どんناد」 主語の様子 ・「何が なんだ」 主語の形態 ④ P27 教科書の下段を範読する。 ・ワークシートの演習をさせる。 ・ワークシートを友達と見せ合わせる。◎ ・答え合わせをする。 ⑤ P28 教科書の上の段を範読する。 ・「手紙」P12などを開かせ主語・述語＝を鉛筆で引かせる。 ・答え合わせをする。○ ・主語が文の始めにあるとは限らないことを体験させる。○	・先生の範読を聞く ・説明を聞く ・ワークシートに取り組む ・友達と見せ合う ・先生の答えを聞く ・先生の範読を聞く ・先生の答えを聞く ・先生が指示したページを開き教科書に主語・述語＝を文の横に書く
終 2分	⑥ P28 教科書下の絵を見させ、主語・述語に気をつけてワークシートに文を書かせる。 ・ぼくは帽子を川へ落とした。 ・僕の帽子が川へ落ちた。 ・ママはぼくにどうしたのと聞いた。 ・書いた文を発表し合う。 ⑦ かん字の練習をさせる。 ・黒板に書き順に気をつけてゆっくり書く。 ・児童に注目させる。 ⑧ 次時の予告をする。 「次回は『かん字の読み方』を学習します。」	・ワークシートに主語・述語に気をつけて文を書く ・文をお互いに発表し合う ・先生の腕の動きを見て空中にかん字を書く ワークシートに取り組む ・次時の見通しを持つ

## 指導のポイント

- ・教科書の説明をゆっくりと読んで主語と述語の役割を理解させる。
- ・教科書やワークシートの演習を通して理解を深める。
- ・積極的に主語・述語の関係について興味関心をもつ態度を育てる。

## 板書例

①題名材「主語と述語に気をつけよう」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・「主語と述語のやくわりを知ろう。」
  - ・ワークシートを配付し、書き込ませる。
  - ・教科書P27を範読する。

④P27 の下の段を範読したあとにワークシートへ  
主語・述語=を文の横へ書かせる。  
全員が終えたあとにお互いに見せ合わせる。

主語と述語に気をつけよう

主語と述語のやくわりを知ろう

つぎの文の中から主語と述語を見つけましょう

主語・述語に気をつけて文を書きましよう

かん字をれんしゅうしましょう

⑦かん字を練習しましょう

⑥P28 の絵を見させ、主語・述語に気をつけて文  
を考えさせ書かせる。  
・書いた文を発表し合う

⑧次回は「かん字の読み方」を学習します。  
1つのかん字にはいくつもの読み方があります。それを学習しましょう。







# 46

題材名 「かん字の読み方」 (第1時/全1時間)

目標 同じ漢字でもいろいろな読み方があることを知る。

## 領域名

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「かん字の読み方」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「たくさん読み方、にている読み方について知ろう」 ・ワークシートを配布し、目標を書き込ませる。	・本時の目標を知る。 ・ワークシートに書き込む。
展開 33分	③ 「上」とp「下」のいろいろな読み方を知らせる。 ・例文を視写させる。 ④ 送り仮名に気を付けて書かせる。 ・送り仮名を付けて、読み方の違いを確かめさせる。 ・漢字の下に続けて書くかなを、送り仮名ということを知らせる。	・音読する。 ・例文を視写する。 ・送り仮名に気を付けて読む。
終末 2分	⑤ 宿題を伝える。 「漢字の練習をしてきましょう。」 ⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は、『秋がいっぱい』の学習をします」	・宿題を知る。 ・次時の見通しを持つ。

### 指導のポイント

○ 送りがなについて

・名詞はそのまま、動詞には送りがながつくという違いがある。送りがなのつく言葉は、動きがあることを、動作化させて気づかせるとよい。

○ 対語について

・「じょう」「げ」, 「うえ」「した」, 「かみ」「しも」のように対になる読み方に気づいた児童もいる。そうした児童の気づきは、ほめて大切にしたい。

○ 発音について

・不明瞭な発音で読むと、読み分けの違いは理解しにくい。うえ」「うわ」のような音は正しい発音で読む練習をする。「上ばき」は「うえばき」とは読まず、「うわばき」としか読まないことが分かる。

○ 言葉の意味について

・「川上」「川下」「下山」のような言葉は、児童にとって聞き慣れないものと思われるので、読み方とともに、言葉の意味を知らせる必要がある。

## 板書例

- ① 題材名「ことばであそぼう」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 教科書P.22を読み、「上」と「下」のいろいろな読み方を知らせる。
  - ・例文を視写させる。

かん字の読み方

たくさんの読み方、にている読み方について知ろう

教科書 30 頁の例文を示す

教科書 31 頁の例文を示す

- ④ 送りがなに気を付けて書かせる。  
送りがなをつけて、読み方の違いを確かめさせる。

# 47

**題材名** 「秋が いっぱい」 (第1時/全1時間)

**目標** 言葉には事物の内容を表す働きがあることに気づく。  
秋を感じる言葉を探し、秋に経験したことを文章に表すことができる。

**領域等** 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「秋がいっぱい」を黒板に書く。 ・補習校の国や地域によって秋の季節が感じられない場合は四季についてを説明する。 ・ワークシートを配る。 ② 本時の目標を黒板に書く。 きせつのことばをさがそう	・本時の目標を知る ・声を合わせて目標を読む ・目標をワークシートに書く ・ききょう・赤とんぼ・柿 ・コスモス・ひよどり ・こおろぎ・すすき・鈴虫 ・銀杏・ねこじゃらし ・もみじ
展開 38分	③ P32・33の挿絵を見させ、草花を1つずつ読み上げる。 「日本に秋が訪れると咲く花や小鳥、虫などを知りましょう。」 教師が一つ一つ読み 続けて児童に大きな声で読ませる。 ・もみじと桜は間違えないようにする。 ④ P33下の「やま」を教師が一度、朗読する。 ・2回目は教師の範読あと(文節)に児童に読ませる。 ・文節読み ・2行読み ・リズムカルに読む○ ⑤ P32の下を範読する。 ・「秋になると見ることができる花や虫などをワークシートに書きましょう」◎	・先生の後続けて詩を読む ・秋を感じるものをワークシートへ書く ・絵を描いても良い
終 2分	⑥ ワークシートへ書いた内容を発表させる。○ ⑦ 「最後にワークシートに漢字を練習しましょう。」 ・児童に背を向け、書き順に注意をして、黒板に書く。 ⑧ 次時の予告をする。 「次回は『そうだんにのってください』を学習します。」	・友達の発表を静かに聞く ・先生の腕の動きをまねしながら空中で書く ・ワークシートへ漢字を書く ・次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

- ・日本の秋を感じる例が教科書にのっているが、「鈴虫」や「こおろぎ」の違いなど動植物を詳しく説明し過ぎると学習時間が不足する。「日本では秋になると虫が虫がよく鳴くのですよ。」程度
- ・補習校がある国や地域で秋を感じられるものについて考えさせ書かせる。
- ・漢字練習はワークシートの口ますを利用して枠いっぱいに大きく書かせる。
- ・漢字を練習する時は静かな環境で取り組ませる。

## 板書例

① 題材名「秋がいっぱい」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
・「きせつのことばさがそう」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。

④ P32の下を範読した後に秋を感じるられものをワークシートに書かせる。  
⑤ P32範読する。  
花や虫をワークシートへ書かせる。  
⑥ ワークシートに書いた内容を発表させる。

秋

かんじをれんしゅうしましょう

秋をかんじるものを書きましょう

きせつのことばをさがそう

秋がいっぱい

⑦ ワークシートへ書かせる。

⑧ 次回は「そうだんにのってください」を学習します。  
困っている時や悩んでる時に話を聞いてもらうことを相談といいます。どんな相談をするのでしょうか？





# 48

## 題材名 目 標

「**そうだんにのってください①**」（第1時／全3時間）

共通、相違、事柄の順序などの情報と情報との関係について理解している。  
話すこと・聞くことにおいて、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。

積極的に相手の発言を受けて話をつなぎ、学習の見通しをもって話し合いができる

## 領域等

A 話すこと 聞くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「 <b>そうだんにのってください</b> 」を黒板に書く。 ・ワークシートを配る。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">みんなで話をつなげよう</div> ・声に合わせて目標を読ませる。 ・ワークシートに書かせる。	・本時の目標を知る ・声を合わせて目標を読む ・目標をワークシートに書く
展開 38分	③ P34 範読する。 「友だちの <b>そうだん</b> ごとを聞いて、考えを出し合う会をします」 ・P5 下段を読む。話をする時に大切なことを復習する。 ・順序に気をつけて話す ・大事なことは何かを考えて話を聞いたりする。 ・聞く時は大事なことを落とさないようにメモをとる。 ・話をする人の考えをくわしく聞くために大事なことは何かを質問する。 ④ P34の下 学習の進め方を確認する。ワークシートへ書かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1 わだいをきめる</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2 話し合いのしかたをたしかめる</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">3 グループで話し合う</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">4 話し合ってよかったことを伝え合う 振り返ろう</div> ⑤ P35 わだいをきめようを範読する。 絵の吹き出しは児童に読ませてもよい。 ・これからすること ・なやんでいること ・がくしゅうのこと P35 2 話し合いの仕方を確かめようを範読する。 絵の吹き出しは児童に読ませてもよい。 ・きょうはわたしに <b>そうだんにのってください</b> 。 ・わだいを確かめる ・ひとりずつ順番に意見を言う ・いいなと思った考えを伝える。	・教科書を見ながら範読を聞く ・P5を開く ・範読を聞く ・ワークシートへ書く ・吹き出しを読む
終 2分	⑥ P35 <b>1</b> の吹き出しから1つ選び、話し合いを実際にする。◎ ・司会を決める。・話題を確かめる。・1人ずつ順番に考えを出し合う。・いいなと思った意見を伝える。 ⑦ 意見を1つずつ出したあたりで相談の話し合いについて振り返りをする。○ ⑧ 次時の予告をする。 「次回は『 <b>相談にのってください</b> 』続きを学習します。」	・相談の話し合いをする ・考えを話す ・理由も話す ・いいなと思った考えを伝える ・次時の見通しを持つ

## 指導のポイント

- ・話し合う時には人が意見を話している時は黙って話を最後まで聞くことが大切である。
- ・順番に意見を言わない場面で意見を言いたくなった場合は手をあげて指名されてから発言をする。
- ・相手の発言を受けて積極的に発言する態度や学級の雰囲気築く。



## 板書例

① 題名材「そうだんにのってください」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・「みんなで話をつなげよう」
  - ・ワークシートを配付し、書き込ませる。
- ③ 教科書P34を範読する。P5下段を範読する。

④ P34の学習の進め方を読み、ワークシートへ書かせる。

- ⑤ P35 わだいをきめようを範読する。  
P35 2 話し合いの仕方を確かめ範読する。  
吹き出しを児童に読ませても良い。

そうだんにのってください  
みんなで話をつなげよう  
がくしゅうのすすめかた

- ⑥ ①の吹き出しから1つ選び実際に話し合いをさせる。  
いいなと思った意見を伝え合う。
- ⑦ 意見を1つずつ出したあたりで話し合いについて振り返りをさせる。

⑧ 次回は「相談にのってください」の続きを行います。  
今日よりもじょうずに話し合いができるようになりますといいですね。

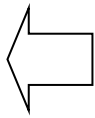


そーだんにのってください  
「ねん」 「くみ なまえ」  
w48

がくしゅうのめあて

み	ん	な	で	話	を	つ	な	げ	よ	う
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

がくしゅうのすすめ方



1

わだいをまめる。

2

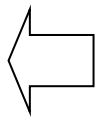
話し合いのしかたをたしかめる。

3

グループで話し合う。

4

話し合ってよかったことを伝え合う。



ふりかえろう

# 49

## 題材名 目 標

「そうだんにのってください②」（第2時／全3時間）

共通、相違、事柄の順序などの情報と情報との関係について理解している。  
話すこと・聞くことにおいて、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。

積極的に相手の発言を受けて話をつなぎ、学習の見通しをもって話し合いができる

## 域 等

A 話すこと 聞くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 5 分	① 題材名「そうだんにのってください」を黒板に書く。 ・ワークシートを配る。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">みんなで話をつなげよう</div> ・声に合わせて目標を読ませる。 ・ワークシートに書かせる。	・本時の目標を知る ・声を合わせて目標を読む ・目標をワークシートに書く
展 開 38 分	③ 前の時間の復習をする。 ・P35の吹き出しの相談の話し合いを行い、話し合いがスムーズに進められたか？（良かった点、反省点）○ ④ 話し合いがスムーズに進められるように学習を深める。 ・P36 ③ P37まで範読する。 ・吹き出しは児童に読ませる。司会は同じ指導の読ませる。 ・QRコードを読み取り動画を見せる環境があれば見せる。	・教科書を見ながら範読を聞く ・P5を開く ・範読を聞く
終 2 分	⑤ P35 ①の吹き出しから、前の時間に話し合った別な相談を1つ選び、話し合いを実際にさせる。◎ ワークシートへ相談内容を書く。 ・前時の反省を活かす。 ・司会を決める。・話題を確かめる。・1人ずつ順番に考えを出し合う。・いいなと思った意見を伝える。 ・最後に司会の人は話し合いのまとめをする。 ・時間に余裕があれば司会を変えて、P35の残りの1つの吹き出しの相談を話し合う。 ⑥ 今日の話し合いがうまくいったかどうか、振り返りをさせる。 友達の発言をワークシートへ書かせる。	・話し合いがうまくいった理由も話す ・話し合いがうまくいかなかった理由を話す。 ・友達の意見をわーくしとへ書く
	⑦ 次時の予告をする。 「次回は『相談にのって下さい』続きを学習します。」 実際に相談にのってほしいことを話し合いたいと思います。	・次時の見通しを持つ

## 指導のポイント

- ・話し合う時には人が意見を話している時は黙って話を最後まで聞くことが大切である。
- ・順番に意見を言わない場面で意見を言いたくなった場合は手をあげて指名されてから発言をする。
- ・相手の発言を受けて積極的に発言する態度や学級の雰囲気築く。

## 板書例

①題名材「そうだんにのってください」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・「みんなで話をつなげよう」
  - ・ワークシートを配付し、書き込ませる。
- ③前時の復習をする。
- ④P36<sup>3</sup> P37まで範読する。  
吹き出しは児童に読ませる。司会は同じ指導の読ませる。  
QRコードを読み取り動画を見せる環境があれば見せる。

⑤P35の吹き出しの相談内容をワークシートへ書かせる。

⑥友達発言をワークシートへ書く。

そうだんにのってください  
みんなで話をつなげよう

⑦次回は「そうだんにのってください」の学習の続きをします。  
次回は皆さんから相談にのってほしいことを出してもらい皆さんで話し合いをしたいと思います。



そうだんにのってください W49  
「ねん」「くみ なまえ」

がくしゅうのめあて

み	ん	な	で	話	を	つ	な	げ	よ	う
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

わだいをきめよう

P 35の「これからすること」「なやんでいること」  
「がくしゅうすること」「からそうだんしてみたい  
わだいをきめ わくの中へ書きましょう。

読書の時間に読む本がなかなかきめられない。

話し合いをふりかえってみましょう

よかったこと

はんせいすること

# 50

## 題材名 目 標

「そうだんにのってください③」（第3時／全3時間）

共通、相違、事柄の順序などの情報と情報との関係について理解している。  
話すこと・聞くことにおいて、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。

積極的に相手の発言を受けて話をつなぎ、学習の見通しをもって話し合いができる

## 領域等

A 話すこと 聞くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「そうだんにのってください」を黒板に書く。  ・ワークシートを配る。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">みんなで話をつなげよう</div> ・声に合わせて目標を読ませる。 ・ワークシートに書かせる。	・本時の目標を知る ・声を合わせて目標を読む ・目標をワークシートに書く
展開 38分	③ P38 ④ 範読する。 ・「そうだんにのってください」は今日で最後です。」 ・「今日は皆さんが実際に相談にのってほしいことを話し合いたいと思います。」 ・ワークシートへ相談してほしいことを6分間で書きましょう。 ④ 班ごとに話し合いをさせる。◎○ ・始めに 話題を確かめる。 ・ワークシートを書いている時に相談しやすい話題を書いている児童をピックアップしておく ・1つずつ意見を言う。理由を言う。 ・人の話を最後まで聞いてから話をする。 ・詳しく聞きたいことを質問する。 ・最後に話し合いのまとめをして、相談した人は、どうすることにしたかを言ってもらおう。 ⑤ 話し合いがうまくいったかどうか、振り返りをさせる。	・教科書を見ながら範読を聞く   ・ワークシートに相談内容を書く 話し合いをする
終 2分	⑥ かん字の練習を行う ・書き順に気をつけて児童を背に黒板に書く。  ・合 ・理 ・活 ・作 ⑦ 次時の予告をする。 「次回は『馬のおもちゃの作り方』を学習します。」	・話し合いがうまくいった理由も話す ・話し合いがうまくいかなかった理由を話す。  ・先生が書いて様子を見て空中で書いてみる。 ・ワークシートへかん字練習をする  ・次時の見通しを持つ

## 指導のポイント

- ・話し合う時には人が意見を話している時は黙って話を最後まで聞くことが大切である。
- ・順番に意見を言わない場面で意見を言いたくなった場合は手をあげて指名されてから発言をする。
- ・相手の発言を受けて積極的に発言する態度や学級の雰囲気築く。



## 板書例

①題名材「そーだんにのってください」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・「みんなで話をつなげよう。」
  - ・ワークシートを配付し、書き込ませる。
- ③ P38 4を範読する。
- ・ワークシートへ相談したいことを書かせる。

- ④ 班ごとに話し合いをさせる。
- ⑤ 話し合いがうまくいったかどうか、振り返りをさせる。

かん字を書きましよう

友だちにそーだんしてみたいことを  
考えよう

そーだんにのってください  
みんなで話をつなげよう

⑥かん字の練習をする

⑦次回は「馬のおもちゃの作り方」を学習します。紙で馬のおもちゃを作ります。楽しみですね。





# 5 1

題材名 「馬のおもちゃの作り方①」（第1時／全3時間）

目標 共通、相違、事柄の順序などの情報と情報との関係について理解している。  
 事柄の順序にそって簡単な構成を考えることができる。  
 事柄の順序などを考えながら、内容をおおまかに捉えることができる。  
 事柄の順序にそって粘り強く構成を考え学習課題にそって説明文を書こうとしている

領域等 B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「馬のおもちゃの作り方」を黒板に書く。  ・ワークシートを配る。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">           せつめいのしかたに気をつけて 読み、それをいかして書こう         </div> ・声に合わせて目標を読ませる。 ・ワークシートに書かせる。	・本時の目標を知る ・声を合わせて目標を読む ・目標をワークシートに書く
展開 38分	③ P39 範読する。 ④ 馬の挿絵を見させる。 ・おもちゃに興味をもたせる。 ・どのようなしかけがあるのか考えさせ、発表させる。 P40 範読（文節 点、丸読み）した後に、児童に読ませる。	・教科書を見ながら範読を聞く ・P40 挿絵を見て感想を言う  ・しかけについて発表する ・教科書を読む
終 2分	⑤ P41～P43 児童に最後まで黙読させてから、学習を進める方法があるが、日本語の定着状況に個人差がある場合は、教師の範読の後に児童の一斉読みを繰り返し最後まで読む進め方もある。 ・2回目は児童のみに1人ずつ1行読みなどをさせる。 ・説明を読んで作り方を理解できたか質問する。  ⑥ 馬のおもちゃの作り方を読んで分かったことをワークシートへまとめさせる。 ・馬のからだの作り方 ・馬のあしの作り方 ・馬の顔の作り方 ・書き終えた児童のワークシートを点検する。  ⑦ 分かりやすくせつめいするためにくふうしていることを見つけさせワークシートに書かせる。○◎  ⑧ 次時の予告をする。 「次回は『馬のおもちゃ』を作ってみたいと思います。 教科書のような箱をもってきてください。	・教科書を読む ・説明が理解できたを発表する  ・読んで分かったことをワークシートへ書く ・先生にワークシートを点検してもらう  ・工夫している言葉を見つけてワークシートへ書く  ・次時の見通しを持つ

## 指導のポイント

- ・ 事柄の順序に気をつけて読ませる。
- ・ おもちゃを作ることに興味関心をもたせる。
- ・ 教師の範読のあと、1行読み、文節読み、丸読み、点読みなど、楽しく読むことを体験させる。
- ・ 黙読をさせる時は静かな環境をつくる。
- ・ かん字が読めなくなった場合は黙って挙手をする。
- ・ 日本の学校では生活科や図画工作に時間に作ったおもちゃの中から、作り方のせつめい文を作成させたりする。補習校ではその時間がないので、馬のおもちゃを実際に作成し、説明文を体験させることが望ましい。その際、ホチキス、はさみ、のり、ものさし、画用紙 などに文房具はできる限り校内で準備する。日本からの校長が配置されている場合は事前に相談する。

# 板書例

①題名材「馬のおもちゃの作り方」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。  
・「せつめいのしかたに気をつけて読み、それをいかして書こう」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。  
③P39を範読する。  
④P40馬の絵を見させ感想を発表させる。  
⑤P41からP43まで作り方を読む

⑥分かったことをワークシートへまとめる。

馬のおもちゃの作り方

せつめいのしかたに気をつけて読み、

それをいかして書きましょう

読んで分かったことをまとめよう

馬の体

馬の足

馬の顔

作り方のせつめいのくふうを見つけよう

⑦作り方を読んで分かりやすく説明している点を書く

⑧次回は「馬のおもちゃを作ってみます。」教科書のような箱をもってきてください。

二ねん「くみ なまえ」

」

がくしゅうのめあて

馬のおもちやの作り方をまとめよう

馬の体

馬のあし

馬の顔

作り方のせつめいのくふうを見つけよう

二ねん「くみ なまえ」  
「  
がくしゅうのめあて

せつめいのしかたに気をつけて読み、

それをいかして書きましよう

馬のおもちやの作り方をまとめよう

馬の体

体のぶひんのうち一つをよみまきにする。これはおなか。もう一つはたてにして、はしを  
合わせておなかに上におく。これは首。おなかと首がかさなつたところを、ホチキスで  
とめる。のこったもう一つはよみにおなかの上におく。これは馬のせなか。  
せなかとおなかと首をホチキスでとめる。

馬のあし

あしのぶひんの十二センチメートルの細長い四角形を二つずつきる。  
四つできたら、かたほうのはしを二センチメートルおりまげる。  
しゃんのようにおりまげたところをおなかにとめる。

馬の顔

色画用紙をたて九センチメートル、よこ四センチメートルの形に切る。  
目やはなをつける。首の上にはり、耳をつける。

作り方のせつめいのくふうを見つけよう

まず、つぎに、それから、さいごに  
馬の体、あし、くび、顔、 センチメートル。  
ざいりよう

## 5 2

**題材名** 「馬のおもちゃの作り方②」（第2時／全3時間）

**目 標** 共通、相違、事柄の順序などの情報と情報との関係について理解している。  
 事柄の順序にそって簡単な構成を考えることができる。  
 事柄の順序などを考えながら、内容をおおまかに捉えることができる。  
 事柄の順序にそって粘り強く構成を考え学習課題にそって説明文を書こうとしている。

**領域等** B 書くこと

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「馬のおもちゃの作り方」を黒板に書く。 ・ワークシートを配る。	
展開 38分	② 本時の目標を黒板に書く。 馬のおもちゃを作ってみよう ・声に合わせて目標を読ませる。 ・ワークシートに書かせる。	・本時の目標を知る ・声を合わせて目標を読む ・目標をワークシートに書く
	③ 材料を確認する。 ・空き箱 1 ・色画用紙 ・ものさし ・はさみ ・ホチキス ・のり (現地で調達できる物。家庭の協力してもらおう物を整理して準備する)	・材料を確認する。
終 2分	④ 工作する。◎◎ ・まず 空き箱 4 c m くらいの太さで 4 つに切る ・3 つは馬の体。残った 1 つは半分に切り分ける ・体の部品の 1 つを横向き、もう 1 つを縦向に端を合わせる ・合わせたところをホチキスでとめる ・残ったもう 1 つを横にしてお腹の上に置く ・背中はお腹と首にホチキスでとめる。 ・足の部品から 1 2 c m の細長い四角形を 2 つずつ切る。 ・4 つできた四角形も片方の端を 2 c m に折り曲げる ・写真のように折り曲げてお腹にとめる。 ・画用紙を縦 9 c m、横 4 c m の形に切る。 ・目や鼻をつけたら首の上にはり耳をつける。 ・たて髪やしっぽをつけたり、素敵な色画用紙をはる。	・先生の指示に従って馬のおもちゃを作る。
	⑤ 作ってみた感想を書く◎ ⑥ 協力し合って後片付けをする。○ ⑧ 次時の予告をする。 「次回は『せつめいの文を書きましょう』馬の作り方のよう に皆さんもおもちゃの作り方の文を書いてみましょう。	・作ってみた感想をワークシートへ書く  ・次時の見通しを持つ

### 指導のポイント

- ・ 事柄の順序に気をつけて工作させる。
- ・ 説明文を通りに工作させる。
- ・ はさみの使い方など怪我に十分に注意させる。
- ・ 日本の学校では生活科や図画工作に時間に作ったおもちゃの中から、作り方のせつめい文を作成させたりする。補習校ではその時間がないので、馬のおもちゃを実際に作成し、説明文を体験させることが望ましい。その際、ホチキス、はさみ、のり、ものさし、画用紙 などに文房具はできる限り校内で準備する。日本からの校長が配置されている場合は事前に相談する。



## 板書例

①題名材「馬のおもちゃの作り方」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・「馬のおもちゃをつくってみよう」
  - ・ワークシートを配付し、書き込ませる。
- ③材料を確認する。

④馬のおもちゃを作らせる。

馬のおもちゃの作り方

馬のおもちゃをつくろう

馬のおもちゃをつくってみた

かんそうを書きましよう

- ⑤感想を書かせる
- ⑥協力して後片付けをさせる。

⑧次回はおもちゃの作り方のせつめいの文を書いてもらいます。  
今までつくったおもちゃを思い出しておいてください。

馬のおもちやの作り方②

W 52

「ねん」「くみ なまえ」

」

がくしゅうのめあて

馬のおもちやを

作ってみた

かんそうを

書きました

馬のおもちやを作ってみて

二ねん「くみ なまえ」  
「  
がくしゅうのめあて

馬のおもちやを作ってみよう

馬のおもちやを 作ってみた  
かんそうを 書きましよう

馬のおもちやを作ってみて

体のぶひんを四センチメートルくらいにそろえて切るのが、  
とてもむずかしかったです。

つぎに、おなかと首をホチキスでとめるところも、むずかかったです。  
です。

さいごに、顔のぶひんに目やはなをつけた時に、とてもうれしい気  
もちになりました。

耳をつける向きが反たいたので先生になおしてもらいました。

# 5 3

## 題材名 目 標

「馬のおもちゃの作り方③」（第3時／全3時間）

共通、相違、事柄の順序などの情報と情報との関係について理解している。

事柄の順序にそって簡単な構成を考えることができる。

事柄の順序などを考えながら、内容をおおまかに捉えることができる。

事柄の順序にそって粘り強く構成を考え学習課題にそって説明文を書こうとしている。

## 領域等

B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 5 分	① 題材名「馬のおもちゃの作り方」を黒板に書く。 ・ワークシートを配る。 ② 本時の目標を黒板に書く。 おもちゃの作り方をせつめいしよう ・声に合わせて目標を読ませる。 ・ワークシートに書かせる。	・本時の目標を知る ・声を合わせて目標を読む ・目標をワークシートに書く
展 開 38 分	③ P46～48 範読する。 （けん玉の作り方は読まない） ・馬のおもちゃの作り方は日本では12時間扱いである。 補習校の時数の関係で「けん玉の作り方」には松ぼっくりなど 国や地域によっては見られない内容が含まれている。 文章を早く書き終えた児童に黙読させても良い。 ・P46下の学習の進め方の手順を読む （1）せつめいするおもちゃをきめる。 （2）わかりやすい説明の仕方を考える。 （3）説明する文章を書く。 （4）友達と読み合う。 ・今まで作ったおもちゃを思い出させ、ワークシートに（1）を きめて書かせる。説明文が書ける「おもちゃ」が良い。 ・（1）を発表させる。 ④ 分かりやすい説明の仕方をするには、どのような所に気をつけて ならば良いかを考えさせる。（復習） ・「まず」「つぎに」手順となる言葉を入れる。 ・cmとか何枚とか、数字で示す。 ⑤ 考えがまとまったならば、おもちゃの作り方をワークシートへ書 かせる。	・おもちゃを考える ・おもちゃを発表する ・わかりやすい文を考える。 ・作り方をワークシートへ書く ・友達と読み合う
終 2 分	⑥ 書き終わった人は友達と読み合う。 ・友だちのどんなところが良かったのかを発表させる。 ⑦ かん字の練習をワークシートにさせる。 ⑧ 次時の予告をする。 「次回は『かたかなで書くことば』を学習します。	・書き順に気をつけてかん字練 習をする。 ・次時の見通しを持つ

## 指導のポイント

- ・おもちゃ作りを体験したことを振り返り、おもちゃの作り方の文を書かせる。
- ・日本では生活科や図画工作の時間におもちゃ作りを体験しているが、在外の場合は必ずしも教材と使用するおもちゃ作りでなくても、作り方の説明文が書ける事柄であれば、その取り組みを書かせる。
- ・友達の作り方を読み、お互いの良いところを認め合えるように進める。

板書例

①題名材「馬のおもちゃの作り方」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・「おもちゃの作り方をせつめいしよう」
  - ・ワークシートを配付し、書き込ませる。
- ③ P43～49まで読む。けん玉の作り方は読まない。  
P46下の手順（1）～（4）まで1度読む。  
（1）説明するおもちゃを決めさせる

- ⑤作り方をワークシートに書かせる。  
⑥文が書けた人は友達と読み合いをさせる。

馬のおもちゃの作り方

おもちゃの作り方をせつめいしよう

（1）せつめいするおもちゃ

（2）わかりやすいせつめいのしかたを考える

（3）せつめいする文しよを書き

（4）友だちと読み合う

かん字を書きましよう

⑦漢字を練習させる。

⑧次回は「かたかなで書くことば」を学習します。

二ねん「」くみ なまえ「」

がくしゅうのめあて

1

せつめいするおもちをきめる

2 分かりやすいせつめいのしかたを考える

3 せつめいする文しゅうを書く

4 友だちと読み合う

かん字をれんしゅうしよう

馬	画	用
首	細	角
工	科	

二ねん「」くみ なまえ「」

がくしゅうのめあて

おもちやの作り方をせつめいしよう

1

せつめいするおもちやをきめる

2 分かりやすいせつめいのしかたを考える

3 せつめいする文しよを書く

けん玉の作り方

まずぼつくりをつかった、けん玉の作り方をせつめいします。

〔ざいりよう〕 ・まっぼつくり ・毛糸 ・紙コップ ・ガムテープ ・カラーペン

〔作り方〕

まず、毛糸をはしを、まっぼつくりにまぎつけます。そして、とれないように、きつくむすびます。

つぎに、毛糸のはんたいがわのはしを、髪コップのそこにつけます。ガムテープで毛糸をとめます。

それから、その毛糸をはさむようにして、もう一つの紙コップをのせます。コップのそこそこをびったりと合わせて、ガムテープでしっかりとめます。

紙コップにカラーペンできれいなもようをつけて、できあがりです。

〔あそび方〕

二つの紙コップに、じゅんばんにまっぼつくりを入れてあそびます。

何回つづけてできるか、数えるのとたのしいですよ。

4 友だちと読み合う

かん字をれんしゅうしよう

馬		
画		
用		
首	角	
工	科	

# 54

題材名 「かたかなで書くことば」 (第1時/全1時間)

目標 どのような言葉をかたかなで書くのかを理解する。

領域名 B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「かたかなで書くことば」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「どんなことばをかたかなで書くかを知ろう」 ・ ワークシートを配布し、目標を書き込ませる。	・ 本時の目標を知る。 ・ ワークシートに書き込む。
展開 33分	③ 教科書P50を音読させる。 ④ かたかなで書く4つの場合を知らせる。 ・ 他にもあったら児童に発表させ、教師が板書する。	・ 音読する。 ・ 例文を視写する。 ・ 送り仮名に気を付けて読む。
終末 2分	⑤ かたかなクイズをさせる。 ・ かたかなが3つ入った文を読み、カタカナを見つけさせる。 「私はイギリスで赤いバスに乗ってレストランに行きました。」 「私はクレヨンでカードにイラストを描きました。」 「ぼくは家族とホテルに行き、プールでクロールを泳ぎました。」 ⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は、『せかいーの話』の学習をします」	・ 宿題を知る。 ・ 次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

- クイズのやり方について
  - ・ まず、教師がかたかなで書く言葉の3つ混ざった文を読む。次に、児童は聞き取ったかたかなを書き留める。正しく書き表した数を得点にする。
- 書き間違いやすいかたかなについて
  - ・ 間違えやすい「シ」と「ツ」, 「ン」と「ソ」, 「ア」と「マ」, 「ヌ」と「ス」なども正しく書けるように復習することが必要である。
- かたかなの4つの場合について
  - ・ 4つの分け方が難しい児童には、「耳で聞いた音」と「もともと外国の言葉だったもの」の2つにまとめて理解させてもよい。
- 音楽以外のかたかなのまとめりについて
  - ・ 乗り物・・・エスカレーター・エレベーター・オートバイ・カヌー・グライダー・ケーブルカー、トラック・ダンプカー・バス・ヘリコプター・ジェット・ボート・フェリー、ロケット・モノレール・モーターボート・スクーター・クレーン・ブルドーザー
  - ・ 道具・・・アイロン・カメラ・クーラー・エアコン・コンピュータ・スキー・スケート、スプーン・テント・トランプ・バケツ・フライパン・ブラシ・ホース・スイッチ



## 板書例

- ① 題材名「かたかなで書くことば」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 教科書P.50を音読させる。

かたかなで書くことば

どんなことばをかたかなで書くかを知ろう

○かたかなで書くことば

- ① どうぶつのなき声  
チュンチュン（すずめ）ニャーオ（ねこ）  
ワンワン（犬）モーモー（牛）
  - ② いろいろなものの音  
ガラガラ（雨戸）ガタゴト（汽車）  
カーン（やきゅう）ポチャン（池）
  - ③ 外国から来たことば  
マフラー・パン・ピアノ・ペンギン  
アイスクリーム・テレビ・カステラ
  - ④ 外国の、国の名前や土地の名前、人の名前  
インド・グリム・アメリカ・ハワイ  
オバマ・ウサインボルト・キリスト
- ◇かたかなクイズをしよう。
- ・イギリス・バス・レストラン
  - ・クレヨン・カード・イラスト
  - ・ホテル・プール・クロール
  - ・ランチ・ハンバグ
  - ・ジュース・タクシー・デパート・ショッピング

- ④ かたかなで書く4つの場合を知らせる。
  - ・児童に発表させ、教師が板書する。

- ⑤ かたかなクイズをさせる。
  - ・かたかなが3つ入った文を読み、カタカナを見つけさせる。

二年 組 名前( )

かたかなで書くことばは4つ。

①どうぶつのはな

②いろいろなものの音

③外国から来たことば

④外国の、国の名前や土地の名前、人の名前

かたかなクイズをしよう。

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

どんなことばをかたかなで書くかを知ろう。

かたかなで書くことばは4つ。

① どうぶつのなき声

チンチン(すずめ) ニヤーオ(ねこ)

ワンワン(犬) モーモー(牛)

② いろいろなものの音

ガラガラ(雨戸) カタゴト(汽車)

カーン(やきゅう) ポチャン(池)

③ 外国から来たことば

マラー・パン・ピアン・ペンギン

アイスクリーム・テレビ・カステラ

④ 外国の、国の名前や土地の名前、人の名前

インド・グリム・アメリカ・ハワイ

オバマ・ウサインボルト・キリスト

かたかなクイズをしよう。

・イギリス・バス・レストラン

・クレヨン・カード・イラスト

・ホテル・プール・クロール

・ランチ・ハンバーグ・ジュース

・タクシー・レポート・シヨッピング

# 5 5

**題材名** 「せかい一の話」 (第1時/全1時間)

**目標** 昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして。我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。

「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像できる。

進んで昔話を聞き、学習の見通しをもって面白いと思ったことを伝え合おうとする。

**領域等** C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「せかい一の話」を黒板に書く。 ・ワークシートを配る。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">聞いて楽しもう</div> ・声に合わせて目標を読ませる。 ・ワークシートに書かせる。	・本時の目標を知る ・声を合わせて目標を読む ・目標をワークシートに書く
展開 38分	③ P52・53 挿絵を見させて話の内容を想像させる。◎ ・わし ・えび ・亀 ・くじら ④ P142から147 教師が範読する。○ ・、や。 間に気をつけて読む。 ・津軽の言葉を読む時には嘸まずに読む。○ ・「 」会話文は登場人物になりきって感情を入れて読む。 ・事前にスマートフォンのボイスメモに録音させて授業で流して良い。 ・分からない言葉があれば質問させ答える。	・絵を見て物語を想像する ・範読を聞く ・分からない言葉を質問する
終 2分	⑤ P142から147 音読させる。◎ ・周りに迷惑がかからない声の大きさを教科書を読ませる。 ⑥ 1番 面白いと思ったところをワークシートに書く ・面白かったところを友だちと伝え合う。 ・どこが面白かったのか発表する。 ⑧ 次時の予告をする。 「今回は『かん字の広場④』を学習します。」	・教科書を読む ・ワークシートに書く ・友達と伝え合う ・次時の見通しを持つ

## 指導のポイント

- ・教師が津軽弁の言葉を嘸まずに 間に気をつけて読む。
- ・読む前に分からない言葉について、長々と説明はしない。
- ・P52P53の絵を見させて、登場人物から、どんな内容かを想像させることがポイントである。
- ・事前にスマートフォンのボイスメモに録音させて授業で流して良い。
- ・範読する前にどこが面白かったのかをあと聞きますと予告しても良い。

## 板書例

①題名材「せかい一の話」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・「聞いて楽しもう。」
  - ・ワークシートを配付し、書き込ませる。
- ③ P52P53の絵を見させて物語を想像させる。

- ④P142 から P147 を範読する。
- ・分からない言葉の質問を受ける。
- ⑤音読させる。

せかい一の話

聞いて楽しもう

むかし話を楽しみましょう

一ばんおもしろいと思ったところを書きましよう

おもしろいと思ったところを  
友だちと伝え合ひましよう

⑦面白いと思ったことを伝え合う

⑥面白いと思ったところをワークシートに書かせる

⑧次回は「かん字の広場」を学習します。  
数をあらわすことがつかって算数のもんだいを作りたいと思います。

二ねん「くみ なまえ」

がくしゅうのめあて

むかし話を楽しみましょう

一ばん おもしろいと思ったところを書きましよう

おもしろいと思ったところを  
友だちと伝え合いましよう

二ねん 「くみ なまえ」

「

がくしゅうのめあて

聞いて楽しもう

むかし話を楽しみましょう

一ばん おもしろいと思ったところを書きましよう

はなのあなだ、えびがはいるくらの海がめがほんとうのいるのか、おもしろく  
なりました。  
でかえびが、大きいくじらがいるところを、大わしに知らせてあげようと、ザブ  
ランザブラン、もと来た方へ、帰っていくのがおもしろいと思いました。

おもしろいと思ったところを  
友だちと伝え合いましよう

# 56

**題材名** 「かん字の広場④」（第1時／全1時間）

**目標** 第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。

「書くことに」において、語と語の続き方に気をつけることができる。

既習事項の漢字を使って進んで文を書こうとする態度を育成する。

**領域等** B 書くこと

## 習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「かん字の広場④」を黒板に書く。 ・ワークシートを配る。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">             数をあらわすことばをつかって、              算数のもんだいを作しましょう。           </div> ・声に合わせて目標を読ませる。 ・ワークシートに書かせる。	・本時の目標を知る ・声を合わせて目標を読む ・目標をワークシートに書く
展開 38分	③ P54 絵を見させる。広場の様子を確認する。 ・お弁当はいくらでしょうか？ ・猫は何匹いますか？ ・幼稚園の子ども達は何人いますか？ ・犬は何匹でいますか？ ・お花屋さんは鉢と花束はいくつ売っていますか？ ・赤いシャツの女の子は八百屋さんで何を買っていますか？ ・教科書の例を読む。 ④ ワークシートに数をあらわすかん字にふりがなを書かせる。 ・ワークシートができた児童に○付けをする。	・絵を見て広場の様子を確認する 猫5匹。園児8人、 弁当600円 犬は2匹と3匹 ・例を読む。 ・ふり仮名を書く
終 2分	⑤ 例を参考に絵を見て算数のもんだいを考えワークシートへ書かせる。 ⑥ 良い問題をピックアップして、皆で問題を解いてみる。 ・時間があれば何題か問題を行う。 ⑦ 次時の予告をする。 「次回は『自分とくらべてかんそうを書こう』を学習します。」	・算数の問題をワークシートへ書く ・問題を発表する ・問題を解く ・次時の見通しを持つ

## 指導のポイント

- ・算数の問題を作成させる指示を出す前にP54の広場の絵を見させ様子を観察させる。
- ・難しい問題を作成すること目標ではなく、数を表す漢字を使用する態度を育てる。
- ・縦に書くときに、漢数字を使用する、日本語の習慣に触れさせる。
- ・問題を解くときには横の算数の式に表す。その際は数字が良い。
- ・縦と横の表記を理解させること。



## 板書例

①題名材「かん字の広場④」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・「数をあらわすことばをつかって、算数のもんだいを作しましょう」
  - ・ワークシートを配付し、書き込ませる。
- ③P54の絵を見させて、広場の様子を確認する。

- ④漢字にふり仮名を書かせる。
- ⑤算数の問題を考えさせワークシートへ書かせる。

かん字の広場④

数をあらわすことばをつかって、

算数のもんだいを作しましょう

ふりがなを書きましょう

算数のもんだいを作しましょう

⑦次回は「わたしはおねえさん」を学習します。  
すみれちゃんという女の子が出てきます。どんなお姉さんなのでしょうか。

二ねん「」くみ なまえ「

」

がくしゅうのめあて

Blank box for writing the purpose of the study.

ふりがなを書きましよう

( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )  
 六百元 千円さつ五ひき九はち四たば 一本  
 ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )  
 百円玉 七十円 八人 二匹 三匹 犬

算数のもんだいを作りましたよう

(1) Blank box for problem 1.

(2) Blank box for problem 2.

(3) Blank box for problem 3.

(4) Blank box for problem 4.

(1) Blank box for answer 1.

(2) Blank box for answer 2.

(3) Blank box for answer 3.

(4) Blank box for answer 4.

二ねん 「 」 くみ なまえ 「 」

がくしゅうのめあて

数をあらわすことばをつかて、  
算数のもんだいを作りましょう

ふりがなを書きましよう

(ろっぴやくえん)	(せんえん)	(ご)	(きゅう)	(よん)	(いっぽん)
六百元	千円さつ	五ひき	九はち	四たば	一本
(ひやくえんだま)	(ななじゅうえん)	(はちにん)	(にひき)	(さんびき)	(いぬ)
百円玉	七十円	八人	二匹	三匹	犬

算数のもんだいを作りましよう

(1) 六百元のお弁当を一つ買いました。千円さつを出すと、おつりはいくらでしょうか。

(2) 犬のさんぽをしています。二匹をさんぽさせている人と三匹さんぽさせている人がいました。犬はなん匹になったでしょうか。

(3)

(4)

(1)  $1000 - 600 = 400$

(2)  $2 + 3 = 5$

(3)

(4)

# 57

**題材名** 「わたしはおねえさん」①（第1時／全3時間）

**目 標** 話の人物と自分を比べて読むことができる。

**領域名** C 読むこと B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「わたしはおねえさん」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「すみれちゃんは、どんなことをしただろう」 ・ ワークシートを配布し、目標を書き込ませる。	・ 本時の目標を知る。 ・ ワークシートに書き込む。
展開 33分	③ 教師と児童が全文を読む。 「全文を読んで、すみれちゃんのしたことを考えよう。」 ・ 発表を黒板に書く。	・ 音読する。
終末 2分	④ すみれちゃんがしたことを考えさせる。 「すみれちゃんがしたことのわけを考えよう。」 ⑤ 登場人物と自分を比べさせる。 「すみれちゃんと自分を比べよう。」 ⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は、2年生になってお姉さん、お兄さんになったなと思うことを書きます。」	・ すみれちゃんのしたことを考える。 ・ 登場人物と自分を比べる。 ・ 次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

○ 教材について

・ 2年生の後半になって、それぞれの児童が成長したことを感じるであろう。特に、昨年度は1年生で、一番下の学年であったが、下級生ができたり、幼稚園や保育園の妹や弟がいたりしたら、優しく接することができるように精神的にも成長をしてきているはずである。この教材でも、主人公のすみれちゃんが、妹のかりんちゃんのいたずらを、始めは怒ったりがっかりしたりして見ていた。しかし、それがコスモスを美しいと感じ、妹なりに一生懸命描いた作品だと気づくと、落書きを消さずに残しておく。ふたりでたくさん笑っている、こんな兄弟姉妹だったらいいなと思えるように成長した主人公を、児童が自分を振り返って築けたらいい。

- ① 題材名「わたしいはおねえさん」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 教師と児童が全文を読む。  
「全文を読んで、すみれちゃんのしたことを考えよう。」

わたしはおねえさん

すみれちゃんはどうなことをしただろう

○さいしよに、じつとノートを見ていたのは。

ノートをぐちゃぐちゃにされて、なきたいのかおこりたいのか分からなかった。

○もういちどノートを見た後、わらいだしたのは。

妹がかいたぐちゃぐちゃのものが、コスモスだとわかって、妹なりのがんばりを見た。

○けしかけて、けすのをやめて、つぎのページをひらいたのは。

小さい妹が、せっかくがんばってかいたからのことしてあげようと思った。

◇自分とくらべよう。

よくけんかをするけど、かわいい。

◇同じようなことがあったかな。

自分の教科書を見て、早く小学校に行きたいとか、べんきょうを教えるとか言う。ぼくもいつしよに学校に行くのがたのしみ。

- ④ すみれちゃんのしたことを考えさせる。  
「すみれちゃんがしたことのわけを考えよう。」

- ⑤ 登場人物と自分を比べさせる。  
「すみれちゃんと自分とを比べよう。」

わたしはおねえさん①

二年 組 名前( )

W 57

わらしまじ、じつとノートを見ていたのは。

もういちどノートを見た後、わらいだしたのは。

けしかけて、けすのをやめて、つぎのページをひらいたのは。

自分とくぶんよつ。

同じようなことがあつたかな。

新しいかん字を学しゆつしよつ。

「自」「歌」「心」「答」

すみれちゃんは、どんなことをしたんだろう。

おいしよに、じつとノートを見ていたのは。

ノートをぐちゃぐちゃにされて、なきたいのがおこりたいのが分からなかった。

もういちどノートを見た後、わらいだしたの。

妹がかいたぐちゃぐちゃのものが、コヌモヌだとわかって、妹なりのがんばりを見た。

けしかけて、けすのをやめて、つぎのページをひらいたのは。

小さい妹が、せつかくがんばってかいたからのこしてあげようと思った。

自分とくらぶよう。

自分だったら、すぐおつてけんかになる。

よくいたずらをしては、わたしをこまらせるけどりゆうを聞こう。

同じようなことがあたかな。

- ・ 自分の教科書を見て、早く小学校に行きたいとか、べんきょうを教えろとか言う。ぼくもおいしよに学校に行くのがたのしみ。
- ・ 自わたしのランドセルをせおてころんだ。ランドセルがよこれたけど がまんした。あとでかわいと思った。

新しいかん字を学しゅうしよう。

「自」「歌」「心」「答」

# 58

題材名 「わたしはおねえさん」②（第2時／全3時間）

目標 2年生になって成長したことを書くことができる

領域名 C 読むこと B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「わたしはおねえさん」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「おねえさんおにいさんになったことを書こう」 ・ワークシートを配布し、目標を書き込ませる。	・本時の目標を知る。 ・ワークシートに書き込む。
展開 33分	③ 教師と児童が全文を読む。 「全文を読んで、すみれちゃんのようになったことを書こう。」 ・発表を黒板に書く。	・音読する。
終末 2分	④ 2年生になって成長したことを考えさせる。 「2年生になって、おねえさんになったな、おにいさんになったなと思うことを書こう。」 ・発表を黒板に書く。 ⑤ 次時の予告をする。 「次の時間は、2年生になってお姉さん、お兄さんになったなと思うことを書きます。」	・2年生になって成長したことを考える。 ・次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

○ 一人っ子について

- ・ 兄弟姉妹がいない児童にとっては、この題材が負担となることがないように、学校の1年生や上級生を思い起こさせたり、親戚や近所の子どもを思い起こさせたりしたい。

○ 作者の他の作品について

- ・ 作者の他の作品については、図書館などで取り寄せられれば紹介したい。

「おにんぎょうさんのおひっこし」 石井 睦美 作 長崎 訓子 絵 ポプラ社

「はるまちくまさん」 ケビン・ヘンクス 作・絵 石井 睦美 訳 BL出版

「すみれちゃんのあついなつ」 石井 睦美 作 黒井 健 絵 偕成社

「もしやもしやあたまのおんなのこ」 サラ・ダイヤー 作・絵 石井 睦美 訳 小学館

「不思議の国のアリス」 ルイス・キャロル 作 石井 睦美 訳 BL出版

「西のくま東のくま」 石井 睦美 作 小野 かおる 絵 佼成出版社

「とっても いいひ」 ケビン・ヘンクス 作・絵 石井 睦美 訳 BL出版



## 板書例

- ① 題材名「わたしはおねえさん」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 教師と児童が全文を読む。

「全文を読んで、すみれちゃんのようになったことを書こう。」

わたしはおねえさん

おねえさんおにいさんになったことを書こう

○1年生になって、おねえさんになったな、おにいさんになったなと、思うこと。

- ・すぐかっとしなくなった。
- ・1年生にやさしくできる。
- ・べんきょうが、よくわかってたのしい。
- ・あいさつが大きな声でできる。
- ・お手つだいができる。
- ・すききらいをせずに何でも食べる。
- ・本をよく読む。
- ・こまっている人をたすける。
- ・なわとびがじょうずになった。
- ・いちりんしゃにのれるようになった。

- ④ 2年生になって成長したことを考えさせる。

「2年生になって、おねえさんになったな、おにいさんになったなと、思うことを書こう。」

- ⑤ 次時の予告をする。

「次の時間は、続きのを学習します。」

二年 組 名前( )

二年生になって、おねえさんになっただけ、おにいさんになっただけど、思っている。

本は友だち

「すみれちゃん」が出てくるお話

「すみれちゃん」

「すみれちゃんは一年生」

「すみれちゃんのおついなつ」

いしのおつみさんの、そのほかの本

「てんしちゃん」

「おばあさんになつた女の子は」

「パパはスチキな男のおばあさん」

「おいでおいでの木においで」

おねえさんおにいさんになったことを書こう。

二年生になって、おねえさんになったな、おにいさんになったなど、思っている。

- ・すぐかたしなくなった。
- ・一年生にやわしくできる。
- ・べんきょうが、よくわかってたのしい。
- ・あいつが大きな声でできる。
- ・お手つだいができる。
- ・すききらいをまずに何でも食べる。
- ・本をよく読む。
- ・こまっている人をたすける。
- ・なわとびがじょうずになった。
- ・いちりんしゃにのれるようになった。

本は友だち

「すみれちゃん」が出てくるお話

「すみれちゃん」

「すみれちゃんは一年生」

「すみれちゃんのおついなつ」

しじいおつみちゃんの、そのほかの本

「てんしちゃん」

「おばあさんになった女の子は」

「パパはスナキな男のおばあさん」

「おいでおいでの木においで」

# 59

題材名 「わたしはおねえさん」③（第3時／全3時間）

目標 2年生になって成長したことをお互いに認め合える

領域名 C 読むこと B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「わたしはおねえさん」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「ともだちのせいちょうをかんじあおう」 ・ワークシートを配布し、目標を書き込ませる。	・本時の目標を知る。 ・ワークシートに書き込む。
展開 33分	③ 前時まとめた「変わったこと」を文章にさせる。 「2年生になって変わったことを文にまとめよう」 ・原稿用紙にまとめさせる。	・原稿用紙にまとめる。
終末 2分	④ お互いの作文を聞きあい、感想を述べあう。 「友だちの成長をきいて、感想を言おう」 ・自分と比較したり、成長を認めたりできるよう助言する。 ⑤ 次時の予告をする。 「次の時間は、『お話のさくしゃになろう』を学習します」	・お互いに作文を聞きあって、感想を述べあう。  ・次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

○ 漢字学習について

- ・ はね、止め、はらいをきちんと押さえる。
- ・ 新出漢字は空中に指書きさせる。授業では難しい字を中心に学習し、他の字は家庭学習とする。

○ 作者について

- ・ 1957年神奈川県生まれ。『五月のはじめ、日曜日の朝』で毎日新聞小さな童話大賞と新美南吉児童文学賞を、駒井れん名義の『パスカルの恋』で朝日新人文学賞を受賞。2006年、絵本の翻訳『ジャックのあたらしいヨット』（BL出版）で産経児童出版文化賞の大賞を受賞した。著書『レモン・ドロップス』『白い月黄色い月』『キャベツ』（以上講談社）『卵と小麦粉それからマドレーヌ』（ピュアフル文庫／BL出版）ほか。絵本に『おばあさんになった女の子は』（講談社）などがある。

## 板書例

- ① 題材名「わたしはおねえさん」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 前時まとめた「変わったこと」を文章にさせる。

わたしはおねえさん

おねえさんおにいさんになったことを書こう

○一年生になって、おねえさんになったな、おにいさんになったなど、思うこと。

- ・すぐかっとしなくなった。
- ・一年生にやさしくできる。
- ・べんきょうが、よくわかってたのしい。
- ・あいさつが大きな声でできる。
- ・お手つだいができる。
- ・すききらいをせずに何でも食べる。
- ・本をよく読む。
- ・こまっている人をたすける。
- ・なわとびがじょうずになった。
- ・いちりんしゃにのれるようになった。

- ④ お互いの作文を聞きあい、感想を述べあう。  
「友だちの成長をきいて、感想を言おう

- ⑤ 次時の予告をする。

わたしはおねえさん

二年 ( ) (くみ なまえ)

めあて

○ともだちのさくぶんをきいて かんじたこと

わたしはおねえさん

w  
59

二年（ ）くみ なまえ）

めあて

ともだちのせいちょうをかんじあおう

○ともだちのさくぶんをきいて かんじたこと

○たかしさんは、じぶんでいうように、じぶんから  
すすんでそうじができるようになったと思う。

○ゆうこさんは、いつもげんきにおはようといえる  
のが、一ねんせいよりすごいことだと思う。

# 60

**題材名** 「お話のさくしゃになろう」 (第1時/全2時間)

**目標** 身近なことを表す語句の量を増やし文章の中で使うことができる  
 自分の考えや思いが明確になるように事柄の順序にそって構成を考えることができる  
 想像して粘り強く物語を書くことができる。

**領域等** B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「お話のさくしゃになろう」を黒板に書く。 ・ワークシートを配る。	
展開 38分	② 本時の目標を黒板に書く。 まとまりに分けて、お話を書こう。 ・声に合わせて目標を読ませる。 ・ワークシートに書かせる。	・本時の目標を知る ・声に合わせて目標を読む ・目標をワークシートに書く
	③ P71を範読する。 ・P71下の学習のすすめ方を読む。 ① 絵を見て。お話を考える。 ② まとまりに分けて、お話をせつめいする。 ③ お話を書く。 ④ みんなで読み合う。	・範読を聞く
	④ P72 ① 絵を見て、お話を考えよう。 ・ふたりはどんな人物か 名前、どんな人物? ・どんな出来事が起こるか 想像させる。 P72 出来事の例を読む。 ・ワークシートを書かせる。 ・ワークシートを発表させる。	・P72の絵を見て想像する ・ワークシートに名前、人物、 どんなことが起きるかを考 えて書く ・発表する
終 2 分	⑤ 「はじめ」「中」「おわり」の順にお話を考える。 ・P73絵の横の枠 始め⇒中⇒終わりを児童に読ませる。 ・「中」のフクロウのおじいさんは初めは怖かったのに 段々優しくなったのはどうしてだろう? (想像させる) ◎◎ ・ワークシートに「中」の続きを書かせる。	・はじめ、中、終わりの枠を読む ・おじいさんが優しくなった のはなぜか考える ・ワークシートへ書く
	⑥ ワークシートを発表させる。	・書いた内容を発表する
	⑦ 次時の予告をする。 「次回も『お話のさくしゃになろう』の続きを学習します」 はじめ 中、おわりに気をつけてお話を書いてみましょう。	・次時の見通しを持つ

## 指導のポイント

- ・お話を考える時は想像をふくらませることが大切である。
- ・P72の絵を見て名前やどんな人物かを想像させる。
- ・P72の絵を見てこのあとにどんなことが起きるか想像させる。
- ・お話を考える時は まず どんなお話か 次に「はじめ」そして「中」最後に「おわり」の順で考えさせる。



## 板書例

① 題名材「お話のさくしゃになろう」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・「まとまりに分けてお話を書こう。」
  - ・ワークシートを配付し、書き込ませる。
- ③ P71下を読み、学習の進め方を確認する。
- ④ P72の絵を見て考えさせ、ワークシートへ書かせる。

お話のさくしゃになろう

まとまりに分けて、お話を書こう

絵を見て、お話を考えよう

ふたりはどんなじんぶつか

ふたりの名前

どんなじんぶつか

どんなできごとがおきるか

「中」のつづきをそうぞうして書きましょう

- ⑤ P73「中」続きを考えさせワークシートへ書かせる。
- ⑥ 発表させる。

- ⑦ 次回も「お話のさくしゃになろう」を学習します。
- 「はじめ」「中」「おわり」に気をつけてお話を書きましょう。

「ねん」「くみ なまえ」

」

がくしゅうのめあて

絵を見て、お話を考えよう

- ・ふたりはどんなじんぶつでしようか

ふたりの名前（

）

どんなじんぶつか（

）

- ・どんなできごとがおきるのか書いてみよう

「中」のつづきを考えて書きましよう

森に入ると、ふくろうのおじいさんに出会いました。おじいさんは、  
ふたりに言いました。

二ねん「くみ なまえ」

」

がくしゅうのめあて

まとまりに分けて、お話を書きましょう

絵を見て、お話を考えよう

・ふたりはどんなじんぶつでしようか

ふたりの名前（ねず子、ねずた）

どんなじんぶつか（元気なねず子、優しいねずた）

・どんなできごとがおきるのか書いてみよう

ふたりは森の中で、おそろしい動物のあいますが、力をあわせて、帰ってきます。

「中」のつづきを考えて書きましよう

森に入ると、ふくろうのおじいさんに出会いました。おじいさんは、ふたりに言いました。「どうして木のみをたくさんあつめるのじゃ。」と聞きました。

ねず子は「びよう気のお母さんにいっぱい木のみをたべて、げんきなってもらいたいと思ったから。」答えました。

ふくろうのおじいさんは「おじいさんについて来なさい。木のみがたくさんあるところをおしえてあげよう。」いいました。

- 題材名** 「お話のさくしゃになろう②」（第2時／全2時間）
- 目標** 身近なことを表す語句の量を増やし文章の中で使うことができる  
自分の考えや思いが明確になるように事柄の順序にそって構成を考えることができる  
想像して粘り強く物語を書くことができる。

**領域等** B 書くこと

**学習の流れ**

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「お話のさくしゃになろう」を黒板に書く。 ・ワークシートを配る。	
展開 38分	② 本時の目標を黒板に書く。 まとまりに分けて、お話を書こう。 ・声に合わせて目標を読ませる。 ・ワークシートに書かせる。	・本時の目標を知る ・声を合わせて目標を読む ・目標をワークシートに書く
	③ P72・P73の絵を見させて前時の復習をする。 ・ねず子とねずたのお話を考えました。 ・今日は「はじめ」「中」「おわり」のまとまりに分けてお話を考えて書いてみたいと思います。 ・書き終わったあとにお友だちと読み合ってみましょう。	・説明を聞く
	④ P74～P75 ③を範読する。 ・P74 お話の例を児童に読ませる。	・範読を聞く ・例を読む
終 2分	⑤ ワークシートに「はじめ」「中」「おわり」のまとまりに分けてお話を考えて書く。◎○ ・考えることが難しい児童や日本語の習得に課題がある場合は、 ・P74の「お話の例」の続きを書かせると良い。 ・書き終わったならば声に出して読ませ分りにくいところがないかを確認させる。	・お話を考える ・ワークシートに書く
	⑥ お話が書き終わった人はかん字を練習する	
終 2分	⑦ ワークシートを発表させる。	・お話を発表する
	⑧ 次時の予告をする。 「次回は『冬がいっぱい』を学習します」	・次時の見通しを持つ

**5 指導のポイント**

- ・お話を考える時は想像をふくらませることが大切である。
- ・P74のお話の例を参考に「はじめ」「中」「おわり」の順で考えさせる。
- ・誰が何をしたのかをわかるように書かせる。
- ・考えることが難しい児童や日本語の習得に課題がある場合は、P74の「お話の例」の続きを書かせる。
- ・取り組み状況は把握し、個に応じてサポートをする。

## 板書例

①題名材「お話のさくしゃになろう」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・「まとまりに分けてお話を書こう。」
  - ・ワークシートを配付し、書き込ませる。
- ③ P72P73の絵を見させ復習をする。
- ・今日の学習の流れを伝える。
- ④ P74 P75 ③ を範読する。
- ・お話の例を児童に読ませる。

⑤お話を考えてワークシートへ書く。

⑦ワークシートを発表する。

お話を書こう

まとまりに分けて、お話を書こう

お話のさくしゃになろう

⑥かん字を練習する。

⑧次回は「冬がいっぱい」を学習します。

お話のさくしやになろう

w  
61

「ねん」「くみ なまえ」

」

がくしゅうのめあて

お話を書こう

はじめ

中

おわり

かん字をれんしゅうしよう

野

原

お話のさくしやになろう

w 61

「二ねん「くみ なまえ」  
がくしゅうのめあて

」

まとまりに分けて、お話を書きましょう

お話を書こう

はじめ

わたしの名前は元気な「ねず子」です。ぼくの名前はやさしい「ねずた」とです。ふたりで秋の木のみをさがしに行きます。森まではとおい道のです。ねずたは葉っぱのお船にのっていくことが思いつきました。ねず子はふたりがのれる葉っぱをさがしてきました。「よし、これにのったらすぐに森につくことができるね。」川のながれにのって、ふたりは森へつくことができました。

中

森の中を歩いているとふたり大きなあなにおちてしまいました。「ねず子、けがはないか。」とねず太はたずねました。「わたしはだいじょうぶ」とねず子は答えました。「もうすぐよるになってしまう。」とふたりはしんぱいしました。あなの上かた大きな目玉がのぞきこみました。「おいしそうなねずみたちだ。」と大きな目玉はいいました。ふたりは「たすけてください。」とおねがいました。大きな目玉は「ふたりはどうしては森にやって来たんだ。」とたずねました。「びょうきのお母さんの秋の木のみをたくさんたべさせようと思って。」とねず太が言いました。大きな目玉はふくろうでした。二人はふくろうのおじさんにたすけられました。そして、木のみがたくさんあるところを教えられました。ふたりはふくろうのおじさんのせなかにのり、大きなつばさで空をとび、森のおくへ行きました。そこで、たくさん木のをひろいました。

おわり

ふくろうのおじさんは「おかさんのびょう気はよくなるといいね。」といいました。ふたりは、ふくろうのおじさんに「ありがとうございます。」とおれいをいって、お花でつくったかざりをわたしました。ふたりは、たくさん木のみをもって、野原に帰りました。

かん字をれんしゅうしよう

野

原

## 62

**題材名** 「冬が いっぱい」 (第1時/全1時間)

**目 標** 言葉には事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。  
 「書くこと」において、経験したことや想像したことから書くことを見つけることができる。  
 冬を感じた経験を書くことができる。  
 学習課題にそって積極的に文を書こうとしている。

**領域等** 書くこと

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「冬がいっぱい」を黒板に書く。 <ul style="list-style-type: none"> <li>補習校の国や地域によって冬の季節が感じられない場合は四季についてを説明する。</li> <li>ワークシートを配る。</li> </ul> ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">きせつのことばをさがそう</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の目標を知る</li> <li>声を合わせて目標を読む</li> <li>目標をワークシートに書く</li> </ul>
展開 38分	③ P76・P77の挿絵を見させる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>教師が絵を1つ読み、続けて児童に読ませる。</li> <li>P32 P33の「秋がいっぱい」のページを開かせる。挿絵から秋と冬の季節の変化に気付かせる。</li> </ul> 「日本で冬をかんじるものを考えましょう。」 教師が一つ一つ読み 続けて児童に大きな声で読ませる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>毛糸の帽子を被っている</li> <li>手袋をしている</li> <li>秋は黄色や赤い</li> <li>冬は葉が堅そう</li> <li>白鳥、マガモ(渡り鳥)</li> <li>雪印マーク</li> </ul>
	④ P77 唱歌「ゆき」を歌う	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゆきを歌う</li> </ul>
	④ P76の下を範読する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>「冬をかんじるものをワークシートに書きましょう」◎</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>冬を感じるものをワークシートへ書く</li> <li>絵を描いても良い</li> <li>友達の発表を静かに聞く</li> </ul>
	⑥ ワークシートへ書いた内容を発表させる。○	
終 2分	⑦ 「最後にワークシートに漢字を練習しましょう。」 <ul style="list-style-type: none"> <li>児童に背を向け、書き順に注意をして、黒板に書く。 冬</li> </ul> ⑧ 次時の予告をする。 「次回は『詩の楽しみ方を見つけよう』を学習します。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生の腕の動きをまねしながら空中で書く</li> <li>ワークシートへ漢字を書く</li> <li>次時の見通しを持つ。</li> </ul>

### 指導のポイント

- 日本の冬を感じる例が教科書にのっているが、樹木の「さざんか」や「つばき」の違いなど動植物を詳しく説明し過ぎると学習時間が不足する。「日本では冬になっても葉が落ちない木があります。冬にお花がさく代表的な木が教科書に載っています。ピンクの梅の木は2月から3月にかけて咲きます。桜は4月頃に咲きます。」程度にする。
- 補習校がある国や地域で冬を感じられるものについて考えさせ書かせる。
- 熱帯地方では写真などを見せるなどの工夫なできると良い。
- 漢字を練習する時は静かな環境で取り組ませる。



# 板書例

① 題材名「冬がいっぱい」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。  
・「きせつのことばさがそう」  
・ワークシートを配付し、書き込ませる。

③ 「冬がいっぱい」と「秋がいっぱい」のページの絵を見比べて、違いを見つけさせる。  
④ 唱歌「ゆき」を元気よく歌う。  
⑤ 冬を感じるものをワークシートへ書く。

冬がいっぱい

きせつのことばさがそう

冬を感じるものを書きましよう

かんじをれんしゅうしましよう

冬

⑥ ワークシートに書いたものを発表する。

⑦ かん字を練習する

⑧ 次回は「詩の楽しみ方を見つけよう」を学習します。  
ねこの詩やピアノの詩を学習します。





**題材名** 「ねこのこ おとのはなびら はんたいことば」 (第1時/全1時間)

**目標** 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。  
 「読むこと」において、詩を読んで感じたことを共有できる。  
 詩を読んで感動したことを積極的に共有し学習課題にそって詩を紹介しようとしている。

**領域等** C 読むこと

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「詩の楽しみ方を見つけよう」を黒板に書く。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配る。</li> </ul> ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">すきな詩をしょうかいしよう</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに書き込ませる。</li> <li>・声を合わせて目標を読ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標を知る</li> <li>・声を合わせて目標を読む</li> <li>・目標をワークシートに書く</li> </ul>
展開 38分	③ P78・P79の詩を読む。○ <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が詩を読む。続けて児童に読ませる。</li> <li>・楽しく詩を読む授業形態を工夫する。</li> </ul> ④ 好きな詩を1つ選び、ワークシートへ書かせる。 ⑤ 好きな理由をワークシートへ書かせる。◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・詩を読む</li> <li>・好きな詩を1つ選びワークシートへ書く。</li> <li>・好きな理由を書く。</li> </ul>
終 2分	⑥ 友だちと詩を読み合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな理由も発表し合う。</li> </ul> ⑦ 友だちと詩を読み合い、詩が楽しいと思った感想をワークシートへ書かせる。 ⑧ 次時の予告をする。 「次回は『にたいみのことば、はんたいのいみのことば』を学習します。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちと詩を読み合う。</li> <li>・好きな理由を発表し合う。</li> <li>・ワークシートへ感想を記入する。</li> <li>・次時の見通しを持つ。</li> </ul>

### 指導のポイント

- ・ 詩を範読する時には読むリズムに気をつける。
- ・ 教師の範読を聞くことにより、詩が楽しいと感じさせることがポイントである。
- ・ 児童に詩を読ませる場合は椅子に腰掛けた状態よりも、両手で教科書をもたせ、起立させて読ませるなどの工夫が望ましい。集中させるメリットがある。
- ・ 読ませ方を工夫する。5人未満の場合→教科書を両手で持たせ立たせて読ませる。読めたならば拍手を送る。6人以上の場合→3・4人グループ、1人が発表2人は聞く。10人以上→ペアを組ませ、立たせて1人が読む1人が聞く。等の授業形態を工夫する。

## 板書例

① 題材名「詩の楽しみ方を見つけよう」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・「好きな詩をしょうかいしよう」
  - ・ワークシートを配付し、書き込ませる。
- ③ 詩を範読したあとに児童に読ませる。
- ④ 好きな詩を1つ選び書かせる。

- ⑤ 好きな理由をワークシートへ書かせる。
- ⑥ 友だちと好きな理由を紹介し合う。

詩の楽しみ方を見つけよう

好きな詩をしょうかいしよう

好きな詩を一つえらび書きましよう

えらんだ理由を書きましよう

詩がたのしいと思ったかんそうを書きましよう

⑦ 詩が楽しい理由を書かせる。

⑧ 次回は「にたいみのことば、はんたいのいみのことば」を学習します。

「ねん」「くみなまえ」

」

がくしゅうのめあて

すきな詩を一つえらびましょう

すきな理由を書きましょう

詩がたのしいと思ったかんそうを書きましょう

「二ねん「くみなまえ」

がくしゅうのめあて

すきな詩をしようかいしよう

すきな詩を一つえらびましょう

ねこのこ おおくぼ ていこ

あくび ゆうゆう  
あまえて ごろごろ  
たまご ころころ  
けいと もしやもしや  
かくれても ちりん  
しかられて しゆん  
よばれて つん  
ミルクで にやん

すきな理由を書きましよう

ねこのかわいいようすが、音で書かれているところがすきです。

詩がたのしいと思つたかんそうを書きましよう

おとなはなびらの詩で、音に色をつけるところがおもしろいと思いました。

# 64

**題材名** 「にたいみのことば、はんたいのことば」（第1時／全1時間）

**目標** 意味を考えて言葉をえらんで使うことができる

**領域名** B 書くこと 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「にたいみのことば はんたいのことば」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「ことばのいみを よく かんがえて つかおう」 ・ ワークシートを配布し、目標を書き込ませる。	・ 本時の目標を知る。 ・ ワークシートに書き込む。
展開 33分	③ にたいみのことばについて知る。 「『話す』と『言う』はそれぞれどんな意味でしょう。」 「同じように、似た意味だけれども違う言い方をするものは、ほかにはないか探してみましよう。」 ・ ワークシートに書かせる。	・ 似た意味の言葉について、対となるように整理する。
終末 2分	④ はんたいのいみのことばについて知る。 「『大きい』と『小さい』はそれぞれどんな意味でしょう。」 「次のことばのはんたいのいみのことばを考えましよう。」 ・ ワークシートに書かせる。 ⑤ 次時の予告をする。 「次の時間は、『かん字の広場』を学習します」	・ 反対の意味の言葉について、対となるように整理する。 ・ 次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

### ○対義語の指導

導入時には、絵カードを使って対義語に興味をもたせる工夫をし、自らも「反対言葉を集めてみたい」と思う意欲付けを行う。また、複数の対義語がある言葉を提示し、この場合には文章の中で対義語を使わないと相手にはその意味が伝わらない経験をさせ、単語で話すのではなく、文章で伝える必要性に気付かせるなどの工夫をする。



## 板書例

- ① 題材名「にたいみのことば はんたいのいみのことば」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

③ にたいみのことばについて知る

にたいみのことば はんたいのいみのことば

ことばのいみを よく かんがえて つかおう

○にたいみのことば

「話す」 ⇄ 「言う」  
「しぼる」 ⇄ 「むすぶ」 「しめる」  
「うつくしい」 ⇄ 「きれい」 「すてき」

○はんたいのいみのことば

「大きい」 ⇄ 「小さい」  
「きる」 ⇄ 「ぬぐ」  
「上」 ⇄ 「下」  
「少ない」 ⇄ 「多い」  
「立つ」 ⇄ 「座る」

◇きょうかしよを さんこうにして、はんたいのいみのことばの組をせいりしよう

※教科書の81頁を参考にする

- ④ はんたいのいみのことばについて知る
  - ・はんたいのいみのことばの組を整理する。

⑤ 次時の予告をする。

にたいみのことば はんたいのいみのことば

二年 ( ) (くみ なまえ)

めあて

○にたいみのことばについてまとめよう

話す 〓 ( ) ( )  
しぼる 〓 ( ) ( )  
うつくしい 〓 ( ) ( ) ( )

○はんたいのいみのことばについてまとめよう

大きい 〓 ( ) ( )  
きる 〓 ( ) ( )  
上 〓 ( ) ( )  
少ない 〓 ( ) ( )  
立つ 〓 ( ) ( )

◇そのほかにも、はんたいのいみのことばをさがそう。

にたいみのことば はんたいのいみのことば(記入例)

二年 ( ) (くみ なまえ)

めあて

ことばのいみを よく かんがえて つかおう

○にたいみのことばについてまとめよう

話す 〓 ( ) 言う ( )  
しぼる 〓 ( ) むすぶ ( ) しめる ( )  
うつくしい 〓 ( ) きれい ( ) すてき ( )

○はんたいのいみのことばについてまとめよう

大きい 〓 ( ) 小さい ( )  
きる 〓 ( ) ぬぐ ( )  
上 〓 ( ) 下 ( )  
少ない 〓 ( ) 多い ( )  
立つ 〓 ( ) すわる ( )

◇そのほかにも、はんたいのいみのことばをさがそう。

すき 〓 ( ) きらい

しあわせ 〓 ( ) おそろしい

うきうきする 〓 ( ) はらはらする

# 65

題材名 「かん字の広場⑤」（第1時／全1時間）

目標 第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。  
 「書くこと」において、主語と述語の続き方に気をつけることができる。  
 既習事項の漢字を使って進んで文を書こうとする態度を育成する。

領域等 B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「かん字の広場5」を黒板に書く。 ・ワークシートを配る。 ② 本時の目標を黒板に書く。 主語と述語のつながりに気をつけて、 公園のようすを書きましょう。 ・声に合わせて目標を読ませる。 ・ワークシートに書かせる。	・本時の目標を知る ・声を合わせて目標を読む ・目標をワークシートに書く
展開 38分	③ P82 絵を見させる。公園の様子を確認する。 ・公園にはどんな人がいますか？ ・公園にいる人は何をしているのでしょうか？ ・公園に動物がいますね。 ④ P82のかん字を上から順で読んでいく。 ⑤ ワークシートにふりがなを書かせる。 ・ワークシートができた児童に○付けをする。 ⑥ 教科書の例を読む。 ・例を参考に絵を見て、主語と述語のつながりに気をつけて、公園の様子をワークシートへ書かせる。○ ⑦ 文を友達と紹介し合う。◎ ・良い文を発表させる。	・絵を見て広場の様子を確認する ・お弁当を食べてる ・竹馬って何？ ・猫を助けてる ・かん字を読む ・ふり仮名を書く ・文を書く
終 2分	⑧ 次時の予告をする。 「次回は『おにごっこ』を学習します。」 教室でおにごっこをするではありません。 「おにごっこ」という文を読んで分かったことをどんなことかを学習します。	・文を発表し合う ・友達の良いと思った文を発表する ・ ・次時の見通しを持つ

## 指導のポイント

- ・文を作成させる指示を出す前にP82の広場の絵を見させ様子を観察させる。
- ・文を書きたくなるような進め方をする。
- ・主語（～は）（～が） 述語（～です）（～しています）、様子が分かる文を書かせる。
- ・友達と紹介し合う時は、1文ずつ順番に紹介し合うように配慮する。

## 板書例

①題名材「かん字の広場5」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・「主語と述語のつながりに気をつけて、公園のようすを書きましょう」
  - ・ワークシートを配付し、書き込ませる。
- ③P82の絵を見させて、広場の様子を確認する。

- ④漢字を読む。
- ⑤漢字にふり仮名を書かせる。
- ⑥教科書の例を読み、例にならってワークシートへ書かせる。
- ⑦文を紹介し合う。

かん字の広場5

主語と述語のつながりに気をつけて、

公園のようすを書きましよう

ふりがなを書きましよう

れいにならって文を書きましよう





# 66, 67, 68

**題材名** 「おにごっこ 本でのしらべ方」 (第3時/全3時間)

**目標** 読書に親しみ、様々な本があること知ることができる。  
 「読むこと」において文章の中に重要な語や文を考えて選ぶことができる。  
 「読むこと」において文章を読んで感じたことや分かったことが共有できる。  
 進んで本を読んでわかったことを説明しようとする。

**領域等** C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「おにごっこ 本でのしらべ方」を黒板に書く。 ・ワークシートを配る。 ② 本時の目標を黒板に書く。 しらべるときつかおう ・声に合わせて目標を読ませる。 ・ワークシートに書かせる。	・本時の目標を知る ・声を合わせて目標を読む ・目標をワークシートに書く
展開 38分	③ P93 「本でのしらべ方」を読む。 ・知りたいことをたしかめて読む。 ・分かったことなどをメモする。 ④ 「おにごっこ」や「遊び」について本を読んで調べ説明し合う。 ・本の題名と筆者をワークシートへ書かせる。 ・知りたいことを書く。 ・わかったことをメモする。 ・補習校は図書館が併設していない環境が多いので、「遊び」や「おにごっこ」の本を事前に準備できるように努力する。○ ・本を読んで、知りたいことや分かったことを読み取る。 ・読解力をつけさせる指導がポイントであるため、おにごっこに限らずに日本語の本が準備できれば良い。	・絵を見る。 ・かさなりおにはどんな遊びか体験する ・本を選ぶ (持参した本を読む) ・ワークシートへ書く ・しらべたことをワークシートへ書く。
終 2分	⑤ 調べたことを発表し合う。◎ ・友達の発表を聞いて質問する。 ・質問に答える。 ・友達の発表を聞いた感想を発表する。 ⑥ 漢字をワークシートに練習をさせる。 児童に背を向けて書き順を見させる。 走る ・交 ⑦ 次時の予告をする。 「次回は『ようすをあらわすことば』を学習します。」	・発表する ・質問する ・質問に答える ・感想を言う ・書き順を見る・ ・ワークシートへ書く ・次時の見通しを持つ

## 指導のポイント

- ・補習校は図書館が併設していない環境が多いので、「遊び」や「おにごっこ」の本を事前に準備できるように努力する。
  - ・本を読んで、知りたいことや分かったことを読み取る。力をつけさせる指導がポイントであるため、おにごっこに限らずに日本語の本が準備できれば良い。
  - ・学習の流れを整理すると ①調べたいことがある。 ②図書館へ行き本を見つける。 ③本を読む。
- ④ 調べた内容をメモする。 ⑤調べたことを発表する。



# 板書例

① 題名材「おにごっこ 本でのしらべ方」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・「しらべるときにつかおう。」
  - ・ワークシートを配付し、書き込ませる。
- ③ P93を読み、調べたかを理解させる。

④ 図書館の本か持参した本を読む。  
ワークシートへ分かったことなどを書かせる。

⑤ 調べたことを発表し合う

おにごっこ 本でのしらべ方

しらべるときにつかおう

しらべたいこと

本の  
だいな  
書いた  
人

わかったことをメモしましょう

分かったことを友だちにつたえましょう

かん字を書きましょう

⑥ 漢字を練習する

⑦ 次回は「ようすをあらわすことば」を学習します。  
雨のようすをあらわすことばについて学習します。

二ねん 「 」 くみ なまえ 「 」

がくしゅうのめあて

[Empty box for student response]

本のだい名 「 」

「 」

」

本を書いた人 「 」

」

自分が知りたいことを書きましょう

[Empty box for student response]

本を読んで分かったことをメモしよう

[Empty box for student response]

分かったことを友だちと伝え合いましょう

かん字を書きましよう

走
交

二ねん「くみ なまえ」

がくしゅうのめあて

しらべるときにつかおう

本のだい名 「みんなでおそぼう」

本を書いた人 「いしだ ひでゆき」

自分が知りたいことを書きましよう

みんなでのしくあそぶ、ゲームなどを、しらべたいと、思ったからです。

本を読んで分かったことをメモしよう

ぼくは、「みんなであそぼう」という本を読んで、「じゃんけんすごろく」について、せつめいします。

これは、じゃんけんをして、かったほうが先へすすみ、ゴールを目ざすあそびです。かいだんでできます。ルールは、

グーでかった人は「グリコ」三歩、

チョキは「チョコレート」五歩、

パーは「ハイナツプル」六歩です。

ぼくは、グー・チョキ、パーで、はじまるこの国のことばをしらべて、すすむ数をきめたりすると、もっと楽しくなると思います。

分かったことを友だちと伝え合いましよう

かん字を書きましよう

走								
				交				

題材名 「ようすをあらわすことば」 (第1時/全1時間)

目 標 様子を表す言葉の意味について、想像を広げながら読むことができる。

領域名 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「ようすをあらわすことば」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「ようすをあらわすことばについて考えよう」 ・ワークシートを配布し、目標を書き込ませる。	・本時の目標を知る。 ・ワークシートに書き込む。
展開 33分	③ 教科書を音読させる。 ・教師が読む。全員で読む。 ④ 擬態語や形容詞について、言い表し方を知らせる。 「挿絵のような雨の言い表し方を知ろう。」 ⑤ 比喩の言い表し方を知らせる。 「たとえを使った言い表し方を知ろう。」	・音読をする。 ・擬態語や形容詞について知る ・比喩の言い表し方を知る。
終末 2分	⑥ 様子を表す言葉を使って短文を作らせる。 「どんな様子を表す言い方か、短い文を作って考えよう。」 ⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は『みたこと、かんじたこと』を学習します。」	・様子を表す言葉を使って、短文を作る。 ・次時の見通しを持つ。

### 指導のポイント

#### ○ 擬態語について

- ・ 犬の鳴き声の「ワンワン」のような言葉を擬音語（擬声語）という。音を表わすものを擬音語、動きや様子を表わすものを擬態語という。元気なく歩く人が「トボトボ」と音を立てていたり、星や宝石が「キラキラ」と鳴っていたるということはないから、これらは擬態語ということになる。擬音語は世界中どの言語にも同じようにあるが、擬態語はそうでもなく、多い言語と少ない言語の差が大きい。日本語は擬態語が非常に多いことで知られている。しかも、擬態語起源と思われる言葉が普通の語彙の中にも入りこんでいる。「彼女がなかなか来ないのでイライラしている」を「イライラ」を使わずに言い換えよと言われたら、どう答えたらいいのだろう？「機嫌が悪い」でも「落ち着きがない」でもしっくりしない。「イラ立っている」ではどうだろうか？「いら立つ」が擬態語の「イライラ」をもとにした言葉であることはすぐ分かる。このように、擬態語起源のことばまで排除したら、われわれの会話は成り立たないのである。「ころがる」とか「ゆらめく」なども、「コロコロ」「ユラユラ」といった擬態語がもとになった言葉である。日本語では、さらに、母音を変えたり子音を濁音にしたりして、擬態語の表現力が高められる。「タカタカ」「トコトコ」は、ともに歩く様子を示すが、「タカタカ」の方が「トコトコ」より大まかで歩く感じがする。おなじ「ころがる」のでも、「ゴロゴロ」の方が「コロコロ」より、転がっているものが大きい印象を受ける。こう考えてみると、「さわぐ」とか「こわばる」という、擬態語とは一見関係なさそうな言葉まで、「ザワザワ」「ゴワゴワ」という擬態語と関係づけられてくる。

## 板書例

- ① 題材名「ようすをあらわすことば」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 教師と児童が全文を読む。  
「全文を読んで学習の見通しをもとう。」

ようすをあらわすことば

ようすをあらわすことばについて考えよう

○雨がふっているようすをあらわすことば

・雨が、ざんざんふっている。

ことばのひびきによってあらわす。

・雨が、はげしくふっている。

雨のふり方がどれぐらいかをあらわす。

・雨が、たきのようにふっている。

「たき」にたとえてあらわしている。

・バケツをひっくりかえしたみたいに雨がふっている。

バケツにたつぷりと入っている水が、いちどに外へながれ出てしまうようすにたとえている。

◇みじかい文を作って、考えよう。

・雨が、しとしとふっている。

・ゆめのようない日。

・魚が、びくびくうごく。

・お休みを、のんびりすごす。

・とがったえんぴつ。

・ほっこりとおいしいおいも

・でこぼこ道

- ④ 擬態語や形容詞について、言い表し方を知らせる。  
「写真のような雨の言い表し方を知ろう。」

- ⑤ 比喩の言い表し方を知らせる。  
「たとえを使った言い表し方を知ろう。」

- ⑥ 様子を表す言葉を使って短文を作らせる。  
「どんな様子を表す言い方か短い文を作って考えよう。」

- ⑦ 次時の予告をする。





# 70

**題材名** 「見たこと かんじたこと」 (第1時/全1時間)

**目標** 声に出して読み, 詩の楽しさを味わう。

**領域名** B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「見たこと かんじたこと」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「読み方をくふうして 楽しく 読もう」 ・ ワークシートを配布し, 目標を書き込ませる。	・ 本時の目標を知る。 ・ ワークシートに書き込む。
展開 33分	③ 教科書P98を音読させる。 ・ 一人やグループなど, 様々な形態での音読を工夫させたい。グループで輪唱のように読んでもよい。	・ 音読をする。
終末 2分	④ どんな言い方で様子を表しているかを考えさせる。 ・ 児童が発表し, 教師が黒板に書く。 ⑤ 詩を自分でも作成させる。 「出てきた工夫を生かして詩をつくろう」 ⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は『楽しかったよ、二年生』を学習します。」	・ どんな言い方で様子を表しているかを考える。 ・ 自分で詩を作成する。 ・ 次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

○ 作者の紹介について

・ 野呂 昶 (のろ・さかん) 1936年岐阜県に生まれる。詩人。詩集『ふたりしずか』(かど創房)『おとのかだん』(教育出版センター) 絵本『ふくろうとことり』(かど創房)『良寛詩抄・無弦の琴』(鈴木出版)などの作品がある。

・ 谷川俊太郎 (たにかわ・しゅんたろう) 1931年東京生まれ。52年「文學界」に詩を発表して注目を集め、処女詩集「二十億光年の孤独」を刊行。みずみずしい感性が高い評価を得る。主な詩集には読売文学賞を受賞した「日々の地図」をはじめ、「ことばあそびうた」「定義」「みみをすます」「よしなしうた」「世間知らズ」「モーツァルトを聴く人」などがある。また、絵本「けんはへっちゃん」「こっぷ」「わたし」や、日本翻訳文化賞を受賞した訳詩集「マザーグースのうた」やスヌーピーでおなじみの「ピーナッツ」などの翻訳、脚本、写真、ビデオなど様々な分野で活躍している。



# 板書例

- ① 題材名「見たことかんだこと」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

③ 教科書P.98を音読させる。

見たこと、かんだこと

読み方をくふうして楽しく読もう

○どんな言い方で、ようすをあらわしているか

びゅんびゅん 早いようす

つるつる ぎざぎざら ぎざぎざな さわるかんじ

ずつと ずつと くりかえし

◇ 自分でも詩をつくらう

- ・工夫を生かす

④ どんな言い方で様子を表しているかを考えさせる。

⑤ 詩を自分でも作成させる。 ・工夫を生かす

⑥ 次時の予告をする。

見たこと かんじたこと

二年 ( くみ なまえ )

めあて

○どんな言い方をしているか かんがえよう

びゅんびゅん

(

)

つるつる ギららギらら ギギギギギ

(

)

ずっと ずっと

(

)

○工夫を生かして 詩をつくろう

見たこと かんじたこと(記入例)

二年 ( くみ なまえ )

めあて

読み方をくふうして 楽しく 読もう

○どんな言い方をしているか かんがえよう

びゅんびゅん

( 早いようす )

つるつる ギらギラ

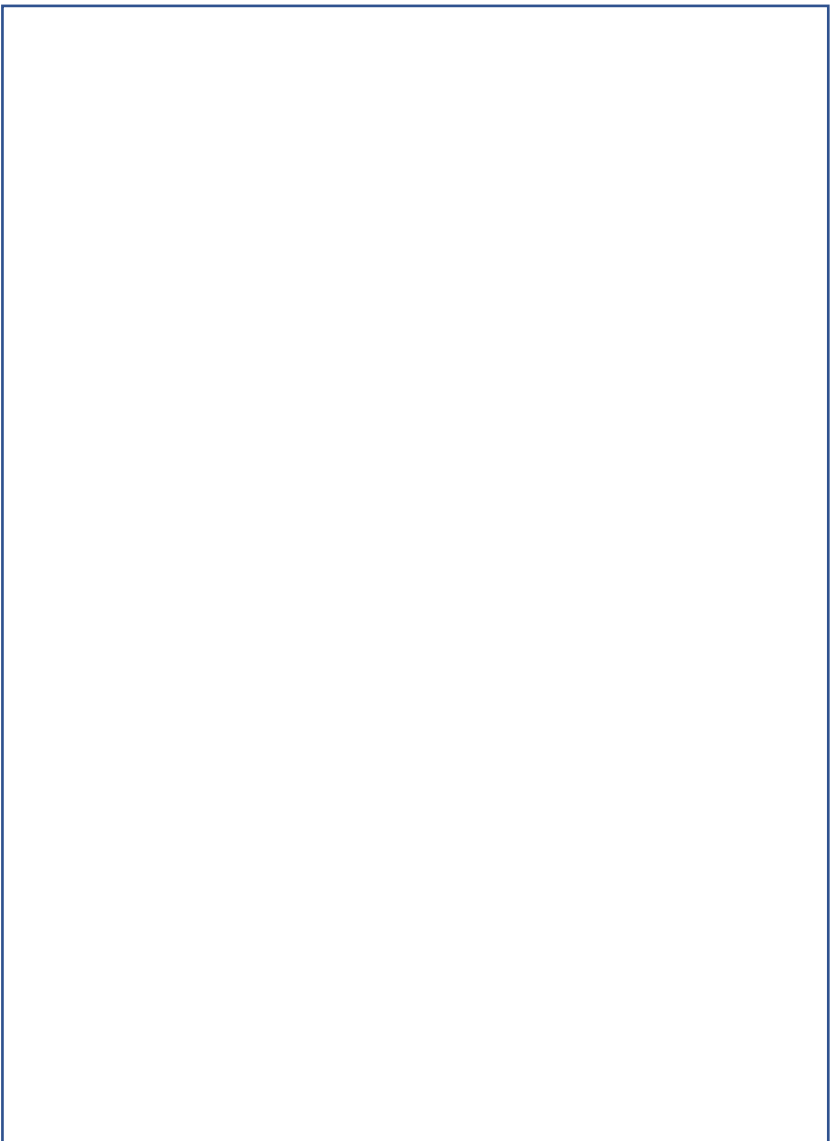
ギギギギ

( さわったかんじ )

ずっと ずっと

( くりかえし )

○工夫を生かして 詩をつくろう



# 71

題材名 「楽しかったよ二年生」①（第1時／全2時間）

目 標 全文を読んで、学習の見通しをもつ。

領域名 B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「楽しかったよ二年生」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「書かないようを考えてメモしよう」 ・ ワークシートを配布し、目標を書き込ませる。	・ 本時の目標を知る。 ・ ワークシートに書き込む。
展開 33分	③ 教科書を音読させる。 「メモのしかたを考えよう」 ・ 教師が読む 全員で読む	・ 音読をする。
終末 2分	④ 思い出すことを項目ごとにまとめる。 「思い出すことをメモしよう」 ⑤ 2人組でメモの見直しをさせる。 「2人組でメモを見合って、詳しくしよう。」 ⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は清書します。」	・ 思い出すことを項目ごとにメモする。 ・ 2人組でメモの見直しをする ・ 次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

### ○ 題材選びについて

・ 思い出の文集作りなので、出来事がかたよらない方がよい。その意図を伝えたり、選ばれなかった出来事の楽しかったことをいんなで思い出したりして、なるべく多岐にわたって出来事が選ばれるようにしたい。また、書きたいことが複数ある児童には、より書きたいのはどちらかを選ばせたり、全体のバランスからどちらかを勧めたりするとよい。

### ○ 2人組みの話し合いについて

・ メモをもとにして話させ、2人組みの聞き手の問いかけによって内容を詳しくさせる。聞き手には、質問攻めにするのではな、内容を詳しくさせるためという目的を確認させる。内容を引き出す言葉を黒板に書いて参考にさせる。

### ○ 書き出せない児童のへ助言について

なかなか書き出せない児童には、友達との話や写真や日記などを手がかりに自分で書き出せるようにさせたい。それでも難しい場合は、教師がそれぞれの内容についての書く視点を、児童に問いかけの形で提示していき、思い出させるとよい。

## 板書例

- ① 題材名「楽しかったよ二年生」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 教師と児童が、教科書を読む。  
「教科書を読んでメモのしかたを考えよう。」

楽しかったよ 二年生

書くないようを考えてメモしよう

○どうしてそのだいにしたのか。

スイミーのべんきょうがおもしろかった。

○いつのことか。

毎日読みのれんしゅうをした。

○どこであったことか。

国語の時間

○どんなことがあったの、したのか。

りかさんとたかしさんとで、音読を聞き合った。

○友だちがしたことは何か。

スイミーに言ってあげたいことを考えながら読んだ。

○いちばんがんばったことや、うれしかったこと、おもしろかったことは何か。

いちばんすきなのは、スイミーと赤い魚たちが、大きな魚をおい出したこと。

○先生や友だちは、何と言ったか。

「はじめはゆっくりで、だんだんはやく、いきおいをつけて読むようにしたら。」と言った。

○そのときどう思ったか。

かんそうがたくさん書いてうれしかった。

◇二人組で話し合って、くわしくしよう。

- ④ 思い出すことを項目ごとにまとめる。  
「思い出すことをメモしよう。」

- ⑤ 2人組みでメモの見直しをさせる。  
「2人組みでメモを見合って、詳しくしよう。」

- ⑥ 次時の予告をする。

# 72

題材名 「楽しかったよ二年生」②（第2時／全2時間）

目標 メモをふくらませて、楽しかったことが分かる文章を書くことができる。

領域名 B 書くこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「楽しかったよ二年生」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「作文のせいしょをしよう」 ・ワークシートを配布し、目標を書き込ませる。	・本時の目標を知る。 ・ワークシートに書き込む。
展開 33分	③ 教科書を音読させる。 「教科書を読んで下書きのしかたを考えよう。」 ・教師が読む 全員で読む。	・音読をする。
終末 2分	④ 作文の清書をさせる。 「作文の清書をしよう。」 ・気を付けるところを確認しておく。 ⑤ 2人組で清書の見直しをさせる。 「2人組で清書を見合って、感想を伝えよう。」 ⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は『カンジー博士の大はつめい』を学習します。」	・作文の清書をする。 ・2人組で清書の見直しをする ・感想を発表する。 ・次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

- 清書について
  - ・ ていねいに取り組んでいる児童をほめることによって、他の児童にも取り組み方に注意させることができる。
  - ・ 書いた文を見直す習慣をつけさせたい。「見直し」が終わるまでが清書段階であることを知らせる。
- 書き出せない児童のへ助言について
  - ・ 書く量や書く速さによって進み具合が違ってくるであろうから、終わった児童から交換させて友達の作文を読み合うようにさせる。
- 文集作りについて
  - ・ 可能であれば、仕上がった原稿から順番に、人数分印刷していく。補習校によって印刷機器の事情が違うが、学習の足跡を残すために、文集は年間1～2冊程度は作成したい。文集の原稿については、児童による手書きのものが基本になるが、文章の内容に焦点を絞りたい場合は、ワープロ原稿にしてもよい。児童も印刷物になったときに喜ぶ。
  - ・ 印刷する都合上、前時と同日に行うことは難しいので、通常は次の授業日まで印刷等の作業時間をとることが必要となるであろう。
  - ・ 文集に名前をつけようともちかけ、いろいろなアイデアを出し合うと、より楽しい思い出に残る1冊となるであろう。表紙は、その名前とともに図柄を自分で書かせたり、クラスの集合写真を貼ったりするとよい。

## 板書例

- ① 題材名「楽しかったよ二年生」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 教師と児童が、教科書を読む。  
「教科書を読んで清書をしよう。」

楽しかったよ 二年生

作文のせいしよをしよう

○せいしよをしよう

気をつけるところ。

- ・はじめ・中・おわりにくぎる。
- ・まとまりの書きはじめは、一ます下げる。
- ・話したことばには、「」をつける。行は、かえて書く。

・かん字やかたかなは、正しくつかえたか。

・「は、を、へ」や、小さく書く字（や、ゆ、よ、

つ）は、正しくつかえているか。

・丸（。）、点（、）、かぎ（「」）は、正しくつかえているか。

◇友だちとせいしよを読み合って、かんそうをつたえよう。

- ④ 作文の清書をさせる。  
「作文の清書をしよう。」・気をつけるところを確認しておく

- ⑤ 2人組みで清書の見直しをさせる。  
「2人組みで清書を見合って、感想を伝えよう。」

- ⑥ 次時の予告をする。

- 1 題材名 「カンジーはかせの大はつめい」（第1時／全1時間）
- 2 目標 第2学年で配当されている漢字を読むことができる。  
第2学年で配当されている漢字を読み、積極的に漢字クイズに取り組む態度を育てる。
- 3 領域等 C 読むこと

## 4 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「カンジーはかせの大はつめい」を黒板に書く。 ・ワークシートを配る。 ② 本時の目標を黒板に書く。 2年生でならったかん字をふくしゅうしよう ・声に合わせて目標を読ませる。 ・ワークシートに書かせる。	・本時の目標を知る ・声を合わせて目標を読む ・目標をワークシートに書く
展開 38分	③ P104 上を範読する。 ・範読の内容について感想を聞く。	・教科書を見ながら範読を聞く ・感想を発表する。
	④ P104の下 1 を範読し□に入る漢字を考え、教科書の□に漢字を書かせる。 ・正解を黒板に書く（男、岩）。	・範読を聞く ・漢字を考え教科書に記入する ・答え合わせをする
	⑤ P104の下 2 を範読し□に入る漢字を考え、教科書の□に漢字を書かせる。 ・正解を黒板に書く（日、会）。	・漢字を考え教科書に記入する ・答え合わせをする
	⑥ P105 上を範読する。 ・挿絵に注目させ弓矢の問題の解き方を理解させる。○	・範読を聞く ・弓矢の問題を理解する
終 2分	⑦ P105 3 を範読しワークシートに答えを書かせる。 ・答えを発表させる。 ・問題を作り、グループで漢字クイズ大会を開く。◎	・ワークシートに答えを書く ・答えを発表する ・問題を作りクイズ大会をする
	⑧ 新出漢字を練習させる。 児童の背を向けて書き順に気をつけて大きく空書き見せる。 ・ワークシートに漢字を練習させる。	・先生の真似をして空書きする ・ワークシートに漢字を練習する
	⑨ 次時の予告をする。 「次回は『ことばを楽しもう』を学習します。」	次時の見通しを持つ。

## 5 指導のポイント

- ・漢字の読む力に課題が児童は P156～P160 を参考にクイズを考えさせる。
- ・クイズを聞くときは黙って最後まで聞く態度を身に付けさせる。
- ・クイズの出題の順番が公平平等にできるように配慮する。
- ・クイズの正解を答えたときは拍手をさせ楽しい中にもマナーをもって行わせる。



## 6 板書例

①題名材「カンジーはかせの大はつめい」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・「2年生でならったかん字をふくしゅうしよう。」
  - ・ワークシートを配付し、書き込ませる。

③P104上 範読をする。

④P104下 **1** 範読し□に漢字を書かせる。正解を黒板に書く。

⑤P104下 **2** 範読し□に漢字を書かせる。正解を黒板に書く。

⑥P105上を範読する。弓矢の問題を理解させる。

⑦P105 **3** を範読しワークシートに答えを書かせる。

- ・答えを発表させる。
- ・問題を作りグループで漢字クイズ大会を開かせる。

**2** **1**

日 男  
会 岩

カンジーはかせの大はつめい  
2年生でならったかん字を  
ふくしゅうしよう

⑧新出漢字を練習する。

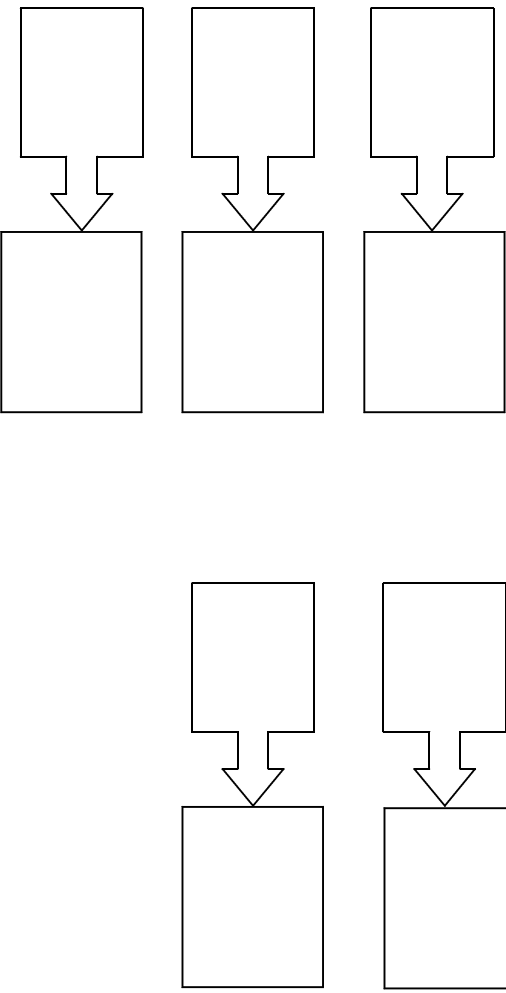
⑨次回は『ことばを楽しもう』を学習します。

「二ねん」  
「がくしゅうのめあて」  
なまえ

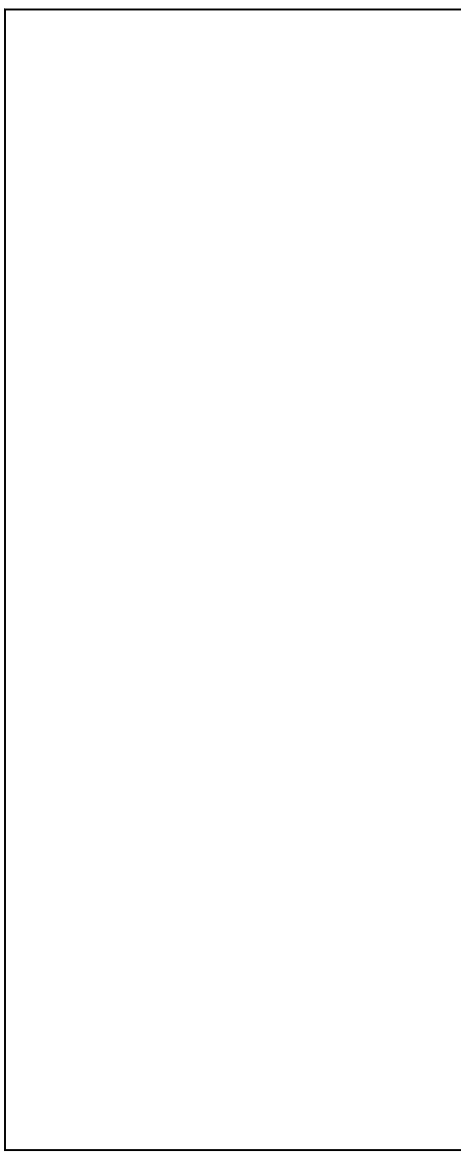
」  
173

の矢を弓でとばすと、どのまとまりに当たるでしょうか。  
どんなことばができますか。

ぎつ



カンジューはかせのように かん字クイズを つくってみま  
しょう。



かん字をれんしゅうしましょう。

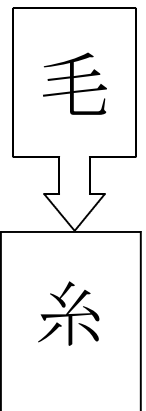
門	オ
	弓
矢	
	谷

「二ねん」「くみなまえ」  
がくしゅうのめあて

」  
173

二	年	生	で	な	ら	っ	た	か	ん	字	を		ぎ
ふ	く	し	ゅ	う	し	よ	う	。					

の矢を弓でとばすと、どのまとまりに当たるでしょうか。  
どんなことばができますか。



カンジューはかせのように かん字クイズを つくってみま  
しょう。

女	未	木	木
妹		林	
紙			

かん字をれんしゅうしましょう。

門	オ
	弓
矢	
	谷

# 74

**題材名** 「ことばを楽しもう」（第1時／全1時間）

**目標** 回文に触れ、言葉のおもしろさに気付くことができる

**領域名** ア 話すこと 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「ことばを楽しもう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「上から読んでも下から読んでもよめる文をたのしもう」 ・ ワークシートを配布し、目標を書き込ませる。	・ 本時の目標を知る。 ・ ワークシートに書き込む。
展開 33分	③ 教科書を音読させる。 「大きな声でよんでみましょう。」 ・ 教師が読む 全員で読む。	・ 音読をする。
終末 2分	④ 例文以外の回文に触れ、その楽しさを味わう。 「もっと他にはないか、探してみよう」 ・ 教師が示す例文を声に出して読み、楽しさを味わう。 ⑤ 自作を試みる。 「自分たちでもできないだろうか。」 ⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は『スーホの白い馬』を学習します。」	・ 他の例文に触れる。 ・ 2人組で清書の見直しをする ・ 自作に挑戦する。 ・ 次時の見通しを持つ。

### 指導のポイント

○ 回文の例

トマトはトマト  
 たけのこ、のけた  
 イカと貝。

※あくまでリズムのおもしろさを味わう題材であるので、余裕があれば、自作に挑戦する。

## 板書例

- ① 題材名「ことばを楽しもう」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 教科書を音読させる。  
「大きな声でよんでみましょう。」

ことばを楽しもう

上から読んでも下から読んでもよめる文を  
たのしもう

○上から読んでも

下から読んでも

あれ、同じように読めるぞ。

○自分でもできるかな

- ④ 例文以外の回文に触れ、その楽しさを味わう。  
「もっと他にはないか、探してみよう」

- ⑤ 自作を試みる。  
「自分たちでもできないだろうか。」

- ⑥ 次時の予告をする。

# 75

題材名 「スーホの白い馬」①（第1時／全3時間）

目標 場面の様子を想像しながら読み，感想を話し合う。

領域名 C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「スーホの白い馬」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「ぜん文を読んでお話のあらすじをつかもう」 ・ワークシートを配布し，目標を書き込ませる。	・本時の目標を知る。 ・ワークシートに書き込む。
展開 33分	③ 教科書を音読させる。 ・教師が読む 全員で読む。 ④ 馬頭琴についてどんな楽器か考えさせる。 ・場面訳をさせる。	・音読をする。 ・馬頭琴についてどんな楽器か考える。 ・場面分けをする。
終末 2分	⑤ 感想を書かせる。 ・友だちのいいところを見つけさせる。 ⑥ 新出漢字「北・牛・引・売・弱」の学習をさせる。 ⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は心にのこったことを伝えあいます。」	・感想を書く。 ・感想を発表する。 ・友だちのいいところを見つける。 ・新出漢字を学習する。 ・次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

### ○ モンゴルについて

・大相撲の白鳳や朝青龍で有名なモンゴル。日本の約4倍の国土に240万人の人口しか住んでいない。年間の晴天の日は、250日以上。雨量は少ない。最高気温は40度にもものぼるが、最低気温はマイナス40度にもなるという、年格差が激しい気候である。昔は多くの家族が遊牧民として暮らしていた。遊牧民は移動することが多いので、聞いた話を紙に書いて持ち歩くというのは困難だった。昔は聞いた話をしっかり覚えて、また他の人に伝えたという。

### ○ 馬頭琴について

・馬頭琴の先の部分には、馬の頭をかたどったかざりが付いている。馬の頭は、希望をあらわす緑色をしているものが多くある。馬頭琴の弓と弦は、馬のしっぽの毛でできている。弦は2本で、しっぽの毛をより合わせて作っている。弓は、100本前後のしっぽの毛を束ねて作っている。

### ○ 挿絵について

・挿絵は、児童が場面の様子を想像するのに役立つが、場面ごとの内容のだいたいをつかむのにも有効である。モンゴルの広い草原の様子を想像するのに役立ったり、スーホがどのような気持ちで子馬を連れて来たかを想像するのに役立ったりするので、事前に、挿絵をどのように使うかを考察しておくといよい。

## 板書例

- ① 題材名「スーホの白い馬」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 教科書を音読させる。  
「場面の様子を思い浮かべながら読もう。」

スーホの白い馬

ぜん文をよんでお話のあらすじをつかもう

○ばめんのようすを思いうかべながら 読もう

○馬頭琴はどんながっきだろう。

・モンゴルのがっき

・がっきのいちばん上が、馬の頭の形

○ばめん分けをしよう。

前書き

一 スーホのしょうかい

二 白い馬との出会い

三 ひつじをまもる白い馬

四 けい馬の大会

五 にげ出す白い馬

六 白い馬のし

七 馬頭琴を作ったひく

後書き

◇ぜん文を読んで心にのこったことを書こう。

白い馬が、かわいそうだった。

馬頭琴の音を聞いてみたい。

- ④ 馬頭琴についてどんな楽器か考えさせる。
  - ・場面分けをさせる。

- ⑤ 感想を書かせる。  
友達の感想と自分のを比べて、友達のいいところを見つけさせる。

- ⑦ 次時の予告をする。





# スーホの白い馬

記入見本例

二年 組 名前（

ぜん文を読んでお話のあらすじをつかもう。

ばめんのようすを思いうかべながら読もう。

馬頭琴はどんながつきだろう。

- ・モンゴルのがつき
- ・がつきのいちばん上が、馬の頭の形

ばめん分けをしよう。

## 前書き

- 一 スーホのしょうかい
- 二 白い馬との出会い
- 三 ひつじをまもる白い馬
- 四 けい馬の大会
- 五 にげ出す白い馬
- 六 白い馬のし
- 七 馬頭琴を作ってひく

## 後書き

ぜん文を読んで心にのこったことを書こう。

白い馬が、かわいそうだった。

馬頭琴の音を聞いてみたい。

新しいかん字をべんきようしよう。

「北」「牛」「引」「売」「弱」

# 76

題材名 「スーホの白い馬」②（第2時／全3時間）

目標 場面の様子を想像しながら読み，感想を話し合う。

領域名 C 読むこと

## 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「スーホの白い馬」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「心にのこったことをつたえ合おう」 ・ワークシートを配布し，目標を書き込ませる。	・本時の目標を知る。 ・ワークシートに書き込む。
展開 33分	③ 教科書を音読させる。 ・教師が読む 全員で読む。 ④ 場面ごとに感想を交流しあわせる。 ・板書で整理する。その際、このあとの児童の感想を書き込みができるように、行間をあけておくとよい。	・音読をする。 ・場面ごとに感想を発表する。 ・友だちの感想を聞く。
終末 2分	⑤ 宿題を伝える。 ・『すらすら読み』できるように音読の練習を家庭でさせる。 ⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は登場人物に手紙を書きます。」	・宿題を知る。 ・次時の見通しを持つ。

## 指導のポイント

### ○ 感想の発表について

- ・発表の際に，文型を意識して発表させる。

「わたしは、～の場面が心に残りました。」

「理由は，～だからです。」

「その場面で，～と思いました。」

同じお話を聞いても感想はいろいろと出てきたことに気づかせるとともに，自分の読みを大切することを伝える。

### ○ 読み取りのポイントについて

- ・スーホがどんな少年であったかという点では，スーホが貧しい羊飼いの少年であること，年取ったおばあさんと二人暮らしだったこと，働き者でみんなに好かれていたことなどを押さえる。
- ・白馬との結びつきについては，ふだんのスーホの愛情にこたえようと，貧しい羊飼いのスーホが生活していく上で，貴重な羊を守るために命をはってオオカミと戦っていたことで分かる。また，そのことを理解しているスーホの深い感謝の気持ちも「よくやってくれたね。白馬。本当にありがとう。これから先，どんなときでも，ぼくはおまえといっしょだよ。」という言葉からも想像できるであろう。
- ・殿様の人物像については，スーホが貧しい身なりの羊飼いであったことから，つらく当たることや，白馬が自分のところから逃げようとしたら，殺そうとするほど横暴であることなどが分かる。

## 板書例

- ① 題材名「スーホの白い馬」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 教科書を音読させる。  
「場面の様子を思い浮かべながら読もう。」

スーホの白い馬

心にのこったことをつたえ合おう

○ばめんのようすを思いうかべながら 読もう

前書き

一 スーホのしようかい

はたらきものだな。

二 白い馬との出会い

子馬は、かわいいだろうな。

白い馬はスーホと出会えてよかったな。

三 ひつじをまもる白い馬

スーホがたすけてよかったな。

白馬はゆうきがあるな。

四 けい馬の大会

スーホがかわいそう。

とのさまに、はらがたつた。

五 にげ出す白い馬

ひどいことをするな。

どきどきした。

六 白い馬のし

そんなにスーホがすきだったんだな。

七 馬頭琴を作ったひく

後書き

かなしいな。

◇すらすら読みをしよう。

- ④ 場面ごとに感想を交流しあわせる。

- ⑤ 宿題を伝える。  
『すらすら読み』できるように音読の練習を家庭でさせる。

- ⑥ 次時の予告をする。

スーホの白い馬

二年 組 名前 (

) W  
76

ばめんのようすを思いいかべながら読もう。

前書き

一 スーホのしょうかい

二 白い馬との出会い

三 ひつじをまもる白い馬

四 けい馬の大会

五 にげ出す白い馬

六 白い馬のし

七 馬頭琴を作ってひく  
後書き

すらすら読みをしよう。

心にのこったことをつたえ合おう。

ばめんのようすを思いうかべながら読もう。

前書き

一 スーホのしようかい

はたらきものだな。

二 白い馬との出会い

子馬は、かわいいだろうな。

白い馬はスーホと出会えてよかったな。

三 ひつじをまもる白い馬

スーホがたすけてよかったな。

白馬はゆうきがあるな。

四 けい馬の大会

スーホがかわいそう。

とのさまに、はらがたった。

五 にげ出す白い馬

ひどいことをするな。

どきどきした。

六 白い馬のし

そんなにスーホがすきだったんだな。

七 馬頭琴を作ってひく

後書き

かなしいな。

すらすら読みをしよう。

題材名 「スーホの白い馬」③（第3時／全3時間）

目標 登場人物に手紙を書くことができる。

領域名 C 読むこと

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「スーホの白い馬」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「とうじょう人ぶつに手紙を書こう。」 ・ ワークシートを配布し、目標を書き込ませる。	・ 本時の目標を知る。 ・ ワークシートに書き込む。
展開 33分	③ 教科書を音読させる。 ・ 教師が読む 全員で読む。 ④ 登場人物を確認させ、手紙を書かせる。	・ 音読をする。 ・ 登場人物を確認し手紙を書く
終末 2分	⑤ 手紙を交換して読ませる。 ・ 感想を発表させる。 ⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は『すてきなところをつたえよう』を学習します。」	・ 手紙を交換して読む。 ・ 感想を発表する。 ・ 次時の見通しを持つ。

### 指導のポイント

#### ○ 手紙について

- ・ 登場人物に手紙を書かせることで、学習のまとめとする。一番強く心に残った登場人物にあてて手紙を書かせる。そのとき、自分の思ったことと理由を書くようにさせる。マス目の入った用紙を用意しておく友達と交換して見合いやすい。

#### ○ 音読の家庭学習について

- ・ ただ音読するのではなく、「スーホの白い馬」がどんなお話なのか、どんなことに気を付けて読むのかななどを伝えてから読むようにするとよい。また、聞いてもらった相手に、感想を書いてもらうようお願いをしておく、児童の喜びは大きい。

#### ○ 異文化について

- ・ 世界の民話や物語に親しむことによって、その国の人の思いや暮らし、日本との違いや国や世代を超えた人間共通のものを発見することができる。海外に暮らす児童にとって、より実感しやすい異文化体験であろう。

- ① 題材名「スーホの白い馬」を黒板に書く
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
  - ・ワークシートを配布し、めあてを確認する。

- ③ 教科書を音読させる。  
「場面の様子を思い浮かべながら読もう。」

スーホの白い馬

心にのこったことをつたえ合おう

○ばめんのようすを思いうかべながら 読もう

○このお話のとうじよう人ぶつはだれだろう。

一人えらんで、手紙を書こう。

○スーホへ

どんなときでも、白馬といっしょだよとやくそくしたのに、とのさまに白馬をころされてつらかったね。白馬に教えられて、馬頭琴を作ったから、またすぐわきにいるような気もちになるんだね。

○白馬へ

スーホと楽しくくらしていたのに、ころされてくやしかったね。でも、馬頭琴になって、今でもモンゴルの人に親しまれているんだね。

○とのさまへ

とのさまは、スーホから白馬をとり上げて、やくそくをやぶりましたね。そんなとのさまに、国の人をはがっかりするでしょう。

◇友だちと手紙をこうかんして読み合おう。

やさしい手紙を書いていた。

本当に、こんな手紙がとどくとうれしい。

- ④ 登場人物を確認させ、手紙を書かせる。

- ⑤ 手紙を交換して読ませる。
  - ・感想を発表させる。

- ⑥ 次時の予告をする。







# 78

**題材名** 「すてきなところをつたえよう①」（第1時／全3時間）

**目標**

丁寧な言葉と日常使用する言葉との違いに気をつけて書くことができる。

「書くこと」において、経験したことから書くことを見つけ、伝えたいことを明確にすることができる。

「書くこと」において、自分の思いが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。

「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文の続きを確かめることができる。

**領域等** B 書くこと

**学習の流れ**

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「すてきなところをつたえよう」を黒板に書く。 ・ワークシートを配る。 ② 本時の目標を黒板に書く。 思いをつたえる手紙を書こう。 ・声に合わせて目標を読ませる。 ・ワークシートに書かせる。	・本時の目標を知る ・声を合わせて目標を読む ・目標をワークシートに書く
展開 38分	③ P127を範読する。 ・学習の見通しをもたせる。○ ① 1年をふりかえって、つたえることをきめる。 ② 手紙を書く。 ③ 手紙を読みかえす。 ④ 手紙を読んでへんじを書く。	・P127の範読を聞く ・学習の見通しをもつ
終 2分	④ P128の絵を見させ、1年を振り返り、友だちがしたことや一緒にしたことを思い出させワークシートにメモさせる。◎ P129を範読する。 ・にしのゆうやさんへのメモを読む。 ・だれに伝えたいか ・どんな素敵なことをとところを伝えたいか ・素敵だと感じた時のこと ⑤ P132の新出かん字の練習をさせる。 児童へ背を向けて書き順に気をつけて書く。 ・ワークシートを回収する。 ⑥ 次時の予告をする。 次回は今日のワークシートを参考にして『すてきなところを手紙に書いてみます。』	・P128の絵を見て1年間を振り返る ・友だちの素敵だなと思ったことを思い出す ・誰にどんな素敵な内容を伝えたいかをワークシートへ書く ・かん字をワークシートに書く ・先生へワークシートを提出する ・次時の見通しを持つ

**指導のポイント**

- ・手紙が届かない児童がいないように配慮する。
- ・補習校では学習する児童数の違いがあるので人数が少ない場合は、2通目は家族へ当てた手紙など工夫する。
- ・手紙用のワークシートは児童の書く能力に合わせて書かせる。
- ・誰かの良い点をどんな時に発見し、その内容を文字に記すことができるようにする。
- ・書いた分を自らが点検し誤りに気づき、訂正できる力をつける。

## 6 板書例

①題名材「すてきなところをつたえよう」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・「思いを伝える手紙を書こう。」
  - ・ワークシートを配付し、書き込ませる。
- ③ P127を読み、学習の進め方を確認する。  
P128を読み、絵を見て、1年を振り返らせる。

④P129を読み、誰に、どんな素敵な所、素敵だと感じた時、ワークシートに書かせる。

すてきなところをつたえよう  
思いをつたえる手紙を書こう

⑤P132 新出漢字をワークシートへ練習させる。

⑥次回はすてきなところを手紙に書いて渡しましょう。

「ねん」「くみ なまえ」「  
がくしゅうのめあて」

一年をふりかえって、つたえることをきめましょう

だれに ( )  
すてきなところ  
〔 〕  
そうかんじたときのこと


だれに ( )  
すてきなところ  
〔 〕  
そうかんじたときのこと


だれに ( )  
すてきなところ  
〔 〕  
そうかんじたときのこと


だれに ( )  
すてきなところ  
〔 〕  
そうかんじたときのこと


かん字を書きましよう

計
直

二ねん「くみ なまえ」  
がくしゅうのめあて

思いをつたえる手紙を書こう

一年をふりかえって、つたえることをきめましょう

だれに ( にしの ゆうや さん )  
すてきなところ  
[ やさしい ]  
そうかんじたときのこと

・ 計算を教えてくれた
・ 1年生がころんだとき、ほけん室につれて
いってくれた。

だれに ( ささき まな さん )  
すてきなところ  
[ サッカーをがんばっている ]  
そうかんじたときのこと

・ 朝のスピーチでサッカーのれんしゅうを
ずっと休んでいないと言った。

だれに ( )  
すてきなところ  
[ ]  
そうかんじたときのこと


だれに ( )  
すてきなところ  
[ ]  
そうかんじたときのこと


かん字を書きましよう

計
直

# 79

## 題材名 目 標

「すてきなところをつたえよう②」（第2時／全3時間）

丁寧な言葉と日常使用する言葉との違いに気をつけて書くことができる。

「書くこと」において、経験したことから書くことを見つけ、伝えたいことを明確にすることができる。

「書くこと」において、自分の思いが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。

「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文の続きを確かめることができる。

領域等 B 書くこと

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「すてきなところをつたえよう」を黒板に書く。 本時の目標を黒板に書く。 手紙を読んで、へんじを書こう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標を知る</li> <li>・声を合わせて目標を読む</li> <li>・範読を聞く</li> <li>・良い点を考え発表する</li> </ul>
展開 38分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声に合わせて目標を読ませる。</li> <li>P129②を範読する。</li> <li>・P130やすだれいさんとなかはらけんさんの手紙の良いところを考えさせ発表させる。</li> <li>・「素敵なおところがわかりやすく書いている」</li> <li>・「いつ、どこで、どんなをしたことがすてきだったのかを書いている」</li> <li>・「自分の気持ちも書いている」</li> <li>・「一緒にやりたいことを書いている」</li> <li>・「最後をお願いを書いている」</li> <li>・P131の女子と男子の吹き出しを範読する。</li> </ul>	
終 2分	④ P131③を範読する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時のワークシートから手紙の内容を考え書く</li> <li>・手紙を書くときは静かの書く</li> <li>・書いた手紙を点検する</li> <li>・先生へ手紙を提出する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手紙を書き終わったあとの点検する内容を理解させる。</li> <li>・前時のワークシートと手紙用紙を配布する。</li> <li>・手紙を書くときは静かな環境で書かせる。（サイレントタイム）（手紙タイム）○◎</li> <li>⑤ 手紙を書き終えた人はP131③の内容を点検させる。◎</li> <li>・点検が終わった児童は教師へ手紙を提出させる。</li> <li>・次の授業まで教師が保管する。</li> <li>・全員に手紙が送られているかを確認する。（次回に返事カードを記入する活動がある。）</li> </ul>	
	⑥ 次回は今日書いた手紙を渡し合い読みます。そして手紙のお返事を書きます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の意欲を高める</li> </ul>

### 指導のポイント

- ・手紙が届かない児童がいないように配慮する。
- ・補習校では学習する児童数の違いがあるので人数が少ない場合は、2通目は家族へ当てた手紙など工夫する。
- ・手紙用のワークシートは児童の書く能力に合わせて書かせる。
- ・誰かの良い点をどんな時に発見し、その内容を文字に記すことができるようにする。
- ・手紙を書かせるときは、落ち着かせて集中して書く環境を作る。
- ・書いた手紙を点検する態度を育てる。

## 板書例

①題名材「すてきなところをつたえよう」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・「手紙を読んで、へんじを書こう。」板書し児童へ読ませる。
- ③P129②を読む。P130を読み、良い点を考えさせ発表させる。
- ・P131 女子、男子 吹き出しを読む。

- ④131③を範読する。
- ・前時のワークシートと手紙用紙を配布する。
- ⑤手紙を書く、書き終えた児童には点検させる。
- ・書き終えた手紙を提出させ、全員に行きわたるか確認する。

すてきなところをつたえよう  
手紙を読んで、へんじを書こう

- ⑥次回は今日書いたお手紙をお互いに渡し合い  
手紙を読みます。  
そしてお手紙のお返事を書きましょう。





二ねん「くみ なまえ」

にしのゆうやさん

ゆうやさんのすてきなところは、いつもやさしいところだと思います。

ろう下で一年生がころんだとき、ゆうやさんは、すぐに声をかけて、ほけん室につれていってあげていました。わたしは、どうしようと思いつながら見ていただけだったので、すてきなと思いました。

これからもやさしいゆうやさんでいてくださいね。

やすだ れい

# 80

## 題材名 目 標

「すてきなところをつたえよう③」（第3時／全3時間）

丁寧な言葉と日常使用する言葉との違いに気をつけて書くことができる。

「書くこと」において、経験したことから書くことを見つけ、伝えたいことを明確にすることができる。

「書くこと」において、自分の思いが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。

「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文の続きを確かめることができる。

領域等 B 書くこと

### 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「すてきなところをつたえよう」を黒板に書く。	
展開 38分	② 本時の目標を黒板に書く。 手紙を読んで、へんじを書こう。 ・声に合わせて目標を読ませる。	・本時の目標を知る ・声を合わせて目標を読む
	③ P132 <sup>4</sup> を範読する。 ・にしのゆうやさんの返事の良いところを考え発表させる。 ・ささきまなさんの返事の良いところを考え発表させる。 「お礼を伝えている」「相手の良いところを書いている」 「手紙をもらったときの気持ちを書いている」 「一緒にやりたいことを書いている」	・範読を聞く ・教科書P132 <sup>4</sup> のお返事の良い点を発表する
	④ 教師から児童へ手紙を戻し、児童から児童へと手紙を渡させる。 ・手紙を読まる。（サイレントタイム）（手紙読みタイム）○	・手紙を渡す ・自分がもらった手紙を静かに読む
終 2分	⑤ 手紙を読み終わった児童はお返事カードをもらいに来させる。 ・お返事カードに手紙を読んで思ったことや相手の良いところを書かせる。◎ ・お返事カードを配らせる。 ・お返事カードを読ませる。	・お返事カードを先生からもらう ・お返事を書く ・カードを配る ・カードを読む
	⑥ 手紙を書いたり、もらったりしてみて、どんな気持ちになったかを質問する。	・質問を考える ・考えを発表する
	⑦ 2年生の国語の学習は終わりです。 ・2年生の国語の楽しかったところはどんなところですか。 ・3年生でも楽しく国語を学習しましょう。	・2年生の感想を発表する ・3年生への希望をもつ

### 指導のポイント

- ・手紙が届かない児童がいないように配慮する。
- ・補習校では学習する児童数の違いがあるので人数が少ない場合は、2通目は家族へ当てた手紙など工夫する。
- ・手紙用のワークシートは児童の書く能力に合わせて書かせる。
- ・誰かの良い点をどんな時に発見し、その内容を文字に記すことができるようにする。
- ・手紙を読ませるときは、落ち着かせて読ませる環境を作る。
- ・手紙や返事を交換し合い、より良い人間関係を築く。

## 板書例

①題名材「すてきなところをつたえよう」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。  
・「手紙を読んで、へんじを書こう。」板書し児童へ読ませる。
- ③ P132<sup>4</sup>、返事カードを読み、良い点を考えさせ発表させる。
- ④ 前時に書いた手紙を渡し合わせる。  
・手紙を静かに読む。

⑤手紙を読み終えた人へお返事カードを配り書かせる。お返事カードを交換し合う。

すてきなところをつたえよう  
手紙を読んで、へんじを書こう

⑥手紙を書いたり、もらったりしてみて、どんな気持ちになったのかを質問する。

- ⑦ 2年生の国語が終わったことを伝える。  
2年生で楽しかったところを発表させる。  
3年生でも楽しく学習するように期待をもたせる。



やすだ れい さん

お手紙をありがとうございます。

れいさんは、いつも元気な声であいさつ  
しているところがすてきです。

にしのゆうや

なかはら けんとさん

スピーチをおぼえていてくれて、  
うれしかったです。いっしょに  
サッカーをするのが楽しみです。

ささき まな